

# 令和2年度 シラバス

第2学年  
普通科  
研志コース

鳥取城北高等学校

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(キャリア公務員・保育)	履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</li> <li>文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わう。</li> <li>様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。</li> <li>語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに文体の表現上の特色をとらえる。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとつたりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読みだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	
教科書、教材など	新高等学校現代文B(明治書院)新高等学校現代文B 学習課題ノート(明治書院)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年 間 授 業 計 画						
学期	月	單 元	單元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評 価
1	4	「月あかり雪あかり花あかり」 「詩を翻訳する少	随想の読み方を習得する。 自己表現について主体的に考え、実行していく契機とする。	自分の体験にひきつけて読み解く。 自らの言語生活を振り返ってみる。	9	授業態度・発問評価・指名音読みノート・学習課題ノートの提出 授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	5	「山月記」「赤い繭」	近代・現代小説の名作に触れ、自分にひきつけながら読む態度を養う。	短編小説の舞台設定、構成、構造、文体の特徴をつかみ、登場人物について的確に読み取る。	9	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	6	「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」	小説の特徴を掴み、その特徴を生かした物語の構造について理解を深める。	書き分けられた表現について考える。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
		「心の鉱脈」「幸福について」	論理的な文章の読み方を習得する。 日常生活の心理を見つめ直し、それらが与える影響について考える契機とする。	文章から筆者のものの見方、考え方、感じ方を読み取る。 論理の展開や要旨を的確に捉え、各自の問題として考える。		授業態度・発問評価・指名音読みノート・学習課題ノートの提出 授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出

	7	「旅上」  「永訣の朝」  「弟に速達で」	詩にこめられた情景や心情を読み取る。  詩にこめられた作者の思いを読み取り、言語に対する感性を磨く。現代詩の鑑賞のしかたを習得する。	韻律に注意し、描かれた情景や心情にふさわしい朗読を工夫する。  文体や修辞技法などの表現の工夫からその特色と効果を考える。	12	授業態度・発問評価・指名音読 ノート・学習課題ノートの提出
2	8	「愛づる 時間を見つめる」	古語の「愛づる」の意味を現代の視点で分析し、「生きること」の本質を見つめ直す。	副題の意味を全体を通して読み解く。	3	授業態度・発問評価・指名音読 ノート・学習課題ノートの提出
	9	「宇宙では『上』も『下』もない？」  「ロボットとは何か」	論理的な文章を読むことで、学習者自身が問題意識を見出す。  日常生活で当たり前のものを、社会的な視点で捉え直す。	発想を転換して、新鮮な視点から物事を捉える。  提起された問題を筆者がどのような視点で考察しているか捉える。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	10	「ナイン」  「白紙」	作品の主題を理解し、人や人生に対する見方を深める。  小説世界を自己のもの見方や考え方で引きつけて考える。	地域社会の暮らしと人情について実感をもって文章を味わう。  私の思いや最後の言葉に込められた気持ちについて話し合う。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	11	「コンコルドの誤り」  「通潤橋 橋と日本人」	要旨や構成を把握し、それらを個人的な経験と結び表現活動を行う。  随想と評論の特色を併せ持った文章を読み、理解して味わう。	具体例や対比の表現などから筆者の主張をとらえる。  科学者と歴史家の目を備え、広い視野に立つ論考を理解する。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	12	「風が来てささやくやうに」  「いきいきとほそ目かがやく」  「絵はすべて人の創るもの」	近現代の代表的な作者の作品を鑑賞することで、短歌・俳句を自作する参考にする。  辞書的な意味から離れ、多様な意味を持つ言葉を理解する。	文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう。  個性について、自分自身の考えを持つ。	12	授業態度・発問評価・指名音読 ノート・学習課題ノートの提出
3	1	「『間』の感覚」	東西の文化を比較して日本文化を相対化しつつ捉え、特異性を理解する。	対比によって論点を明確にしていく論じ方を学び、比較文化論の観点から認識を深める。	6	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	2	「美を求める心」  「こころ」	同じ主題を別の視点から読み解き、視野を広げて考える。  作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。	自ら具体例を考えて読み解く。	9	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	3	「報道文と判決文」「企画書を書く」	実用的な文章について学び、日常的具体的な表現活動に役立てる。	登場人物の生き方と、自己の生き方とを対比して、考えたことを自分の言葉でまとめ発表する。  自分の考えがよく伝わるように論拠を明示して、わかりやすく表現する。	9	授業態度・発問評価 文の提出

教 科 名	地理歴史	科 目 名	世界史A	単位数	2 単位	
対 象 学 年	第 2 学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修	
科 目 の 目 標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。					
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a.关心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.資料活用の技能	d.知識・理解		
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。		
教科書、教材など	教科書 明解 世界史A（帝国書院） 副教材 明解 世界史Aノート（帝国書院）					
授業形態	講義形式・グループ学習（学級単位による授業）					
年 間 授 業 計 画						
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 習 内 容 (実験・実習等)	時 间	評 価
1	4	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり  1節 東アジアの文明	各地域世界が形づくられていく過程を理解する。  東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。  東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。	6	【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。  【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。

5	2節 南アジアの文 明	南アジアの文明の特質を理解する。	南アジアの風土と諸民族と宗教。仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響。	6
	3節 東南アジア	東南アジアの特質を理解する。	自然環境や地理的位置に着目。インドと中国の両文明の影響の様子。それぞれの地域での多様な社会と文化。	【関】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	4節 西アジア・北アフリカの文明	西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	西アジア・北アフリカの風土と諸民族。イスラームの成立と拡大・分裂。	【関】西アジア・北アフリカについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、西アジア・北アフリカの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】西アジア・北アフリカがの成立とその特色、地域的な拡大と独自の世界の形成について、イスラーム国家の柔軟性やムスリム商人の役割などを把握し、基本的知識を身につけている。
	5節 ヨーロッパの文明	ヨーロッパの文明の特質を理解する。	ヨーロッパの風土と諸民族。ギリシア・ローマ文明の伝統。キリスト教の発展。封建社会。	8
	6節 南北アメリカの文明	南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	南北アメリカ大陸の風土と先住民。ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸独自の文化。	【関】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	7節 ユーラシアの交流圏	ユーラシアの交流圏が成立していくようすを巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	ユーラシア規模の交流圏が成立していくようす。	【関】ユーラシアの交流圏に対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海域(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。

	7	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。	8	【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
2	8	2節 大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まつた世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まつた主権国家体制の形成。	2	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパによる征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	8	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを判断して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを考察する技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。	
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。 アジア諸国の動揺のようすを理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。 オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	8	【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃のを資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。  【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	

	11	4節 東アジアの大変動	東アジアの大変動を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。	8	<p>【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する关心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。</p> <p>【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中の日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけていく。</p> <p>【関】19世紀社会の急激な変化と世界の一体化に対する关心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類的視野から考えようとしている。</p> <p>【思】考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】20世紀という時代の特質を人類的視野から把握するとともに、人口移動から世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解しその知識を身につけていく。</p>
	12	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀初頭の変化の様相を理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。	8	<p>【関】第一次世界大戦、平和の意義などに対する关心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。</p> <p>【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけていく。</p>
3	1	3節 “民族自決”を求めて	“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。	4	<p>【関】民族運動に対する关心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。</p> <p>【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけていく。</p>
		4節 経済危機から第二次世界大戦へ	第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	第二次世界大戦。及ぼした影響。平和の意義。国際政治、国際関係の変遷と社会の特質。		<p>【関】戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。</p> <p>【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。</p> <p>【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。</p> <p>【知】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、平和の意義について理解し、その知識を身につけていく。</p>

2	<p>2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代</p> <p>2節 冷戦終結への道のり</p>	<p>第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。</p> <p>米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。</p>	<p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。</p> <p>米ソ冷戦の終結。世界の変容。</p>	6	<p>【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけている。</p> <p>【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】市場経済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。</p> <p>【関】これからの国際社会における日本の役割、共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。</p>
3	3節 地球社会への歩み	日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これから国際社会における日本の役割について考察する。	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向。これからの国際社会における日本。	6	

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	単位数	2単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学以外)	履修形態	必修
科目の目標	①近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く ②近現代の日本史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する ③近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける ④主体的な歴史学習を通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える				
学習内容の概要	第1章から第5章では、19世紀の世界の動向を受けて開国し、近代社会を成立させ、それを発展させていった日本の動きを学習する。第1章では国際環境の変化の中で進展した日本の近代化について、第2章では変動する東アジア世界における日本の動きについて、第3章では二つの世界大戦をめぐる国際情勢の中における日本について、第4章では第二次世界大戦後に形成された国際社会における日本の復興について、第5章では現代の世界と日本の動きについて学習する。各章末にはその時代の暮らしや文化を概観できるページを設けている。学習した内容を振り返り、政治や経済の変化が人々の暮らしや文化にもたらした影響について考える。各章末の「学習のまとめ」には課題を設定しているので、課題に取り組むことを通してそれぞれの時代への理解を深めていく。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意義に気付き、関心を持って学習に取り組めているか。 現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者として自覚を持って考える態度を身に付けているか。	近現代日本史の展開から課題を見出し、世界史や国際環境と関連づけ、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 歴史的に形成された諸課題を様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。	近現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができる。 得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けていているか。	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。 近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連づけて理解しているか。	
教科書、教材など	東京書籍「日本史A」(日A308)、日本史Aワークノート(東書)				
授業形態	講義形式				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容	時間
1	4	第1章 近代日本の形成 1. 国際情勢の変化と明治維新	資本主義体制の発達した列強諸国が、市場と原料を求めてアジアへ進出すると、アジアではそれに抵抗する動きが起つたことを学ぶ。  ペリーの来航により、幕府の鎖国政策が破綻し、日米修好通商条約を調印するまでの経緯を学ぶ。	内憂外患に苦しむ日本では、老中水野忠邦による天保の改革が失敗し、幕府の権威が失墜する中、財政改革や富国強兵に成功した雄藩が成長したことを学習する。  開国と貿易による幕末の経済や社会の混乱について学習する。	6 地図を利用して、列強各国の植民地の位置関係を確認・理解しているか。  グラフから1860年前後の貿易の概要を読み取れたか。
	5				各派の動きや列強の動向を年表に整理し、それぞれの関連について考察できたか。
	6	2. 明治新政府の諸改革	薩長同盟の成立から戊辰戦争までの経緯を学び、新政府が徳川氏とそれを支持する勢力を排除したことを学ぶ。	横浜と上海が、諸外国との窓口として発展した経緯を学び、東アジアの近代化の特徴について学習する。  開国後の政治の主導権をめぐる幕閣、雄藩、尊王攘夷派による争いの経緯を学習する。	大政奉還後に戊辰戦争が起きたのはなぜか考察できたか。
				8 近代化の一方で、小作農が土地所有者に従属し、重い現物小作料を納める関係が残されたことを理解しているか。	

			岩倉使節団を派遣し欧米に学ぼうとした政府が、東アジア諸国に対して軍事力を用いながら交渉を進めた経緯を学ぶ。	政府が明治初期から、琉球に対して強圧的な態度を取り西の国境を画定していく一方、ロシアとは交渉により国境を画定していくことを学習する。	地図を活用し、当時の国境画定と現在の国土との関係について理解しているか。
	7	3. 立憲国家の成立	明治六年の政変後、不平士族を中心が始まった自由民権運動が豪農層に広がり、私擬憲法が盛んに作られるなど活発化すると、政府内部にも国会の開設をめぐる対立が生じ、国会開設の勅諭が出される事態となった経緯を学ぶ。	松方財政で銀本位制が確立し、都市に流入する労働者が増え、資本主義発達の基礎が整ったことにより、紡績や鉄道、海運等の近代産業が急速に発達したことを学習する。	8 地図を利用し、激化事件が頻発した地域の特性を理解できたか。
2	8		初期議会における民党と政府との対立の推移、条約改正交渉が国際情勢の変化の中で進展したことを学ぶ。	大日本帝国憲法が制定され諸法典が編纂される経緯と、大日本帝国憲法の特徴(欽定憲法・天皇大權等)を学習する。	2 政府と民党の主張を整理し、初期議会の対立が激しくなった理由を理解できたか。
	9				8
		第2章 東アジア世界の変動と日本 1. 日清戦争と近代社会の確立	日清戦争の経過と下関条約の内容を関連づけて学び、日清戦争を経て、日本・清・朝鮮の関係がどのように変化したか学ぶ。	議会運営のために藩閥と政党が接近し政党の政治的影響力が高まる一方で、軍部大臣現役武官制が定められ、政党の力を制限しようとする動きがあった。戦争を経験することで国民意識の形成が促されたことを学習する。	地図を用いて、日清戦争の主な戦場が朝鮮半島から遼東半島・山東半島に広がっていったことを理解できたか。
10	2.	日露戦争と帝国日本の形成	列強による中国分割が進む過程で日本とロシアの対立が生じ、日英同盟が結ばれたことを学ぶ。	朝鮮・満州における利権をめぐって日露戦争が起こり、講和条約を結ぶまでの経緯と、国民の戦争に対する考え方の推移を学習する。 日露戦争後の政治が次第に民衆の要求に答えざるを得なくなっていた経緯を、社会主義の発達との関連を学習する。	8 日本が台湾、朝鮮を植民地とした経緯とその支配の方針を理解しているか。  辛亥革命により中華民国が成立した経緯とその後の展開を理解しているか。
		第3章 二つの世界大戦と日本 1. 帝国日本と第一次世界大戦	植民地獲得競争の激化により始まった第一次世界大戦の時期に、日本が中国への侵略を進めた経緯を学び、そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について学ぶ。	大正期に労働運動や女性運動などの社会運動が、経済の動向や国際的なデモクラシーの風潮の影響を受けながら組織的に行われるようになつたことを学習する。	二十一か条の要求の内容から、日本が中国侵略を進めたのはなぜか考察できたか。  三・一独立運動と五・四運動において人々が要求したこと学び、民族自決とはなにに着目できたか。  大正期に盛んになった社会運動から、当時の社会にどのような問題があったのか考察できたか。
11	2.	政党政治の時代	第二次護憲運動における護憲三派の主張を学び、政党内閣が憲政の常道となり男子普通選挙が実現した背景を、治安維持法も同時期に成立したこと学ぶ。	関東大震災は深刻な経済的打撃だけではなく、人々の意識や行動にも混乱と変化を与え、軍部の影響力が強まるきっかけとなつたことを学習する。	8 東アジア太平洋地域にワシントン体制が築かれた理由を話し合い、第一次世界大戦後の国際情勢への理解を深められたか。

		3. 軍国日本への道	長く続く不況下で、金融や産業の独占が進み、中国侵略をめざす軍國主義化の機運や社会不安が高まり、さらに世界恐慌の影響を受けた昭和恐慌が起った経緯を学ぶ。	昭和恐慌が深刻化し排外熱が高まる中で、メディアにあおられた国民の支持を受けて満州事変が進んだ結果、昭和恐慌からは回復したものの、日本が国際社会から孤立していく経緯を学習する。	物価や小作争議の発生件数など、いくつかのグラフから昭和恐慌の様相を読み取れたか。
12	4. 太平洋戦争		第二次世界大戦が始まると、ドイツとの同盟を強めることで英米との戦争も辞さないという空気が高まつたことが日米開戦につながつたことを理解し、太平洋戦争の経緯を学ぶ。	大東亜共栄圏の理念と実態について理解し、「大東亜共栄圏」に組み込まれた地域の人々による抵抗について学習する。	8 戦局が悪化した後も戦争を継続させたことが、国内・占領地での過酷な動員や徵発による人々の暮らしの圧迫や、アメリカ軍の本土空襲による大きな被害につながつたことを理解している。
	第4章 第二次世界大戦後の国際社会と日本 1. 現代世界の開幕と日本の戦後改革		沖縄戦の実態を学び、何故住民に大きな被害が出たのか、終戦にいたるまでの日本・アメリカ・ソ連等の動向を学び、アメリカ軍主体の占領が開始された経緯を学ぶ。  戦後社会が直面した危機的な状況を学び、農村や都市で人々が展開した社会運動がめざした内容を学ぶ。	平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方、アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったこと、帝国主義の後退によりアジアやアフリカの諸国が独立したが、冷戦下で独立をめざしたアジア諸国の中には、民族分断を余儀なくされた国があつたことを学習する。  経済再建の優先と労働運動圧迫との関係について学習する。	写真や映像資料を用いて、沖縄戦における住民の被害について理解しているか。これまでの学習を振り返り、なぜそれらの改革が必要だったのか理解しているか。  戦後の危機的な状況の中であつても、自由と平和のもとで人々は活動するようになり、大衆文化が復興したほか、学問や言論の分野でも進展が見られたことを理解しているか。
3	1. 高度経済成長の時代		朝鮮戦争の勃発など東西冷戦が激しくなる中、日本がアメリカ側の諸国のみとサンフランシスコ平和条約を調印し、独立を回復した経緯を学ぶ。	現在にいたるまで諸外国から日本に戦後補償を求める声があがっている理由を学習する。	4 東西冷戦が続く中で防衛力増強に反対する国民運動を抑制するため、政府は教育や社会運動への統制を強め、保守政党が合同し保守派優位のもとで政治を安定させる55年体制が作られた経緯を理解しているか。
2	第5章 現代の世界と日本 1. 国際秩序のゆらぎと経済大国日本		経済成長を優先した結果、公害などの社会問題が生じ、環境や福祉、平和に対する人々の関心が高まり、革新勢力への支持が高まつたことを学ぶ。  石油危機後も輸出を増加させて、欧米諸国との貿易摩擦を抱えながら経済成長を続けた日本経済がバブル経済とよばれる事態になつた経緯を理解し、当時の人々の生活や大衆文化を学ぶ。	1960年代には政府主導の高度経済成長が実現した一方で、開放経済体制への移行が進み、日本の企業が厳しい国際競争にさらされるようになったこと、過疎・過密や公害などの問題も発生したことを学習する。  IMF体制の崩壊と石油危機は、日本だけではなく世界の経済に深刻な影響を与えたこと、その後の世界経済の展開を学習する。	6 高度経済成長が実現したのはなぜか、国内の要因と国際的な要因を理解しているか。  高度経済成長がもたらした変化について話し合い、理解を深めた。
3	2. 冷戦の終焉と日本		1989年に冷戦が終結した後、EUやAPECなどの地域統合・地域協力が目指される一方、東アジアを含む世界各地でナショナリズムが高まり、地域紛争が多発していることを学ぶ。	現在、世界で進んでいるグローバル化の意味を学び、重層化する世界の中で日本が国内外で抱えている課題、果たすべき役割について学習する。	6 バブル経済の崩壊とともに、政官財の癒着を生み出した自民党の長期政権への批判が高まり55年体制が崩壊したことを学び、その後、政界再編や構造改革が目指されてきた経緯を理解しているか。

教科名	数学	科目名	数学I	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志(大学進学クラスを除く)	履修形態	必修	
科目の目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。					
学習内容の概要	《問題演習》					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 数学への関心・意欲・態度 既習内容の全範囲に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	B 数学的な見方や考え方 事象を数学的に考察し表現したり、試行の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、既習内容の全範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	C 数学的な表現・処理 既習内容の全範囲において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	D 数量・図形などについての知識・理解 既習内容の全範囲における基本的な概念、原理・原則などを体系的に理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 最新数学I(数研出版)、改訂版 最新数学A(数研出版) 補助教材:改訂版 3ROUND数学I+A(数研出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	1. 数と式	数学IAの範囲を復習し、基本的な問題の解法を身につける。		6	A/B/C/Dの総合評価
	5	2. 1次不等式			6	
	6	3. 集合と命題			8	
	7	4. 2次関数とグラフ			8	
	8				2	
2	9				8	
	10	5. 2次方程式と2次不等式			8	
	11	6. 三角比			8	
	12	7. 正弦定理・余弦定理			8	
3	1	8. データの分析			4	

3	2	9. 場合の数と確率			6	
	3	10. 図形の性質			6	

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探求する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。内容は代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 観察・実験の技能	D 知識・理解		
	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心をもち、自然現象に対して探求していく態度を身につけている。	生物や生物現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できている。	生物や生物現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力と技術を身につけている。	生物学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:高等学校改訂新生物基礎(第一学習社)					
授業形態	講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1学期	4	生物の特徴	生物は多様であるが、細胞構造などの共通性や、共通の起源を学習する。また、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して生物の代謝とエネルギーの取り出しについて理解する。	生物の多様性と共通エネルギー代謝	6	・生物のもつ特徴としての多様性と共通性、代謝、生物のエネルギーを扱うミトコンドリアと葉緑体について興味関心をもつ。
	5			光合成と呼吸	6	・生物のもつ共通性と多様性が進化に基づくこと、酵素の働きと反応の調節の関係、生命活動にとってエネルギーとはどのようなものかを理解している。
						・原核生物と真核生物、カタラーゼによる過酸化水素の分解、葉緑体の観察を行う。
						・細胞構造の生物の共通性、生命活動の中で酵素やATPがどのような役割を担っているのか、呼吸と光合成の内容を理解する。

	6 7	遺伝子とその働き  DNAの構造、遺伝情報は塩基配列であることを理解し、タンパク質合成について学習する。また、遺伝子の複製と発現について学習する。	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	8	・遺伝子はDNAであること、転写と翻訳の過程、遺伝情報の分配について興味関心をもつ。  ・塩基配列に遺伝情報があるということ、タンパク質とDNAの関係、遺伝情報の発現と細胞の分化の関係を考察する。  ・試料からDNAを抽出する方法、だ腺染色体の染色方法、細胞周期の各時期の時間の推定方法を学ぶ。  ・DNAの構造、アミノ酸の配列によるタンパク質の決定、DNAの分配を理解する。	A B C D
2 学期	8 9 10	生物の体内環境と恒常性  恒常性のしくみについて理解し、循環系、肝臓と腎臓、自律神経系、内分泌系、免疫について学習する。	体液という体内環境  腎臓と肝臓  神経とホルモンによる調節	2 8 8	・体内環境、自律神経系とホルモンによる調節作用、生体防御のしくみについて探求しようとする。  ・体液とはたらき、腎臓と肝臓の機能、自律神経とホルモンが協同で作用する調節のしくみ、自然免疫と獲得免疫について説明できる。  ・腎臓の構造、運動による心拍の変化、赤血球の正確な細胞像を観察できる。	A B C
	11 12	植生の多様性と生態系  植生について、構造や遷移のしくみを理解する。また、世界と日本のバイオームと気温と降水量の関係を学習する。	さまざまな植生  植生の遷移  気候とバイオーム	8 8	・内部環境とその恒常性の維持について、尿生成の重要性、血糖濃度や体温についての恒常性のしくみ、自然免疫と獲得免疫の機構を理解する。  ・森林では階層構造を形成すること、植生遷移について、植生と環境のかかわりについて興味関心をもつ。  ・植生の特徴をとらえることができるか、植物どうしの資源をめぐる競争、バイオームの分布について考察する。  ・土壤にどのような種子が存在するか、照葉樹と夏緑樹の違いをまとめることができるか。	A B C

					・遷移が起きるしくみ、バイオームが気温と降水量の違いに起因する、身近な植生を理解する。	D
3 学 期	1 2 3	生態系とその保全  生態系の成り立ち、物質とエネルギーの循環について理解する。その上で、生態系と環境問題について学習する。	生態系  物質循環とエネルギーの流れ  生態系のバランス  人間活動と生態系の保全	4 6 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系とは何か、生態系での物質やエネルギーの移動、生態系におけるバランス、生態系における人間生活の影響について興味関心をもつ。</li> <li>・作用と環境形成作用や相互作用がどのようなものであるのか、生態系のエネルギー移動、生態系のバランスが保たれるしくみ、そのバランスが人類の活動でどのように変化しつつあるのかを理解できているか。</li> <li>・土壤動物であるミズのはたらき、イオン濃度を適切に調べられるか、身近な外来生物をインターネットで調べることができる。</li> <li>・生態系を1つのまとまりとして捉えることができるか、窒素循環や窒素固定などについての理解、生態系のバランス、これまでの学習を通じて得た知識を活用して、環境問題について保全の方法を具体的に考えることができる。</li> </ul>	A     B     C     D

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修	
科目の目標	○心と体の成長 ○各種の運動に取り組むことで、生涯体育への意識を身につける ○安全面に配慮し、ケガや病気をせずに健康的な生活を送る習慣を身につける					
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、自ら進んで計画的に運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的なを行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行き方を理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	特になし					
授業形態	実技(男女別合併授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察
	5	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようする。	運動とスポーツの技術と技能。技能の上達。技能と体力関係。	6	授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間) 授業中の行動の観察 実技テスト
	5	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	実生活に生かす様々な体ほぐしの運動を組み合わせて行う。	6	診断テスト結果
	6	新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	6	陸上競技	自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。	各種目の基本技能の習得。	8	
	7	バレーボール ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
2	8				2	
	9				8	
	10	サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	チームが目指す目標に応じたチームや事故の課題を設定し、ゲームが出来るようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	11	バスケットボール			8	
	12				8	

3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作が出来るようとする。	4	授業中の行動の観察 実技テスト
	2	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と楽しく踊ったりし、発表できるようとする。	ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようとする。	6	授業中の行動の観察 作品の評価
	3					※ 年間を通しての出席状況

教科名	保健体育	科目名	保健	単位数	1単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めないようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	<p>②生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、およびわが国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。	健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。	
教科書、教材など	教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)				
授業形態	教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習				

#### 年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	単元2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	思春期における体の変化と心の発達にかかる健康課題を理解する。	性ホルモン、生殖器の発達  精神的な不安定	3	
	5	②性への関心・欲求と性行動	性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。	セクシュアルハラスメント 性情報と性行動	3	
	6	③妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を理解する。	母子健康手帳 母子保健サービス	3	
	7	④避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法を理解し、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響を理解する。	家族計画 人工妊娠中絶	4	
	8	⑤結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について理解する。	性機能の成熟 精神面での発達 健康状態の把握	4	
	9	⑥中高年期と健康	中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みを理解する。	健康診断 生きがい ノーマライゼーション	1 4	定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
		⑦医薬品とその活用	医薬品の正しい使用法について理解する。	医療用医薬品 自然治癒力 お薬手帳		

10	⑧医療サービスとの活用  ⑨保健サービスとの活用	医療サービスをうける時の留意点を理解する。  保健行政の役割について理解する。	医療保険 インフォームド・コンセントとセカンドオピニオン  保健行政 保健サービス 健康相談	4
11	⑩さまざまな保健活動や対策  単元3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康	民間や国際機関などの保健活動や対策について理解する。  大気汚染の原因とその健康影響を理解する。	日本赤十字社の取組み WHOの取組み ヘルスプロモーション  大気汚染物質 ダイオキシン 地球温暖化	4
12	②水質汚濁、土壤汚染と健康  ③環境汚染を防ぐ取り組み	水質汚濁、土壤汚染の原因とその健康影響を理解する。  今日の環境汚染の特徴を理解する。	重金属 有機物 富栄養化  排出基準 環境基本法 産業廃棄物 環境負荷	4
3	④ごみの処理と上下水道の整備  ⑤食品の安全を守る活動  ⑥働くことと健康	ゴミの処理の現状や、その課題について理解する。  食品の安全のため、消費者が行うべきことを理解する。  働く人の健康問題と労働災害の防ぎ方について理解する。	環境型社会  食品添加物 食品衛生監視委員 食中毒予防三原則  働き方の変化とストレス 労働災害 作業環境 健康管理	2  3  定期検査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
	⑦働く人の健康づくり	職場がおこなう健康増進対策と、余暇の大切さとその活用の仕方について理解する。	メンタルヘルスケア ワークライフバランス 余暇の確保	3

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	1 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。</li> <li>・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。</li> </ul>						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。</li> <li>・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。</li> <li>・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。</li> </ul> <p>また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。</p>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度		芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力		
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。		感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けていく。	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。		
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション アルトリコーダー実技	B♭ C♯の運指を覚える。	二重奏「小さな木の実」	3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。	
	5	6	音楽の歴史と鑑賞	古典派の作曲家とその音楽を理解する。  映画により、モーツアルトについて深く知る。	ハイドン モーツアルト ベートーヴェン  「アマデウス」	3 4 4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。  モーツアルトについてより深く知ることができたか。
	7	8	アルトリコーダー実技	読譜能力を高める。 レガート奏法を身につける。	二重奏「魔弾の射手」 二重奏「愛の喜び」	1 4	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。
	9	10	音楽の歴史と鑑賞	ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	シューベルト メンデルスゾーン J.シュトラウス ショパン	4 4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
11	12	鑑賞	映画と映画中の音楽を味わう。	「陽のあたる教室」	4	映画と映画中の音楽を味わうことができたか。	
3	1	アルトリコーダー実技 鑑賞	F♯ D♯の運指を覚える。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「少年時代」 ドボルザーク スマタナ	2 3 3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。  作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。	

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	1 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンドアート制作…砂を使った絵画技法を学び作画を行う。</li> <li>・水墨画…墨についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・关心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力		
	美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	墨、色砂のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。		
教科書、教材など	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版） スケッチブック、書道セット、サンドアートセット、半紙、和紙					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション	前年の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。  墨の技法について理解し、その特性を生かして作品に取り組む。	「墨を知ろう」  「食べ物を描こう」  「人物を描こう」	3	墨の特性を踏まえ、水墨画の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。
	5	水墨画の世界①			3	墨の明暗を美しく表現し、濃淡の用法を身に付け、表現することが出来たか。
	6				4	
	7				4	
2	8	水墨画の世界②	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。  サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	「北斎漫画とは」 映像学習 「北斎なろう」  「色砂に親しもう」  「模範作品を作ろう」	1	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。
	9				4	
	10	砂絵、サンドアートの世界①			4	砂絵の内容を踏まえ、砂の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。また、練習作品の制作で、技法を身に着けること
	11				4	ができたか。
12		4				
3	1	砂絵、サンドアートの世界①	学習した技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	「オリジナル作品を描こう」	2	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。
	2				3	
	3				3	

教科名	芸術	科目名	書道I	単位数	1単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じりの書…高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。</li> <li>漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通し様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> <li>仮名の書…日本の重要文化である仮名の発生と展開を理解し、また臨書学習を通し様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> </ul> <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。			
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、楷書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①顏氏家廟碑 ②鄭羲下碑 ③牛橛造像記 【創作】 古典を基にした一字創作	3 3 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代、北魏時代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	5	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、行書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①争坐位文稿	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	6						
	7						
2	8	漢字仮名交じりの書②	・学習した古典の用筆法に基づいた表現を行う。 ・感興や意図に基づく個性的な表現の工夫を行う。	「自作の高校生短歌を書こう」	1	短歌制作に意欲的に取り組み、表現においては古典を基にした、感興や意図に応じた表現の工夫ができたか。	
	9				4		
	10				4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、篆書、隸書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	11		漢字の書の学習③ 【篆書・隸書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、篆・隸書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①甲骨文②泰山刻石 ③曹全碑 書道カレンダーを作ろう	4	題材の選定に工夫を凝らし、言葉の内容に沿った自分なりの表現が出来たか。
	12		創作活動			4	
3	1	仮名の書の学習	・仮名の歴史や諸要素を理解する。 ・仮名の用筆法を身に付け、表現する。	基本点画練習 【古筆臨書】 ①高野切第3種 ②寸松庵色紙 【創作】 古筆を基にした半紙創作	2 3 3	日本独自の伝統文化であるかなの歴史や古典の背景を理解するとともに、仮名の基本的な用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	2						
	3						

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	研志コース (キャリア・保育・看護分野)	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。 ② 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすこと。					
学習内容の概要	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。</p> <p>エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	C:外国語理解の能力	D:言語や文化についての知識・理解		
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Revised COMET ENGLISH Communication II					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5	Lesson1 Staying in Space	・宇宙での暮らしと地上との違いを知る。	that-節 相手の発言を確かめる表現 Are you sure?	9 9	A,C,D
	6 7	Lesson2 Doraemon in the U.S.	・アメリカに渡った日本の人気アニメ『ドラえもん』日米での内容の違いを知る。	wantなど+ (人)+ to 不定詞 相手の情報・意見を聞く表現 How about you?	12 12	A,B,C,D
2	8 9	Lesson3 Farm in the Sky	・シンガポールの新しい農法から未来の農業の可能性を考察する。	疑問詞+to-不定詞 言い直す表現 I mean~	3 12	A,B,C

	10	Lesson4 Goal Setting	・「目標倒れ」にならないための効果的な目標設定術を紹介	分詞構文(同時・時・理由) 相手をほめる表現 You did it!	12	B,C,D
	11	Lesson5 The High School Student	・高校生が運営するレストラン「まごの店」で働く生徒の日記から	形式主語 It 望みや気持ちを表す表現 feel like ~ing	12	A,B,C
	12	Reading 1 The Swing What are heavy?	英語の詩3編を鑑賞する		12	A,B
3	1	Lesson6 Why Is It That Shape?	・5円硬貨、観覧車…身近なモノの形にある理由を知る。	関係代名詞 what 理由を述べる表現 This is because ~	6	B,C,D
	2	Lesson7 Fuji, a Dolphin With a New Fin	・尾びれを失い泳げなくなったイルカ、フジが人工尾びれで泳ぎを取り戻せるまで	過去完了形 (大過去・継続・完了・経験) 感情を尋ねる表現 How was ~?	9	B,C,D
	3				9	

教科名	商業	科目名	商品開発	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解させる。</li> <li>・商品を企画・開発し、流通活動を行う能力と態度を育てる。</li> </ul>				
学習内容の概要	(1) 商品と商品開発 (2) 商品の企画 (3) 商品の開発 (4) 商品開発とデザイン (5) 商品開発と知的財産権 (6) 商品流通と流通を支える活動 (7) 総合実習				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断	C 技能・表現	D 知識・理解	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発について関心を持っているか。</li> <li>・消費者の視点に立った商品の企画・開発・流通に主体的に取り組もうとしているか。</li> <li>・商品活動に関する諸活動を主体的に考える、実践的な態度を身につけていっているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発に関する諸活動への適切な対応を目指して、思考を深めているか。</li> <li>・商品開発に関する基礎的・基本的な知識と技術をもとに、ビジネスの諸活動に携わる者として適切に判断し、外部に表現する創造的な能力を身につけているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品を開発し、流通させるために必要な技術、商品開発に必要なデザインに関する技術を身につけ、活用することができているか。</li> <li>・商品開発に関する諸活動を合理的に計画し、その技術を適切に活用しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発に関する基礎的、基本的な知識を身につけているか。</li> <li>・顧客満足を実現することの重要性について理解しているか。</li> </ul>	
教科書、教材など	商品開発(実教出版)				
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学年	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	第1章 商品と商品開発 ・商品の多様化	商品の成り立ちおよび何を商品として考えるのかについて理解させる。 技術革新、経済の国際化、消費生活の変化、地球環境の保全などによる多様な商品提供の現状について認識させる。		6
	5	・商品開発の意義と手順	商品開発の意義、商品のライフサイクルについて理解させる。 現代社会における商品開発の観点から、企業の社会的責任や法令順守について認識させる。		6
	6	第2章 商品の企画 ・環境分析	政治状況・法律制度、経済動向、社会・消費傾向、技術動向といったマクロ環境や、自社、競合企業、顧客といったミクロ環		8

	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品開発の意思決定と開発テーマの決定</li> <li>・市場調査</li> </ul>	<p>境などの、商品を取り巻く環境について理解させる。</p> <p>環境の分析結果をもとに、自社の特徴を踏まえ商品開発に関する意思決定を行う過程について理解させる。</p> <p>市場調査の内容を認識し、資料調査と実態調査の二つの市場調査の方法について理解する。</p>	8
2	8 9 10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・商品コンセプトの立案と商品企画書の作成</li> </ul>	<p>商品コンセプトを考案することの重要性について学ぶ。</p>	2 8 8
	11 12	<p>第3章 商品の開発</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品の仕様と詳細設計</li> </ul>	<p>商品仕様と仕様書に基づいた詳細設計、およびコンピュータによる設計とその評価について理解させる。</p>	8 8
3	1 2 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・試作品の作成と評価</li> <li>・開発商品のテスト</li> <li>・事業計画の立案</li> </ul>	<p>機能テストや消費者テスト、市場テストなど開発商品に関するテストの方法について理解させる。</p> <p>生産計画、マーケティング計画、財務計画といった事業計画の流れとその内容について理解させる。</p>	4 6 6

教科名	科目名	簡易ソフト	単位数	4 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態		
科目の目標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商情報処理検定3級基準の用語の学習 ハードウェア、ソフトウェア、通信ネットワーク</li> <li>・集計処理、図形処理</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度  ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとする。	B 思考・判断  情報をビジネスに活用するために目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	C 技能・表現  表計算ソフトウェアを用いて情報の整理や加工分析などの基礎的な技術を身につけることができる。	D 知識・理解  ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解とともに、それを実践するために必要な知識を身につける。		
教科書、教材など	全商情報処理検定模擬試験問題集3級(実教出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	コンピュータ3級の関数	コンピュータの応用的な仕組みや働きを理解。高度な関数の働きを理解及び図形作成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3級の関数</li> <li>・ワークシートの利用</li> <li>・集計処理、番地、並べ替え</li> <li>・関数の利用</li> </ul>	12	・コンピューターの応用的な仕組みや働きを理解できた
	5	集計処理 図形処理		<ul style="list-style-type: none"> <li>・判定、論理演算</li> <li>・行方向、列方向の参照</li> <li>・行方向、列方向の検索</li> <li>・順位付け、カウント</li> <li>・最大値、最小値</li> </ul>	12	・高度な関数を身につけることができたか。(A, C)
	6				16	
	7				16	
2	8	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識		<ul style="list-style-type: none"> <li>・条件付き合計</li> <li>・応用的な図形処理</li> </ul>	4	
	9	通信ネットワーク・モラル・セキュリティに関する知識			16	
	10	検定模擬問題			16	
	11		全商情報処理検定の模擬問題を学習し、必要な技法・知識を定着する。		16	・検定模擬問題を繰り返し解き、必要な知識、技能が習得できたか確認する。(B, C, D)
	12				16	
3	1	コンピュータ2級の関数			8	
	2		全商情報処理検定2級の基本的な表計算ソフトウェアの活用方法を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級の関数</li> </ul>	12	
	3				12	

教科名	総合	科目名	一般教養演習	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(キャリア・公務員)	履修形態	必修	
科目の目標	公務員、就職試験に向けて様々な検定などを用いながら、実社会で活用できる表現力、一般常識の向上を図り、自身のキャリアプランの形成の一助とする。					
学習内容の概要	SPI2試験、ニュース検定、語彙読解力検定などの問題集を解きながら、資格取得と一般常識の修得させる。 日々の新聞記事なども用いて世の中の動きへの理解を深める。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	時事問題に興味をもち、社会人としての知識を養う姿勢がある。	非言語分野において、素早い計算能力と判断力を身につける。	正しい敬語を用いて話すことができる。また、より向上しようとする姿勢がある。	漢字や言葉の意味、簡単な計算など正しく理解し、適切に用いることができる。		
教科書、教材など	ニュース検定公式テキスト問題集 語彙能力検定合格力養成BOOK 高校生 就職面接の受け方答え方					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5 6 7 8 9	講義と問題演習 面接練習 個別面談	問題を解くことで理解を深め知識の定着を図る。	語彙能力検定受検	6 6 8 8 2 8	科目的評価基準に準ずる。
2	10 11 12	新聞の読み方講座	新聞を通して世の中の流れや動きを知る術を身につける。	ニュース検定受検	8 8 8 4	
3	1 2 3				6 6	

教 科 名	総 合	科 目 名	ビジネスマナー	単 位 数	2 単位	
対 象 学 年	第 2 学 年	対象コース	研志コース(キャリア・公務員)	履 修 形 態	必 修	
科 目 の 目 標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス実務マナー検定3級の学習を通して、将来必要となるビジネスマナーの知識と技術の基礎を身につける</li> <li>・自分が将来社会の一員となることを自覚した上で、自らの進路選択について適切に判断する力と、進路実現に必要となる、採用試験などで、自分を表現する力を養う</li> </ul>					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆるビジネスシーンで活きるビジネスマナー、一般常識、電話応対やレポートの書き方など社会人としての基本を学習する</li> <li>・「ビジネス基礎」と並行して学習し、ビジネス実務マナー検定3級の取得を目指す(11月受験予定)</li> <li>この検定は、人間関係やマナー、話し方を理解しているかなどが問われる検定</li> <li>・ロールプレイングを用いた体験学習や販売実習を通して、より実践的な力を育てる</li> </ul>					
科 目 の 評 価 基 準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度  ・マナーに広い関心がある ・積極的、主体的に学習に取り組む姿勢がみられる	B 思 考 ・ 判 断  ・マナー検定に関する学習内容についての問題を適切に解決するために考え、実践するにあたり、学習内容を自分で判断できるか	C 技 能 ・ 表 現  ・マナー検定の学習や、外部講師による講話から得た内容を自分で適切に表現できるか	D 知 識 ・ 理 解  ・ビジネスマナーを学ぶ目的、方法を理解している ・円滑な人間関係を築くための方法を理解している		
教科書、教材など	「ビジネスマナー」(早稲田教育出版)					
授 業 形 態	講義					
年 間 授 業 計 画						
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 习 内 容 (実験・実習等)	時 间	評 価
1	4	第1章 必要とされる資質	ビジネスマンとしての資質	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な行動力、判断力表現力</li> <li>・明るさ、誠実さ</li> <li>・身だしなみを心得る</li> <li>・自己管理について</li> <li>・平易な仕事を確実に実行できる能力</li> <li>・良識をもち、素直な態度</li> <li>・適切な動作と協調</li> <li>・積極性、合理性、効率性</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・問題集</li> <li>・定期考查</li> <li>・検定結果</li> </ul>
	5		執務要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分掌についての理解</li> <li>・職位、職制についての理解</li> <li>・会社などの社会的責任について</li> </ul>	6	
	6	第2章 企業業務	組織の機能		8	
	7	第3章 対人関係	人間関係 マナー 話し方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係への対処についての理解</li> <li>・ビジネス実務としてのマナーを心得る</li> <li>・服装について</li> <li>・話の仕方と人間関係との結びつき</li> <li>・基本的な敬語</li> <li>・目的に応じた話し方</li> </ul>	8	

学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学習内容 (実験・実習等)	時 間	評 値
2	8	第4章 技能	交際	・慶事、弔事に関する作法と服装 ・一般的な交際業務についての初步的な知識	2	・授業態度 ・発問評価 ・問題集 ・定期考查 ・検定結果
	9		情報	・情報の整理、伝達、作成についての知識	8	
			文書	・文書の作成、取扱についての知識		
			会議	・会議についての知識		
			事務機器	・事務機器の基本機能		
			事務用品	・事務用品の種類と機能		
	10		検定対策	ビジネス実務マナー3級 答案練習	8	
	11		実技	・来客対応 ・電話対応 ・言葉づかい	8	
	12				8	
	1				4	
3	2	第5章 サービススタッフの資質	必要とされる要件	・明るさと誠実さ ・適切な判断と表現を心得る ・身だしなみを心得る	6	
	3		従業要件	・良識を持ち素直な態度 ・適切な行動と協調性 ・清潔感について ・忍耐力のある行動	6	

教科名	総合	科目名	ビジネスマナー	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(キャリア・公務員)	履修形態	必修	
科目の目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネス実務マナー検定3級の学習を通して、将来必要となるビジネスマナーの知識と技術の基礎を身につける</li> <li>・自分が将来社会の一員となることを自覚した上で、自らの進路選択について適切に判断する力と、進路実現に必要となる、採用試験などで、自分を表現する力を養う</li> </ul>					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あらゆるビジネスシーンで活きるビジネスマナー、一般常識、電話応対やレポートの書き方など社会人としての基本を学習する</li> <li>・「ビジネス基礎」と並行して学習し、ビジネス実務マナー検定3級の取得を目指す(11月受験予定)</li> </ul> <p>この検定は、人間関係やマナー、話し方を理解しているかなどが問われる検定</p> <p>・ロールプレイングを用いた体験学習や販売実習を通して、より実践的な力を育てる</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度 ・マナーに広い関心がある ・積極的、主体的に学習に取り組む姿勢がみられる	B 思考・判断 ・マナー検定に関する学習内容についての問題を適切に解決するために考え、実践するにあたり、学習内容を自分で判断できるか	C 技能・表現 ・マナー検定の学習や、外部講師による講話から得た内容を自分で適切に表現できるか	D 知識・理解 ・ビジネスマナーを学ぶ目的、方法を理解している ・円滑な人間関係を築くための方法を理解している		
教科書、教材など	「ビジネスマナー」(早稲田教育出版)					
授業形態	講義					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第1章 必要とされる資質	ビジネスマンとしての資質 執務要件	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適切な行動力、判断力表現力</li> <li>・明るさ、誠実さ</li> <li>・身だしなみを心得る</li> <li>・自己管理について</li> <li>・平易な仕事を確実に実行できる能力</li> <li>・良識をもち、素直な態度</li> <li>・適切な動作と協調</li> <li>・積極性、合理性、効率性</li> </ul>	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・発問評価</li> <li>・問題集</li> <li>・定期考查</li> <li>・検定結果</li> </ul>
	5	第2章 企業業務	組織の機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務分掌についての理解</li> <li>・職位、職制についての理解</li> <li>・会社などの社会的責任について</li> </ul>	6	
	6	第3章 対人関係	人間関係 マナー 話し方	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間関係への対処についての理解</li> <li>・ビジネス実務としてのマナーを心得る</li> <li>・服装について</li> <li>・話の仕方と人間関係との結びつき</li> <li>・基本的な敬語</li> <li>・目的に応じた話し方</li> </ul>	8	
	7					

学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 習 内 容 (実験・実習等)	時 間	評 価
2	8	第4章 技能	交際	・慶事、弔事に関する作法と服装 ・一般的な交際業務についての初步的な知識	2	・授業態度 ・発問評価 ・問題集 ・定期考查 ・検定結果
	9		情報	・情報の整理、伝達、作成についての知識	8	
			文書	・文書の作成、取扱についての知識		
			会議	・会議についての知識		
			事務機器	・事務機器の基本機能		
			事務用品	・事務用品の種類と機能		
	10		検定対策	ビジネス実務マナー3級 答案練習	8	
	11		実技	・来客対応 ・電話対応 ・言葉づかい	8	
	12				8	
	1				4	
3	2	第5章 サービススタッフの資質	必要とされる要件	・明るさと誠実さ ・適切な判断と表現を心得る ・身だしなみを心得る	6	
	3		従業要件	・良識を持ち素直な態度 ・適切な行動と協調性 ・清潔感について ・忍耐力のある行動	6	

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(キャリア公務員・保育)	履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の様々な文章を的確に理解し、適切に表現する能力を高めるとともに、ものの見方、感じ方、考え方を深め、進んで読書することによって、国語の向上を図り人生を豊かにする態度を養う。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>論理的な文章について、論理の展開や要旨を的確にとらえる。</li> <li>文学的な文章について、人物、情景、心情などを的確にとらえ、表現を味わう。</li> <li>様々な文章を読むことを通して、人間、社会、自然などについて自分の考えを深め発展させる。</li> <li>語句の意味、用法を的確に理解し、語彙を豊かにするとともに文体の表現上の特色をとらえる。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語で理解し表現する力を進んで高めるとともに、国語を尊重してその向上を図ろうとしている。	目的や場に応じて効果的に話したり的確に聞きとつたりして、自分の考えを深め、発展させている。	必要な情報を用い、相手や目的、課題に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えを深め、発展させている。	近代以降の文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	言語文化及び言葉の特徴やきまりなどについての理解を深め、知識を身に付けている。	
教科書、教材など	新高等学校現代文B(明治書院)新高等学校現代文B 学習課題ノート(明治書院)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	「月あかり雪あかり花あかり」 「詩を翻訳する少	随想の読み方を習得する。 自己表現について主体的に考え、実行していく契機とする。	自分の体験にひきつけて読み解く。 自らの言語生活を振り返ってみる。	9	授業態度・発問評価・指名音読ノート・学習課題ノートの提出 授業態度・発問評価ノート・学習課題ノートの提出
	5	「山月記」「赤い繭」  「夜中の汽笛について、あるいは物語の効用について」	近代・現代小説の名作に触れ、自分にひきつけながら読む態度を養う。	短編小説の舞台設定、構成、構造、文体の特徴をつかみ、登場人物について的確に読み取る。 書き分けられた表現について考える。	9	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	6	「心の鉱脈」  「幸福について」	小説の特徴を掴み、その特徴を生かした物語の構造について理解を深める。 論理的な文章の読み方を習得する。	文章から筆者のものの見方、考え方、感じ方を読み取る。 論理の展開や要旨を的確に捉え、各自の問題として考える。	12	授業態度・発問評価・指名音 ノート・学習課題ノートの提出  授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出

	7	「旅上」  「永訣の朝」  「弟に速達で」	詩にこめられた情景や心情を読み取る。  詩にこめられた作者の思いを読み取り、言語に対する感性を磨く。現代詩の鑑賞のしかたを習得する。	韻律に注意し、描かれた情景や心情にふさわしい朗読を工夫する。  文体や修辞技法などの表現の工夫からその特色と効果を考える。	12	授業態度・発問評価・指名音読 ノート・学習課題ノートの提出
2	8	「愛づる 時間を見つめる」	古語の「愛づる」の意味を現代の視点で分析し、「生きること」の本質を見つめ直す。	副題の意味を全体を通して読み解く。	3	授業態度・発問評価・指名音読 ノート・学習課題ノートの提出
	9	「宇宙では『上』も『下』もない？」  「ロボットとは何か」	論理的な文章を読むことで、学習者自身が問題意識を見出す。  日常生活で当たり前のものを、社会的な視点で捉え直す。	発想を転換して、新鮮な視点から物事を捉える。  提起された問題を筆者がどのような視点で考察しているか捉える。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	10	「ナイン」  「白紙」	作品の主題を理解し、人や人生に対する見方を深める。  小説世界を自己のもの見方や考え方につけて考える。	地域社会の暮らしと人情について実感をもって文章を味わう。  私の思いや最後の言葉に込められた気持ちについて話し合う。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	11	「コンコルドの誤り」  「通潤橋 橋と日本人」	要旨や構成を把握し、それらを個人的な経験と結び表現活動を行う。  随想と評論の特色を併せ持った文章を読み、理解して味わう。	具体例や対比の表現などから筆者の主張をとらえる。  科学者と歴史家の目を備え、広い視野に立つ論考を理解する。	12	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	12	「風が来てささやく やうに」  「いきいきとほそ目 かがやく」  「絵はすべての人 の創るもの」	近現代の代表的な作者の作品を鑑賞することで、短歌・俳句を自作する参考にする。  辞書的な意味から離れ、多様な意味を持つ言葉を理解する。	文体や修辞などの表現上の特色をとらえ、作品を深く味わう。  個性について、自分自身の考えを持つ。	12	授業態度・発問評価・指名音読 ノート・学習課題ノートの提出
3	1	「『間』の感覚」	東西の文化を比較して日本文化を相対化しつつ捉え、特異性を理解する。	対比によって論点を明確にしていく論じ方を学び、比較文化論の観点から認識を深める。	6	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	2	「美を求める心」  「こころ」	同じ主題を別の視点から読み解き、視野を広げて考える。  作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。	自ら具体例を考えて読み解く。	9	授業態度・発問評価 ノート・学習課題ノートの提出
	3	「報道文と判決文」  「企画書を書く」	実用的な文章について学び、日常的具体的な表現活動に役立てる。	登場人物の生き方と、自己の生き方とを対比して、考えたことを自分の言葉でまとめ発表する。  自分の考えがよく伝わるように論拠を明示して、わかりやすく表現する。	9	授業態度・発問評価 文の提出

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 國際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。				
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.資料活用の技能	d.知識・理解	
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書 明解 世界史A (帝国書院) 副教材 明解 世界史Aノート (帝国書院)				
授業形態	講義形式・グループ学習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり  1節 東アジアの文明	各地域世界が形づくられていいく過程を理解する。  東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。  東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。	6
				【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。  【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。	

	5	2節 南アジアの文 明	南アジアの文明の特 質を理解する。	南アジアの風土と諸 民族と宗教。仏教、ヒ ンドゥー教、イスラーム の影響。	6	【関】南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		3節 東南アジア	東南アジアの特質を 理解する。	自然環境や地理的 位置に着目。インドと 中国の両文明の影響 の様子。それぞれの 地域での多様な社会 と文化。		【関】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		4節 西アジア・北ア フリカの文明	西アジア・北アフリカ の文明の特質を理解 する。	西アジア・北アフリカ の風土と諸民族。イス ラームの成立と拡大・ 分裂。		【関】西アジア・北アフリカについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、西アジア・北アフリカの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】西アジア・北アフリカがの成立とその特色、地域的な拡大と独自の世界の形成について、イスラーム国家の柔軟性やムスリム商人の役割などを把握し、基本的知識を身につけている。
6	5節 ヨーロッパの文 明		ヨーロッパの文明の 特質を理解する。	ヨーロッパの風土と 諸民族。ギリシア・ ローマ文明の伝統。キ リスト教の発展。封建 社会。	8	【関】ヨーロッパについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ヨーロッパ文明の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		6節 南北アメリカの 文明	南北アメリカ大陸に おいて独自の文化が 築かれていたことを理 解する。	南北アメリカ大陸の 風土と先住民。ヨー ロッパが進出する以 前の南北アメリカ大陸 独自の文化。		【関】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
		7節 ユーラシアの 交流圏	ユーラシアの交流圏 が成立していくようすを 巨視的かつ視覚的に 把握し、相互の文化受 容の進展について理 解する。	ユーラシア規模の交 流圏が成立していくよ うす。		【関】ユーラシアの交流圏のに対する 関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海港(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。

	7	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。	8	【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
2	8	2節 大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まつた世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まつた主権国家体制の形成。	2	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパ人による征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国 の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	8	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを見直して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを見直す技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。	
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。  アジア諸国の動揺のようすを理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。  オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	8	【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃のを資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。  【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	

	11	4節 東アジアの大変動  2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	東アジアの大変動を理解する。  20世紀という時代の特質を把握するとともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。  交通革命。マス=メディアの発達。企業や国家の巨大化。社会の大衆化と政治や文化の変容。公教育の普及と国民統合。世界の変容。	8	【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中の日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけている。  【関】19世紀社会の急激な変化と世界の一体化に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類史的視野から考えようとしている。 【思】考察し、判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】20世紀という時代の特質を人類史的視野から把握するとともに、人口移動から世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解しその知識を身につけている。
	12	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀初頭の変化の様相を理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。	8	【関】第一次世界大戦、平和の意義などに対する関心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけている。
3	1	3節 “民族自決”を求めて  4節 経済危機から第二次世界大戦へ	“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。  第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。  第二次世界大戦。及ぼした影響。平和の意義。国際政治、国際関係の変遷と社会の特質。	4	【関】民族運動に対する関心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけている。  【関】戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもどうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、平和の意義について理解し、その知識を身につけている。

	2	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。	6	【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通じて、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけている。
	2	2節 冷戦終結への道のり	米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。	米ソ冷戦の終結。世界の変容。	6	【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】市場経済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。
	3	3節 地球社会への歩み	日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの国際社会における日本の役割について考察する。	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向。これからの中華人民共和国における日本。	6	【関】これからの国際社会における日本の役割、共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学以外)	履修形態	必修
科目の目標	①近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く ②近現代の日本史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する ③近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける ④主体的な歴史学習を通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える				
学習内容の概要	第1章から第5章では、19世紀の世界の動向を受けて開国し、近代社会を成立させ、それを発展させていった日本の動きを学習する。第1章では国際環境の変化の中で進展した日本の近代化について、第2章では変動する東アジア世界における日本の動きについて、第3章では二つの世界大戦をめぐる国際情勢の中における日本について、第4章では第二次世界大戦後に形成された国際社会における日本の復興について、第5章では現代の世界と日本の動きについて学習する。各章末にはその時代の暮らしや文化を概観できるページを設けている。学習した内容を振り返り、政治や経済の変化が人々の暮らしや文化にもたらした影響について考える。各章末の「学習のまとめ」には課題を設定してあるので、課題に取り組むことを通してそれぞれの時代への理解を深めていく。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを意欲的に調べ、歴史を学ぶ意義に気付き、関心を持って学習に取り組めているか。  現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者として自覚を持って考える態度を身に付けているか。	近現代日本史の展開から課題を発見し、世界史や国際環境と関連づけ、実証的、多角的、多面的に考察しているか。  歴史的に形成された諸課題を様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。  課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。	近現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。  得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けているか。	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。  近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連づけて理解しているか。	
教科書、教材など	東京書籍「日本史A」(日A308)、日本史Aワークノート(東書)				
授業形態	講義形式				
年間授業計画					
学期	月	單元	単元の目標	学習内容	時間
1	4	第1章 近代日本の形成 1. 国際情勢の変化と明治維新	資本主義体制の発達した列強諸国が、市場と原料を求めてアジアへ進出すると、アジアではそれに抵抗する動きが起こったことを学ぶ。  ペリーの来航により、幕府の鎖国政策が破綻し、日米修好通商条約を調印するまでの経緯を学ぶ。	内憂外患に苦しむ日本では、老中水野忠邦による天保の改革が失敗し、幕府の権威が失墜する中、財政改革や富国強兵に成功した雄藩が成長したことを学習する。  開国と貿易による幕末の経済や社会の混乱について学習する。	6  グラフから1860年前後の貿易の概要を読み取れたか。
	5		薩長同盟の成立から戊辰戦争までの経緯を学び、新政府が徳川氏とそれを支持する勢力を排除したことを学ぶ。	横浜と上海が、諸外国との窓口として発展した経緯を学び、東アジアの近代化の特徴について学習する。  開国後の政治の主導権をめぐる幕閣、雄藩、尊王攘夷派による争いの経緯を学習する。	6  各派の動きや列強の動向を年表に整理し、それぞれの関連について考察できたか。
	6	2. 明治新政府の諸改革	地租改正により近代的な土地所有権が確立されたこと、政府が財源を確保・通貨を統一、官営工場を設立するなど、殖産興業に努めたことを学ぶ。	欧米の啓蒙主義が取り入れられる中で実学主義にもとづく学制が公布された後、次第に教育が国家主義化された経緯を学習する。	8  大政奉還後に戊辰戦争が起きたのはなぜか考察できたか。
					近代化の一方で、小作農が土地所有者に従属し、重い現物小作料を納める関係が残されたことを理解しているか。

		岩倉使節団を派遣し欧米に学ぼうとした政府が、東アジア諸国に対して軍事力を用いながら交渉を進めた経緯を学ぶ。	政府が明治初期から、琉球に対して強圧的な態度をとり西の国境を画定していく一方、ロシアとは交渉により国境を画定していくことを学習する。	地図を活用し、当時の国境画定と現在の国土との関係について理解しているか。
7	3. 立憲国家の成立	明治六年の政変後、不平士族を中心が始まった自由民権運動が豪農層に広がり、私擬憲法が盛んに作られるなど活発化すると、政府内部にも国会の開設をめぐる対立が生じ、国会開設の勅諭が出される事態となつた経緯を学ぶ。	松方財政で銀本位制が確立し、都市に流入する労働者が増え、資本主義発達の基礎が整ったことにより、紡績や鉄道、海運等の近代産業が急速に発達したことを学習する。	8 地図を利用し、激化事件が頻発した地域の特性を理解できたか。
2	8	初期議会における民党と政府との対立の推移、条約改正交渉が国際情勢の変化の中で進展したことを学ぶ。	大日本帝国憲法が制定され諸法典が編纂される経緯と、大日本帝国憲法の特徴(欽定憲法・天皇大權等)を学習する。	2 政府と民党の主張を整理し、初期議会の対立が激しくなった理由を理解できたか。 8
9		日清戦争の経過と下関条約の内容を関連づけて学び、日清戦争を経て、日本・清・朝鮮の関係がどのように変化したか学ぶ。	議会運営のために藩閥と政党が接近し政党の政治的影響力が高まる一方で、軍部大臣現役武官制が定められ、政党の力を制限しようとする動きがあった。戦争を経験することで国民意識の形成が促されたことを学習する。	地図を用いて、日清戦争の主な戦場が朝鮮半島から遼東半島・山東半島に広がつていったことを理解できたか。
10	2. 日露戦争と帝国日本の形成	列強による中国分割が進む過程で日本とロシアの対立が生じ、日英同盟が結ばれたことを学ぶ。	朝鮮・満州における利権をめぐって日露戦争が起り、講和条約を結ぶまでの経緯と、国民の戦争に対する考え方の推移を学習する。  日露戦争後の政治が次第に民衆の要求に答えるを得なくなつていった経緯を、社会主義の発達との関連を学習する。	8 日本が台湾、朝鮮を植民地とした経緯とその支配の方針を理解しているか。  辛亥革命により中華民国が成立した経緯とその後の展開を理解しているか。
11	2. 政党政治の時代	植民地獲得競争の激化により始まつた第一次世界大戦の時期に、日本が中国への侵略を進めた経緯を学び、そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について学ぶ。	大正期に労働運動や女性運動などの社会運動が、経済の動向や国際的なデモクラシーの風潮の影響を受けながら組織的に行われるようになつたことを学習する。	二十一か条の要求の内容から、日本が中国侵略を進めたのはなぜか考察できたか。  三・一独立運動と五・四運動において人々が要求したこと学び、民族自決とはなにか着目できたか。  大正期に盛んになった社会運動から、当時の社会にどのような問題があつたのか考察できたか。
		第二次護憲運動における護憲三派の主張を学び、政党内閣が憲政の常道となり男子普通選挙が実現した背景を、治安維持法も同時期に成立したこと学ぶ。	関東大震災は深刻な経済的打撃だけではなく、人々の意識や行動にも混乱と変化を与え、軍部の影響力が強まるきっかけとなつたことを学習する。	8 東アジア太平洋地域にワシントン体制が築かれた理由を話し合い、第一次世界大戦後の国際情勢への理解を深められたか。

		3. 軍国日本への道	長く続く不況下で、金融や産業の独占が進み、中国侵略をめざす軍国主義化の機運や社会不安が高まり、さらに世界恐慌の影響を受けた昭和恐慌が起った経緯を学ぶ。	昭和恐慌が深刻化し排外熱が高まる中で、メディアにあおられた国民の支持を受けて満州事変が進んだ結果、昭和恐慌からは回復したものの、日本が国際社会から孤立していく経緯を学習する。	物価や小作争議の発生件数など、いくつかのグラフから昭和恐慌の様相を読み取れたか。
12	4. 太平洋戦争		第二次世界大戦が始まると、ドイツとの同盟を強めることで英米との戦争も辞さないという空気が高まつたことが日米開戦につながつたことを理解し、太平洋戦争の経緯を学ぶ。	「大東亜共栄圏」の理念と実態について理解し、「大東亜共栄圏」に組み込まれた地域の人々による抵抗について学習する。	8 戦局が悪化した後も戦争を継続させたことが、国内・占領地での過酷な動員や徵発による人々の暮らしの圧迫や、アメリカ軍の本土空襲による大きな被害につながつたことを理解している。
3	第4章 第二次世界大戦後の国際社会と日本 1. 現代世界の開幕と日本の戦後改革	沖縄戦の実態を学び、何故住民に大きな被害が出たのか、終戦にいたるまでの日本・アメリカ・ソ連等の動向を学び、アメリカ軍主体の占領が開始された経緯を学ぶ。	戦後社会が直面した危機的な状況を学び、農村や都市で人々が展開した社会運動がめざした内容を学ぶ。	平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方、アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったこと、帝国主義の後退によりアジアやアフリカの諸国が独立したが、冷戦下で独立をめざしたアジア諸国の中には、民族分断を余儀なくされた国があつたことを学習する。  経済再建の優先と労働運動圧迫との関係について学習する。	写真や映像資料を用いて、沖縄戦における住民の被害について理解しているか。これまでの学習を振り返り、なぜそれらの改革が必要だったのか理解しているか。  戦後の危機的な状況の中であっても、自由と平和のもとで人々は活発に活動するようになり、大衆文化が復興したほか、学問や言論の分野でも進展が見られたことを理解しているか。
3	2. 高度経済成長の時代	朝鮮戦争の勃発など東西冷戦が激しくなる中、日本がアメリカ側の諸国のみとサンフランシスコ平和条約を調印し、独立を回復した経緯を学ぶ。		現在にいたるまで諸外国から日本に戦後補償を求める声があがっている理由を学習する。	4 東西冷戦が続く中で防衛力増強に反対する国民運動を抑制するため、政府は教育や社会運動への統制を強め、保守政党が合同し保守派優位のもとで政治を安定させる55年体制が作られた経緯を理解しているか。
2	第5章 現代の世界と日本 1. 国際秩序のゆらぎと経済大国日本	経済成長を優先した結果、公害などの社会問題が生じ、環境や福祉、平和に対する人々の関心が高まり、革新勢力への支持が高まつたことを学ぶ。	石油危機後も輸出を増加させて、欧米諸国との貿易摩擦を抱えながら経済成長を続けた日本経済がバブル経済とよばれる事態になつた経緯を理解し、当時の人々の生活や大衆文化を学ぶ。	1960年代には政府主導の高度経済成長が実現した一方で、開放経済体制への移行が進み、日本の企業が厳しい国際競争にさらされるようになったこと、過疎・過密や公害などの問題も発生したことを学習する。  IMF体制の崩壊と石油危機は、日本だけではなく世界の経済に深刻な影響を与えたこと、その後の世界経済の展開を学習する。	6 高度経済成長が実現したのはなぜか、国内の要因と国際的な要因を理解しているか。  高度経済成長がもたらした変化について話し合い、理解を深めた。
3	2. 冷戦の終焉と日本	1989年に冷戦が終結した後、EUやAPECなどの地域統合・地域協力が目指される一方、東アジアを含む世界各地でナショナリズムが高まり、地域紛争が多発していることを学ぶ。		現在、世界で進んでいるグローバル化の意味を学び、重層化する世界の中で日本が国内外で抱えている課題、果たすべき役割について学習する。	6 バブル経済の崩壊とともに、政官財の癒着を生み出した自民党の長期政権への批判が高まり55年体制が崩壊したことを学び、その後、政界再編や構造改革が目指されてきた経緯を理解しているか。

教科名	数学	科目名	数学I	単位数	2単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志(大学進学クラスを除く)	履修形態	必修	
科目の目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。					
学習内容の概要	《問題演習》					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 数学への関心・意欲・態度	B 数学的な見方や考え方	C 数学的な表現・処理	D 数量・図形などについての知識・理解		
	既習内容の全範囲に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、試行の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、既習内容の全範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	既習内容の全範囲において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	既習内容の全範囲における基本的な概念、原理・原則などを体系的に理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 最新数学I(数研出版)、改訂版 最新数学A(数研出版) 補助教材:改訂版 3ROUND数学I+A(数研出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	1. 数と式	数学IAの範囲を復習し、基本的な問題の解法を身につける。		6	A/B/C/Dの総合評価
	5	2. 1次不等式			6	
	6	3. 集合と命題			8	
	7	4. 2次関数とグラフ			8	
	8				2	
2	9				8	
	10	5. 2次方程式と2次不等式			8	
	11	6. 三角比			8	
	12	7. 正弦定理・余弦定理			8	
	3	1			8. データの分析	

3	2	9. 場合の数と確率			6	
	3	10. 図形の性質				

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。				
学習内容の概要	中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探求する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。内容は代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度  日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心をもち、自然現象に対して探求していく態度を身につけている。	B 思考・判断・表現  生物や生物現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できている。	C 観察・実験の技能  生物や生物現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力と技術を身につけている。	D 知識・理解  生物学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。	
教科書、教材など	教科書:高等学校改訂新生物基礎(第一学習社)				
授業形態	講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1学期	4	生物の特徴	生物は多様であるが、細胞構造などの共通性や、共通の起源を学習する。また、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して生物の代謝とエネルギーの取り出しについて理解する。	生物の多様性と共通エネルギー代謝 光合成と呼吸	6
	5				6

	6 7	遺伝子とその働き  DNAの構造、遺伝情報は塩基配列であることを理解し、タンパク質合成について学習する。また、遺伝子の複製と発現について学習する。	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	8	・遺伝子はDNAであること、転写と翻訳の過程、遺伝情報の分配について興味関心をもつ。  ・塩基配列に遺伝情報があるということ、タンパク質とDNAの関係、遺伝情報の発現と細胞の分化の関係を考察する。  ・試料からDNAを抽出する方法、だ腺染色体の染色方法、細胞周期の各時期の時間の推定方法を学ぶ。  ・DNAの構造、アミノ酸の配列によるタンパク質の決定、DNAの分配を理解する。	A B C D
2 学 期	8 9 10	生物の体内環境と恒常性  恒常性のしくみについて理解し、循環系、肝臓と腎臓、自律神経系、内分泌系、免疫について学習する。	体液という体内環境  腎臓と肝臓  神経とホルモンによる調節	2 8 8	・体内環境、自律神経系とホルモンによる調節作用、生体防御のしくみについて探求しようとする。  ・体液とはたらき、腎臓と肝臓の機能、自律神経とホルモンが協同で作用する調節のしくみ、自然免疫と獲得免疫について説明できる。  ・腎臓の構造、運動による心拍の変化、赤血球の正確な細胞像を観察できる。  ・内部環境とその恒常性の維持について、尿生成の重要性、血糖濃度や体温についての恒常性のしくみ、自然免疫と獲得免疫の機構を理解する。	A B C D
	11 12	植生の多様性と生態系  植生について、構造や遷移のしくみを理解する。また、世界と日本のバイオームと気温と降水量の関係を学習する。	さまざまな植生  植生の遷移  気候とバイオーム	8 8	・森林では階層構造を形成すること、植生遷移について、植生と環境のかかわりについて興味関心をもつ。  ・植生の特徴をとらえることができるか、植物どうしの資源をめぐる競争、バイオームの分布について考察する。  ・土壤にどのような種子が存在するか、照葉樹と夏緑樹の違いをまとめることができるか。	A B C

					・遷移が起きるしくみ、バイオームが気温と降水量の違いに起因する、身近な植生を理解する。	D
3 学 期	1 2 3	生態系とその保全  生態系の成り立ち、物質とエネルギーの循環について理解する。その上で、生態系と環境問題について学習する。	生態系  物質循環とエネルギーの流れ  生態系のバランス  人間活動と生態系の保全	4 6 6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生態系とは何か、生態系での物質やエネルギーの移動、生態系におけるバランス、生態系における人間生活の影響について興味関心をもつ。</li> <li>・作用と環境形成作用や相互作用がどのようなものであるのか、生態系のエネルギー移動、生態系のバランスが保たれるしくみ、そのバランスが人類の活動でどのように変化しつつあるのかを理解できているか。</li> <li>・土壤動物であるミミズのはたらき、イオン濃度を適切に調べられるか、身近な外来生物をインターネットで調べることができる。</li> <li>・生態系を1つのまとまりとして捉えることができるか、窒素循環や窒素固定などについての理解、生態系のバランス、これまでの学習を通じて得た知識を活用して、環境問題について保全の方法を具体的に考えることができる。</li> </ul>	A     B     C     D

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修	
科目の目標	○心と体の成長 ○各種の運動に取り組むことで、生涯体育への意識を身につける ○安全面に配慮し、ケガや病気をせずに健康的な生活を送る習慣を身につける					
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解		
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	特になし					
授業形態	実技(男女別合併授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察
	5	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	運動とスポーツの技術と技能。技能の上達。技能と体力関係。		授業中の行動の観察
	5	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	実生活に生かす様々な体ほぐしの運動を組み合わせて行う。	6	評価テスト(総時数6時間) 授業中の行動の観察 実技テスト
	6	新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。		診断テスト結果
	6	陸上競技	自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。	各種目の基本技能の習得。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
2	7	バレーボール ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	8				2	
	9				8	
	10	サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	チームが目指す目標に応じたチームや事故の課題を設定し、ゲームが出来るようにする。	8	授業中の行動の観察
	11	バスケットボール			8	実技テスト
	12				8	

3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作が出来るようにする。  ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようにする。	4	授業中の行動の観察 実技テスト	
	2	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と一緒に楽しく踊ったりし、発表できるようにする。		6	授業中の行動の観察 作品の評価	
	3				6	※ 年間を通しての出席状況	

教科名 対象学年	保健体育 第2学年	科目名 対象コース	保健 研志コース	単位数	1単位 必修
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	②生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、および我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。				

教科書、教材など 教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)

授業形態 教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習

年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	単元2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	思春期における体の変化と心の発達にかかる健康課題を理解する。	性ホルモン、生殖器の発達 精神的な不安定 セクシュアルハラスメント 性情報と性行動	3	
	5	②性への関心・欲求と性行動	性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。			
	6	③妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を理解する。	母子健康手帳 母子保健サービス	3	
	7	④避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法を理解し、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響を理解する。	家族計画 人工妊娠中絶	4	
	8	⑤結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について理解する。	性機能の成熟 精神面での発達 健康状態の把握	4	
	9	⑥中高年期と健康	中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みを理解する。	健康診断 生きがい ノーマライゼーション	1 4	定期考査 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
		⑦医薬品とその活用	医薬品の正しい使用法について理解する。	医療用医薬品 自然治癒力 お薬手帳		

10	⑧医療サービスとの活用  ⑨保健サービスとの活用	医療サービスをうける時の留意点を理解する。  保健行政の役割について理解する。	医療保険 インフォームド・コンセントと セカンドオピニオン  保健行政 保健サービス 健康相談	4
11	⑩さまざまな保健活動や対策  单元3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康	民間や国際機関などの保健活動や対策について理解する。  大気汚染の原因とその健康影響を理解する。	日本赤十字社の取組み WHOの取組み ヘルスプロモーション  大気汚染物質 ダイオキシン 地球温暖化	4  定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
12	②水質汚濁、土壤汚染と健康  ③環境汚染を防ぐ取り組み	水質汚濁、土壤汚染の原因とその健康影響を理解する。  今日の環境汚染の特徴を理解する。	重金属 有機物 富栄養化  排出基準 環境基本法 産業廃棄物 環境負荷	4
3	④ごみの処理と上下水道の整備  ⑤食品の安全を守る活動  ⑥働くことと健康	ごみの処理の現状や、その課題について理解する。  食品の安全のため、消費者が行うべきことを理解する。  働く人の健康問題と労働災害の防ぎ方について理解する。	環境型社会  食品添加物 食品衛生監視委員 食中毒予防三原則  働き方の変化とストレス 労働災害 作業環境 健康管理	2  3
	⑦働く人の健康づくり	職場がおこなう健康増進対策と、余暇の大切さとその活用の仕方について理解する。	メンタルヘルスケア ワークライフバランス 余暇の確保	3  定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する

教 科 名	芸術	科 目 名	音楽I	単位数	1 単位		
対 象 学 年	第 2 学年	対象コース	研志コース	履 修 形 態	選択必修		
科 目 の 目 標	・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。						
学習内容の概要	・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。						
科目的評価基準 (観点及びその趣旨)	意 欲 ・ 関 心 ・ 態 度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑 賞 の 能 力			
	音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的に主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。	自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けていく。	多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。			
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー						
授 業 形 態	講義、実技、鑑賞						
年 間 授 業 計 画							
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 习 内 容 (実験・実習等)	時 间	評 価	
1	4	オリエンテーション アルトリコーダー実技	B♭ C♯の運指を覚える。	二重奏「小さな木の実」	3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。	
	5	6	音楽の歴史と鑑賞	古典派の作曲家とその音楽を理解する。	ハイドン モーツアルト ベートーヴェン	4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
	7			映画により、モーツアルトについて深く知る。	「アマデウス」	4	モーツアルトについてより深く知ることができたか。
2	8	アルトリコーダー実技	読譜能力を高める。 レガート奏法を身につける。	二重奏「魔弾の射手」 二重奏「愛の喜び」	1 4	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。	
	9	10	音楽の歴史と鑑賞	ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	シューベルト メンデルスゾーン J.シュトラウス ショパン	4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
	11	12	鑑賞	映画と映画中の音楽を味わう。	「陽のあたる教室」	4	映画と映画中の音楽を味わうことができたか。
	3	1 2 3	アルトリコーダー実技 鑑賞	F♯ D♯の運指を覚える。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「少年時代」 ドボルザーク スマタナ	2 3 3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。 作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	1単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンドアート制作…砂を使った絵画技法を学び作画を行う。</li> <li>・水墨画…墨についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</li> </ul>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力			
	美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	墨、色砂のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。			
教科書、教材など	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版） スケッチブック、書道セット、サンドアートセット、半紙、和紙						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価		
学期	月						
1	4	オリエンテーション	前年の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。  墨の技法について理解し、その特性を生かして作品に取り組む。	「墨を知ろう」  「食べ物を描こう」  「人物を描こう」	墨の特性を踏まえ、水墨画の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。  墨の明暗を美しく表現し、濃淡の用法を身に付け、表現することが出来たか。		
	5	水墨画の世界①					
	6						
	7						
2	8	水墨画の世界②	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。  サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身につけ、表現する。	「北斎漫画とは」 映像学習 「北斎なろう」  「色砂に親しもう」  「模範作品を作ろう」	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。  砂絵の内容を踏まえ、砂の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。また、練習作品の制作で、技法を身に着けること		
	9						
	10	砂絵、サンドアートの世界①					
	11						
	12						
3	1	砂絵、サンドアートの世界①	学習した技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	「オリジナル作品を描こう」	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。		
	2						
	3						

教科名	藝術	科目名	書道I	単位数	1単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。						
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じりの書…高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。</li> <li>漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> <li>仮名の書…日本の重要文化である仮名の発生と展開を理解し、また臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> </ul> <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。			
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、楷書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①顔氏家廟碑 ②鄭羲下碑 ③牛橛造像記 【創作】 古典を基にした一字創作	3 3 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代、北魏時代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	5 6 7	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、行書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①争坐位文稿	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
2	8	漢字仮名交じりの書②	・学習した古典の用筆法に基づいた表現を行う。 ・感興や意図に基づく個性的な表現の工夫を行う。	「自作の高校生短歌を書こう」	1 4	短歌制作に意欲的に取り組み、表現においては古典を基にした、感興や意図に応じた表現の工夫ができたか。	
	9 10	漢字の書の学習③ 【篆書・隸書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、篆・隸書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①甲骨文②泰山刻石 ③曹全碑 書道カレンダーを作ろう	4 4 4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、篆書、隸書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。 題材の選定に工夫を凝らし、言葉の内容に沿った自分なりの表現が出来たか。	
	11	創作活動					
	12						
3	1	仮名の書の学習	・仮名の歴史や諸要素を理解する。 ・仮名の用筆法を身に付け、表現する。	基本点画練習 【古筆臨書】 ①高野切第3種 ②寸松庵色紙 【創作】 古筆を基にした半紙創作	2 3 3	日本独自の伝統文化であるかなの歴史や古典の背景を理解するとともに、仮名の基本的な用筆法を身に付け、表現することが出来たか。	
	2						
	3						

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース (キャリア・保育・看護分野)	履修形態	必修	
科目の目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。</p> <p>① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。</p> <p>② 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすこと。</p>					
学習内容の概要	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。</p> <p>エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	C:外国語理解の能力	D:言語や文化についての知識・理解		
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Revised COMET ENGLISH Communication II					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5	Lesson1 Staying in Space	・宇宙での暮らしと地上との違いを知る。	that-節 相手の発言を確かめる表現 Are you sure?	9 9	A,C,D
	6 7	Lesson2 Doraemon in the U.S.	・アメリカに渡った日本の人気アニメ『ドラえもん』日米での内容の違いを知る。	wantなど+(人)+to 不定詞 相手の情報・意見を聞く表現 How about you?	12 12	A,B,C,D
2	8 9	Lesson3 Farm in the Sky	・シンガポールの新しい農法から未来の農業の可能性を考察する。	疑問詞+to-不定詞 言い直す表現 I mean～	3 12	A,B,C

	10	Lesson4 Goal Setting	・「目標倒れ」にならないための効果的な目標設定術を紹介	分詞構文(同時・時・理由) 相手をほめる表現 You did it!	12	B,C,D
	11	Lesson5 The High School Student	・高校生が運営するレストラン「まごの店」で働く生徒の日記から	形式主語 It 望みや気持ちを表す表現 feel like ~ing	12	A,B,C
	12	Reading 1 The Swing What are heavy?	英語の詩3編を鑑賞する		12	A,B
3	1	Lesson6 Why Is It That Shape?	・5円硬貨、観覧車… 身近なモノの形にある理由を知る。	関係代名詞 what 理由を述べる表現 This is because ~	6	B,C,D
	2	Lesson7 Fuji, a Dolphin With a New Fin	・尾びれを失い泳げなくなったイルカ、フジが人工尾びれで泳ぎを取り戻せるまで	過去完了形 (大過去・継続・完了・経験) 感情を尋ねる表現 How was ~?	9	B,C,D
	3				9	

教科名	芸術	科目名	音楽演習	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(保育・幼児教育系進学)	履修形態	必修
科目の目標	・保育・幼児教育で取り扱う教材やそれらを展開するために必要な知識や技術の基礎を身に付ける。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイエルピアノ教本を用い、ピアノ演奏の基礎を学ぶ。</li> <li>・子どもの歌のピアノによる伴奏・弾き歌いなどを学ぶ。</li> <li>・子供と一緒に楽しめるミュージカル等の鑑賞。</li> <li>・幼稚園に出向き、実際の授業を見学する。</li> </ul>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度  音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。	芸術的な感受や表現の工夫  感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。	創造的な表現の技能  自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けている。	鑑賞の能力  多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。	
教科書、教材など	バイエルピアノ教本 電子ピアノ				
授業形態	実技				

#### 年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション ピアノ実技	ピアノ演奏の基礎を身に付ける。	バイエルピアノ教本 No.1～No.20	6	正しい姿勢と正確な運指で演奏することができたか。
	5			「キャツ」	6	
	6	ミュージカルDVD鑑賞	ミュージカルのストーリーを理解し音楽を味わう。		8	ミュージカルのストーリーを理解し、音楽を味わうことができたか。
	7	幼稚園授業見学	子どもに動きや指導の様子を理解する。	見学レポート作成	8	子どもに動きや指導の様子を理解することができたか。
2	8	ピアノ実技	ピアノ演奏の基礎を身に付ける。	バイエルピアノ教本 No.21～No.40	2	正しい姿勢と正確な運指で演奏することができたか。
	9	ミュージカルDVD鑑賞	ミュージカルのストーリーを理解し音楽を味わう。	「ライオンキング」	8	ミュージカルのストーリーを理解し、音楽を味わうことができたか。
	10	幼稚園授業見学	子どもに動きや指導の様子を理解する。	見学レポート作成	8	子どもに動きや指導の様子を理解することができたか。
	11	子どもの歌の弾き歌い	ピアノ演奏しながら歌う技術を身に付ける。	「むすんでひらいて」「メリーさんのひつじ」	8	正確な運指と音程で演奏することができたか。
	12				8	
3	1	ピアノ実技	ピアノ演奏の基礎を身に付ける。	バイエルピアノ教本 No.41～No.50	4	正しい姿勢と正確な運指で演奏することができたか。
	2	子どもの歌の弾き歌い	ピアノ演奏しながら歌う技術を身に付ける。	「かたつむり」「どんぐりころころ」	6	正確な運指と音程で演奏することができたか。
	3				6	

教 科 名	科 目 名	簡易ソフト	単位数	2 単位		
対 象 学 年	第 2 学 年	対象コース 研志コース	履 修 形 態	必修		
科 目 の 目 標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>全商情報処理検定3級基準の用語の学習 ハードウェア、ソフトウェア、通信ネットワーク</li> <li>集計処理、図形処理</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度  ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとする。	B 思考・判断  情報をビジネスに活用するために目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	C 技能・表現  表計算ソフトウェアを用いて情報の整理や加工分析などの基礎的な技術を身につけることができる。	D 知識・理解  ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するために必要な知識を身につける。		
教科書、教材など	全商情報処理検定模擬試験問題集3級(実教出版)					
授業形態	講義・演習					
年 間 授 業 計 画						
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 习 内 容 (実験・実習等)	時 間	評 価
1	4	コンピュータ3級の関数	コンピュータの応用的な仕組みや働きを理解。高度な関数の働きを理解及び図形作成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>3級の関数</li> <li>ワークシートの利用</li> <li>集計処理、番地、並べ替え</li> <li>関数の利用</li> <li>判定、論理演算</li> <li>行方向、列方向の参照</li> <li>行方向、列方向の検索</li> <li>順位付け、カウント</li> <li>最大値、最小値</li> <li>条件付き合計</li> <li>応用的な図形処理</li> </ul>	6	・コンピューターの応用的な仕組みや働きを理解できた
	5	集計処理 図形処理			6	・高度な関数を身につけることができたか。(A, C)
	6				8	
	7				8	
2	8	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識			2	
	9	通信ネットワーク・モラル・セキュリティに関する知識			8	
	10	検定模擬問題	全商情報処理検定の模擬問題を学習し、必要な技法・知識を定着する。		8	・検定模擬問題を繰り返し解き、必要な知識、技能が習得できたか確認する。(B, C, D)
	11				8	
	12				8	
3	1	コンピュータ2級の関数	全商情報処理検定2級の基本的な表計算ソフトウェアの活用方法を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>2級の関数</li> </ul>	4	
	2				6	
	3				6	

教科名	家庭	科目名	子どもの発達と保育	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	普通コース(保育・幼教)	履修形態	選択必修	
科目の目標	乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。乳幼児の健全な成長に关心を持ち、乳幼児に関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。					
学習内容の概要	少子高齢化への対応や持続可能な社会の構築、食育の推進、男女共同参画社会の推進等を踏まえて、自立して生活する能力と異なる世代とかかわり、共に生きる力を育てることを重視している。人の一生を見通し、衣食住生活についての科学的な理解を深めるとともに、授業以外の生活設計の学習を通して、生涯にわたってこれらの能力を活用して課題を解決できるようにする。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解	
	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して主体的に取り組もうとともに、実践的な態度を身につけていく。		家庭や地域の生活について課題を見いだし、その解決を目指して思考を深め、適切に判断し工夫し創造する能力を身につけていく。	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけている。	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書:「家庭305 子どもの発達と保育」(実教出版) 副教材:「子どもの発達と保育学習ノート」(実教出版) 講義について: 分野別単位による授業 実験実習について: グループによる展開					
授業形態	講義・演習(分野別単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5 6 7	オリエンテーション 1章 子どもの発達の特性 1節 発達と乳幼児の意義 2節 発達と保育環境 3節 児童観と発達観	・「子どもの発達と保育」を学ぶにあたって、学習の意義や内容、座学や体験的学習の方法、評価方法を理解させる。 ・人間の発達に关心を持ち、乳幼児期が人間の発達の基礎を養う時期であることを理解させる。 ・乳幼児期は、親を中心とした身近な人との関わりにより心が安定し、考え方・感じ方・行動の仕方などが発達していくことを理解させる。 ・児童観・発達観は時代背景などにより変化していることを理解させる。 ・子どもの人権が保障されるようになった経過を理解させる。	授業の進め方について 1章 子どもの発達の特性 ・身近にいる乳幼児の観察や視聴覚教材を通して、乳幼児の持つ無限の可能性を認識し、学習を深める。 ・子どもにとって幸せとは何か、具体的にどのようなことが話し合われる。	6 6 8 8	(関心・意欲・態度) ・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的にかかわりながら、理解しようとする。 子どもをとりまく状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。  (思考・判断) ・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができる。  (技能・表現) ・子どもの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。  (知識・理解) ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。

2	8 9 10 11 12	2章 子どもの発達の過程 1節 子供の発育 1 胎児の発育・発達 2 乳幼児の身体的特徴 3 乳幼児の生理的特徴 4 発育の過程 2節 子どもの精神発達 1 運動機能と感覚機能の発達 2 知的発達 3 言葉の発達 4 情緒の発達	<ul style="list-style-type: none"> <li>・胎児の発育について理解し、生命誕生に関わる母体環境の重要性を理解させる。</li> <li>・乳幼児の身体発育の特徴と傾向を理解させる。</li> <li>・乳幼児の生理的特徴を学び、用語の重要性も理解させる。</li> <li>・発育の評価方法を学び、さらに乳幼児期は発育の個人差が大きいことを理解させる。</li> <li>・発達における方向性や順序性の共通性を理解させる。</li> <li>・精神発達の特徴を学び、乳幼児期が人格形成上重要な時期であることを理解させる。</li> </ul>	2章 子どもの発達の過程 ・母子健康手帳や親からの聞き取り調査を通して、自分の発育の過程を振り返り、個人差のあることを発見し学習を深めさせる。	2 8 8 8 8
3	1 2 3	3節 人間関係の発達 1 愛着関係の形成 2 人間関係の広がり 3 子どもの人格形成 消費者として自立する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乳幼児期は、特に基本的な人間関係の樹立のために「愛着」が重要であり、子どもの「泣く」「笑う」などの行動に適切にこたえることの大切さを理解させる。</li> <li>・家族や友達など多くの人とのかかわりによって人間関係を広げ、自立し社会的な態度を身に着けていくことを理解させる。</li> <li>・「第一反抗期」と「自我」について考えさせる。</li> <li>子どもの問題行動と家庭環境とのかかわりを理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・愛着関係の形成のためには、どのようなかかわり方がよいのか、グループで討論し学習を深めさせる。</li> </ul>	4 6 6

教科名	総合	科目名	自己表現	単位数	4 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(保育・幼教)	履修形態	必修	
科目の目標	1. 乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得する。 2. 子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につける。					
学習内容の概要	保育関係に就職したときに必要となる折り紙や絵本の読み聞かせを練習し、子どもが楽しめるような作品を制作する。さらに幼稚園実習を通して実践的な力を養う。また知識の習得のため保育技術検定の取得も行う。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)			関心・意欲・態度	思考・判断	技能・表現	知識・理解
	保育に対する関心をもち、子どもの発達に関して意欲的に学習する態度を身につけている。		作品づくりを通して、子どもが関心を抱くものを見いだすことができる。	作品づくりや実習を通して、子どもが関心を抱くものを作成する能力と技術を身につけている。	子どもの発達段階を理解し、発達段階に応じた対応を身につけていく。	
教科書、教材など	講義について: コース単位による授業 実験実習について: グループによる展開					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5 6 7	オリエンテーション 実習用エプロン作成 幼稚園実習 実技指導	・保育実習で子どもや保育について実地で学び、子どもと適切にかかわる力を身につけさせる。 ・乳幼児の発達の特徴を理解し、乳幼児の生活と保育などに関する知識と技術を習得させる。 ・子どもの健全な成長に関心を持ち、子どもに関わる意欲や能力、実践的な態度を身につけさせる。 ・言葉だけでなく作品により自己紹介をさせる。 ・教室に掲示する季節ごとの掲示物をグループで作成する。(夏) ・様々な玩具づくりをさせる。 ・遊びの体験をさせる。  ・絵本の読み聞かせの練習をさせる。 ・幼稚園の運動会で行なうパフォーマンスの準備をさせる。	授業の進め方について ・子どもと直接かかわり、子ども理解を深める。 ・子どもの心身の発育発達を知る。 ・保育や保育者の役割について学ぶ。 ・自分への理解を深める。 作品による自己紹介 ・運動会でパフォーマンスを披露する。  ・自己紹介をする。 ・見学、給食補助をする。 ・掲示物作成をする。 ・表現遊び ・リズム体操 ・リトミック ・折り紙 ・絵本の読み聞かせ ・玩具 ・歌遊び ・手遊び ・運動会練習補助をする。 ・保育参加をする。 ・音楽・劇発表会の練習を見学する。	12 12 16 16 4 16 16 16 16	(関心・意欲・態度) ・子どもの世界について、自分の子どもの頃を思い起こしながら、興味・関心を持ち、子どもの生活について、積極的にかかわりながら、理解しようとする。 子どもを取り巻く状況について、現状を知り、その課題を見つけ、解決に向けて考えようとしている。 (思考・判断) ・子どもの心身の発達、現在の子どもを取り巻く状況や子育ての環境について、課題を見つけ、解決への考えをまとめることができ (技能・表現) ・子どもとの接し方、子どもの衣食住にかかわる物づくりなどの技術を身につけている。 (知識・理解) ・生命の尊さ、子育ての意義について理解することができる。 ・言葉だけではない自己紹介をいかに意欲的に取り組もうとしたか。 ・夏をテーマにした教室の掲示物を完成させることができたか。 ・折り紙を子どもが興味をもつような工夫を行うことができたか。
2	8 9 10 11 12					

3	1 2 3	発表会実践 (お話タイム)	・学習発表づくりをさせ る。	・リトミック、音楽活動す る。 ・幼稚園実習で発表す る発表をグループで準 備する。  ・調べ学習をする。 ・グループ発表する。 (お話タイム)	8 12 12	・実習で子どもたちと積極的に触れ合 い、子どもの接し方を学ぼうとしたか。  ・作品づくりに意欲的に取り組もうとし たか。 ・絵本の読み方を工夫したか。 ・紙芝居の読み方を工夫したか。 ・パフォーマンスの練習に意欲的に取 り組もうとしたか。  ・今年度学んだことを活かした発表を することができたか。

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(看護福祉・文芸大学)	履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の的確な読解を通して、客観的な理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。</li> <li>文学作品を通して、日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。</li> <li>現代社会で求められる多様な言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。</li> <li>生涯にわたり読書に親しみ習慣を身につける。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
教科書、教材など	教科書:精選現代文B (東京書籍) 補助教材:精選現代文B 学習課題ノート(東京書籍)、常用国語便覧(浜島書店)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界をつくり替えるために	・評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉える。	学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	5	ミロのヴィーナス	・冒頭の文の主旨を読み取り、逆接について理解し、本文の着眼の仕方について考え、まとめる。	具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	6	山月記	・小説を自己の問題に引き付けて味わう姿勢を養い、自己について考えを深める。	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	7	相手依存の自己規	・評論の文章を読み、具体例がどのように結論の根拠となっているかを学ぶ。	具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。		・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	7	見えない季節・未確認飛行物体・竹・永訣の朝	・詩の構成、展開に沿って作者の心情を深くつかむ。 ・比喩や対比の表現の特徴と効果をつかむ。	表現やリズムに留意して音読し、特色として気づいたことやその効果について考える。	12	・作品を表現に即して深く読み取り、作者の感動の焦点をおさえ、味わうことができたか。

2	8	旅する本	・登場人物の心情を表現から読み取り、その変化を的確に捉え、作品の主題を考える。	「旅する本」という表現に込められた寓意を把握し、「本」について考えを広げる。	3	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	9	科学的「発見」とは  おじいさんのランプ	・さまざまな物事に対する判断やものの見方、学術研究などの基本に関わる問題をつかむ。  ・情報化の進行により人間と知との関係は大きく変化していることを理解し、視点を変えることでその問題を理解する。	本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。  話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	10	消費されるスポーツ	・スポーツを社会学的な視野で捉え、「大衆消費社会」の姿について考える。	筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
		牡丹花は(短歌) プラタナス(俳句)	・短詩形文学の感動の焦点をおさえ、主題をとらえられる。	さまざまな表現、内容を整理し、さまざまな取り合わせや表現方法を整理する。		・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	11	こころ  「である」と「する」こと	・作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。  ・明晰な論理展開を読み取り、日本の近代化の特質とその問題について考える。	人間関係における人物の心情を的確に把握して、人の心のありようにについて考えを深める。  例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	12	人間の運命と科学  蟻	・社会と人間のあり方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。  ・文体や修辞など表現上の特色をとらえ、作品に描かれた情景や心情を味わう。	論の展開と構成を把握して主張を捉え、科学と人間の関係について考えを深める。  視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、主題について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
3	1	藤野先生	・翻訳文学の文章を読み、文体・時代性・心理などを自信と対比しながら味わう。	「私」が出会った藤野先生の人間像と「私」の思いと、時代背景に注意し、表現に即して読み取る。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	2	日本人の美意識	・日本の美意識の特質を理解し、それが生活行動や生活感覚にまで及んでいることについて考える。	図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	3	地図の想像力	・提示された問題について考え、自分の見解や意見を持ち、それを自分の言葉で表す。	論理的文章を読んで、それに対する自分の考えを意見文に書く。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲と的確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績

教科名	地理歴史	科目名	世界史A	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。				
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a.関心・意欲・態度	b.思考・判断・表現	c.資料活用の技能	d.知識・理解	
	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書 明解 世界史A (帝国書院) 副教材 明解 世界史Aノート (帝国書院)				
授業形態	講義形式・グループ学習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり  1節 東アジアの文明	各地域世界が形づくられていく過程を理解する。  東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。  東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。	6  【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。  【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。

	5	2節 南アジアの文 明	南アジアの文明の特質を理解する。	南アジアの風土と諸民族と宗教。仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響。	6	【関】南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	3節 東南アジア	東南アジアの特質を理解する。	自然環境や地理的位置に着目。インドと中国の両文明の影響の様子。それぞれの地域での多様な社会と文化。			【関】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	4節 西アジア・北アフリカの文明	西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	西アジア・北アフリカの風土と諸民族。イスラームの成立と拡大・分裂。			【関】西アジア・北アフリカについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、西アジア・北アフリカの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】西アジア・北アフリカがの成立とその特色、地域的な拡大と独自の世界の形成について、イスラーム国家の柔軟性やムスリム商人の役割などを把握し、基本的知識を身につけている。
6	5節 ヨーロッパの文明	ヨーロッパの文明の特質を理解する。	ヨーロッパの風土と諸民族。ギリシア・ローマ文明の伝統。キリスト教の発展。封建社会。		8	【関】ヨーロッパについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ヨーロッパ文明の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	6節 南北アメリカの文明	南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。	南北アメリカ大陸の風土と先住民。ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸独自の文化。			【関】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	7節 ユーラシアの交流圏	ユーラシアの交流圏が成立していくようすを巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	ユーラシア規模の交流圏が成立していくようす。			【関】ユーラシアの交流圏のに対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海域(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。

	7	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。	8	【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
2	8	2節 大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まつた世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まつた主権国家体制の形成。	2	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパ人による征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国 の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	8	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを見直して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを見直す技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。	
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展  3節 アジア諸国の動揺	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。  アジア諸国の動揺のようすを理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。  オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	8	【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃のを資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。  【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	

	11	4節 東アジアの大変動  2部 地球社会と日本 1章 現代世界の芽ばえと世界大戦 1節 現在につながる社会の形成	東アジアの大変動を理解する。  20世紀という時代の特質を把握するとともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。  交通革命。マスメディアの発達。企業や国家の巨大化。社会の大衆化と政治や文化の変容。公教育の普及と国民統合。世界の変容。	8	【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中の日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけていく。
	12	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀初頭の変化の様相を理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。	8	【関】第一次世界大戦、平和の意義などに対する関心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけている。
3	1	3節 “民族自決”を求めて  4節 経済危機から第二次世界大戦へ	“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。  第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。  第二次世界大戦。及ぼした影響。平和の意義。国際政治、国際関係の変遷と社会の特質。	4	【関】民族運動に対する関心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけている。  【関】戦争の特質と平和の意義について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】世界恐慌と資本主義の変容、20世紀前半の国際政治の流れ、第二次世界大戦の原因や性格、平和の意義について理解し、その知識を身につけている。

2	<p>2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代</p> <p>2節 冷戦終結への道のり</p>	<p>第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。</p> <p>米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。</p>	<p>第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。</p> <p>米ソ冷戦の終結。世界の変容。</p>	6	<p>【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけている。</p> <p>【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】市場経済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけている。</p>
3	3節 地球社会への歩み			6	<p>【関】これからの国際社会における日本の役割、共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけている。</p>

教科名	地理歴史	科目名	日本史A	単位数	2単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学以外)	履修形態	必修
科目の目標	①近現代の歴史的事象と現在との結びつきを調べ考える活動を通して現代の社会やその諸問題が歴史的に形成されたものであるという歴史を学ぶ意義に気付く ②近現代の日本史の展開を、年表や地図、その他の資料に基づいて学習し、近代社会が成立し発展する過程を理解する ③近代社会が成立し発展する過程を地理的条件や世界の歴史と関連付けて考察することを通して、歴史的思考力を身に付ける ④主体的な歴史学習を通して、現代の日本と世界の抱える諸課題について考察し、国際社会において平和で民主的な国家・社会を形成するために、私たちが果たすべき役割について考える				
学習内容の概要	第1章から第5章では、19世紀の世界の動向を受けて開国し、近代社会を成立させ、それを発展させていった日本の動きを学習する。第1章では国際環境の変化の中で進展した日本の近代化について、第2章では変動する東アジア世界における日本の動きについて、第3章では二つの世界大戦をめぐる国際情勢の中における日本について、第4章では第二次世界大戦後に形成された国際社会における日本の復興について、第5章では現代の世界と日本の動きについて学習する。各章末にはその時代の暮らしや文化を概観できるページを設けている。学習した内容を振り返り、政治や経済の変化が人々の暮らしや文化にもたらした影響について考える。各章末の「学習のまとめ」には課題を設定してあるので、課題に取り組むことを通してそれぞれの時代への理解を深めていく。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解	
	近現代の歴史的事象と現在との結びつきを意欲的に調べ、考え、歴史を学ぶ意義に気付き、関心を持って学習に取り組めているか。 現代の社会が抱える諸課題について、平和で民主的な世界、地域、国、社会を形成していく当事者として自覚を持って考える態度を身に付けているか。	近現代日本史の展開から課題を見出し、世界史や国際環境と関連づけ、実証的、多角的、多面的に考察しているか。 歴史的に形成された諸課題を様々な理解、立場があることを踏まえ、公正に判断しているか。 課題についての考察や判断の過程や結果を、効果的な方法を選択して適切に表現しているか。	近現代の日本の歴史を考察するために必要な諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択することができるか。 得られた資料や情報を効果的に活用し、歴史を探究する学び方を身に付けているか。	近現代の基本的な歴史的事象に関する知識を身に付け、近代社会が成立し発展する過程を理解しているか。 近現代の日本の歴史の展開を、地理的条件や世界の歴史と関連づけて理解しているか。	
教科書、教材など	東京書籍「日本史A」(日A308)、日本史Aワークノート(東書)				
授業形態	講義形式				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容	時間
1	4	第1章 近代日本の形成 1. 国際情勢の変化と明治維新	資本主義体制の発達した列強諸国が、市場と原料を求めてアジアへ進出すると、アジアではそれに抵抗する動きが起こったことを学ぶ。  ペリーの来航により、幕府の鎖国政策が破綻し、日米修好通商条約を調印するまでの経緯を学ぶ。	内憂外患に苦しむ日本では、老中水野忠邦による天保の改革が失敗し、幕府の権威が失墜する中、財政改革や富国強兵に成功した雄藩が成長したことを学習する。  開国と貿易による幕末の経済や社会の混乱について学習する。	6
	5		薩長同盟の成立から戊辰戦争までの経緯を学び、新政府が徳川氏とそれを支持する勢力を排除したことを学ぶ。	横浜と上海が、諸外国との窓口として発展した経緯を学び、東アジアの近代化の特徴について学習する。  開国後の政治の主導権をめぐる幕閣、雄藩、尊王攘夷派による争いの経緯を学習する。	
	6	2. 明治新政府の諸改革	地租改正により近代的な土地所有権が確立されたこと、政府が財源を確保・通貨を統一、官営工場を設立するなど、殖産興業に努めたことを学ぶ。	欧米の啓蒙主義が取り入れられる中で実業主義にもとづく学制が公布された後、次第に教育が国家主義化された経緯を学習する。	8

		岩倉使節団を派遣し欧米に学ぼうとした政府が、東アジア諸国に対して軍事力を用いながら交渉を進めた経緯を学ぶ。	政府が明治初期から、琉球に対して強圧的な態度をとり西の国境を画定していく一方、ロシアとは交渉により国境を画定していくことを学習する。	地図を活用し、当時の国境画定と現在の国土との関係について理解しているか。
7	3. 立憲国家の成立	明治六年の政変後、不平士族を中心に始まった自由民権運動が豪農層に広がり、私擬憲法が盛んに作られるなど活発化すると、政府内部にも国会の開設をめぐる対立が生じ、国会開設の勅諭が出される事態となった経緯を学ぶ。	松方財政で銀本位制が確立し、都市に流入する労働者が増え、資本主義発達の基礎が整ったことにより、紡績や鉄道、海運等の近代産業が急速に発達したことを学習する。	8 地図を利用し、激化事件が頻発した地域の特性を理解できたか。
2	8	初期議会における民党と政府との対立の推移、条約改正交渉が国際情勢の変化の中で進展したことを学ぶ。	大日本帝国憲法が制定され諸法典が編纂される経緯と、大日本帝国憲法の特徴(欽定憲法・天皇大權等)を学習する。	2 政府と民党の主張を整理し、初期議会の対立が激しくなった理由を理解できたか。
9		日清戦争の経過と下関条約の内容を関連づけて学び、日清戦争を経て、日本・清・朝鮮の関係がどのように変化したかを学ぶ。	議会運営のために藩閥と政党が接近し政党の政治的影響力が高まる一方で、軍部大臣現役武官制が定められ、政党の力を制限しようとする動きがあった。戦争を経験することで国民意識の形成が促されたことを学習する。	8 地図を用いて、日清戦争の主な戦場が朝鮮半島から遼東半島・山東半島に広がっていたことを理解できたか。
10	2. 日露戦争と帝国日本の形成	列強による中国分割が進む過程で日本とロシアの対立が生じ、日英同盟が結ばれたことを学ぶ。	朝鮮・満州における利権をめぐって日露戦争が起り、講和条約を結ぶまでの経緯と、国民の戦争に対する考え方の推移を学習する。 日露戦争後の政治が次第に民衆の要求に答えざるを得なくなっていた経緯を、社会主義の発達との関連を学習する。	8 日本が台湾、朝鮮を植民地とした経緯とその支配の方針を理解しているか。  辛亥革命により中華民国が成立した経緯とその後の展開を理解しているか。
	第3章 二つの世界大戦と日本 1. 帝国日本と第一次世界大戦	植民地獲得競争の激化により始まった第一次世界大戦の時期に、日本が中国への侵略を進めた経緯を学び、そのことが日本と中国や欧米列強との関係に与えた影響について学ぶ。	大正期に労働運動や女性運動などの社会運動が、経済的動向や国際的なデモクラシーの風潮の影響を受けながら組織的に行われるようになつたことを学習する。	二十一か条の要求の内容から、日本が中国侵略を進めたのはなぜか考察できたか。  三・一独立運動と五・四運動において人々が要求したこと学び、民族自決とはなにか着目できたか。  大正期に盛んになった社会運動から、当時の社会にどのような問題があったのか考察できたか。
11	2. 政党政治の時代	第二次護憲運動における護憲三派の主張を学び、政党内閣が憲政の常道となり男子普通選挙が実現した背景を、治安維持法も同時期に成立したことを学ぶ。	関東大震災は深刻な經濟的打撃だけではなく、人々の意識や行動にも混乱と変化を与え、軍部の影響力が強まるきっかけとなつたことを学習する。	8 東アジア太平洋地域にワシントン体制が築かれた理由を話し合い、第一次世界大戦後の国際情勢への理解を深められたか。

		3. 軍国日本への道	長く続く不況下で、金融や産業の独占が進み、中国侵略をめざす軍国主義化の機運や社会不安が高まり、さらに世界恐慌の影響を受けた昭和恐慌が起こった経緯を学ぶ。	昭和恐慌が深刻化し排外熱が高まる中で、メディアにあおられた国民の支持を受けて満州事変が進んだ結果、昭和恐慌から回復したものの、日本が国際社会から孤立していった経緯を学習する。	物価や小作争議の発生件数など、いくつかのグラフから昭和恐慌の様相を読み取れたか。
12	4. 太平洋戦争		第二次世界大戦が始まると、ドイツとの同盟を強めることで英米との戦争も辞さないという空気が高まったことが日米開戦につながったことを理解し、太平洋戦争の経緯を学ぶ。	「大東亜共栄圏」の理念と実態について理解し、「大東亜共栄圏」に組み込まれた地域の人々による抵抗について学習する。	8 戦局が悪化した後も戦争を継続させたことが、国内・占領地での過酷な動員や徵発による人々の暮らしの圧迫や、アメリカ軍の本土空襲による大きな被害につながったことを理解している。
3	第4章 第二次世界大戦後の国際社会と日本 1. 現代世界の開幕と日本の戦後改革		沖縄戦の実態を学び、何故住民に大きな被害が出たのか、終戦にいたるまでの日本・アメリカ・ソ連等の動向を学び、アメリカ軍主体の占領が開始された経緯を学ぶ。  戦後社会が直面した危機的な状況を学び、農村や都市で人々が展開した社会運動がめざした内容を学ぶ。	平和を模索する動きの中から国際連合が成立した一方、アメリカとソ連を二つの極とする東西冷戦が始まったこと、帝国主義の後退によりアジアやアフリカの諸国が独立したが、冷戦下で独立をめざしたアジア諸国の中には、民族分断を余儀なくされた国があったことを学習する。  経済再建の優先と労働運動圧迫との関係について学習する。	写真や映像資料を用いて、沖縄戦における住民の被害について理解しているか。これまでの学習を振り返り、なぜそれらの改革が必要だったのか理解しているか。  戦後の危機的な状況の中であっても、自由と平和のもとで人々は活発に活動するようになり、大衆文化が復興したほか、学問や言論の分野でも進展が見られたことを理解しているか。
3	2. 高度経済成長の時代		朝鮮戦争の勃発など東西冷戦が激しくなる中、日本がアメリカ側の諸国のみとサンフランシスコ平和条約を調印し、独立を回復した経緯を学ぶ。	現在にいたるまで諸外国から日本に戦後補償を求める声があがっている理由を学習する。	4 東西冷戦が続く中で防衛力増強に反対する国民運動を抑制するため、政府は教育や社会運動への統制を強め、保守政党が合同し保守派優位のもとで政治を安定させる55年体制が作られた経緯を理解しているか。
2	第5章 現代の世界と日本 1. 国際秩序のゆらぎと経済大国日本		経済成長を優先した結果、公害などの社会問題が生じ、環境や福祉、平和に対する人々の关心が高まり、革新勢力への支持が高まったことを学ぶ。  石油危機後も輸出を増加させて、欧米諸国との貿易摩擦を抱えながら経済成長を続けた日本経済がバブル経済とよばれる事態になった経緯を理解し、当時の人々の生活や大衆文化を学ぶ。	1960年代には政府主導の高度経済成長が実現した一方で、開放経済体制への移行が進み、日本の企業が厳しい国際競争にさらされるようになったこと、過疎・過密や公害などの問題も発生したことを学習する。  IMF体制の崩壊と石油危機は、日本だけではなく世界の経済に深刻な影響を与えたこと、その後の世界経済の展開を学習する。	6 高度経済成長が実現したのはなぜか、国内の要因と国際的な要因を理解しているか。  高度経済成長がもたらした変化について話し合い、理解を深めた。
3	2. 冷戦の終焉と日本		1989年に冷戦が終結した後、EUやAPECなどの地域統合・地域協力が目指される一方、東アジアを含む世界各地でナショナリズムが高まり、地域紛争が多発していることを学ぶ。	現在、世界で進んでいるグローバル化の意味を学び、重層化する世界の中で日本が国内外で抱えている課題、果たすべき役割について学習する。	6 バブル経済の崩壊とともに、政官財の癒着を生み出した自民党の長期政権への批判が高まり55年体制が崩壊したことを学び、その後、政界再編や構造改革が目指されてきた経緯を理解しているか。

教科名	数学	科目名	数学I	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志(大学進学クラスを除く)	履修形態	必修	
科目の目標	基礎から実践的な問題を通して数学全般の基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理をする能力を伸ばし、応用問題に対応できる力を身につけさせることを目標とする。					
学習内容の概要	『問題演習』					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 数学への関心・意欲・態度	B 数学的な見方や考え方	C 数学的な表現・処理	D 数量・図形などについての知識・理解		
	既習内容の全範囲に関心をもつとともに、それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり、試行の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、既習内容の全範囲における数学的な見方や考え方を身につけている。	既習内容の全範囲において、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身につけている。	既習内容の全範囲における基本的な概念、原理・原則などを体系的に理解し、知識を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 最新数学I(数研出版)、改訂版 最新数学A(数研出版) 補助教材:改訂版 3ROUND数学I+A(数研出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	1. 数と式	数学IAの範囲を復習し、基本的な問題の解法を身につける。		6	A/B/C/Dの総合評価
	5	2. 1次不等式			6	
	6	3. 集合と命題			8	
	7	4. 2次関数とグラフ			8	
	8				2	
2	9				8	
	10	5. 2次方程式と2次不等式			8	
	11	6. 三角比			8	
	12	7. 正弦定理・余弦定理			8	
	3	8. データの分析				

3	2	9. 場合の数と確率			6	
	3	10. 図形の性質			6	

教科名	理科	科目名	生物基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探求する能力と態度を育てるとともに、生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	中学校理科との関連を考慮しながら、生物学の基本的な概念の形成を図るとともに、生物学的に探求する方法の習得を通して、科学的な思考力、判断力及び表現力を育成する。内容は代謝、遺伝子、恒常性、免疫、生態系といった基礎的な内容を生物の多様性の中から法則を導き、その中の法則に基づきながら共通性を見いだしていく。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 観察・実験の技能	D 知識・理解		
	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生物現象への関心をもち、自然現象に対して探求していく態度を身につけている。	生物や生物現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、科学的に考察した考えを表現できている。	生物や生物現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、生物学的に探求する能力と技術を身につけている。	生物学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:高等学校改訂新生物基礎(第一学習社)					
授業形態	講義形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う。					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1 学期	4	生物の特徴	生物は多様であるが、細胞構造などの共通性や、共通の起源を学習する。また、酵素のはたらき、光合成と呼吸の学習を通して生物の代謝とエネルギーの取り出しについて理解する。	生物の多様性と共通	6	・生物のもつ特徴としての多様性と共通性、代謝、生物のエネルギーを扱うミトコンドリアと葉緑体について興味関心をもつ。
	5			エネルギー代謝 光合成と呼吸	6	・生物のもつ共通性と多様性が進化に基づくこと、酵素の働きと反応の調節の関係、生命活動にとってエネルギーとはどのようなものかを理解している。 ・原核生物と真核生物、カタラーゼによる過酸化水素の分解、葉緑体の観察を行う。
						・細胞構造の生物の共通性、生命活動の中で酵素やATPがどのような役割を担っているのか、呼吸と光合成の内容を理解する。

	6 7	遺伝子とその働き	DNAの構造、遺伝情報は塩基配列であることを理解し、タンパク質合成について学習する。また、遺伝子の複製と発現について学習する。	遺伝情報とDNA 遺伝情報の発現 遺伝情報の分配	8 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子はDNAであること、転写と翻訳の過程、遺伝情報の分配について興味関心をもつ。</li> <li>・塩基配列に遺伝情報があるということ、タンパク質とDNAの関係、遺伝情報の発現と細胞の分化の関係を考察する。</li> <li>・試料からDNAを抽出する方法、だ腺染色体の染色方法、細胞周期の各時期の時間の推定方法を学ぶ。</li> <li>・DNAの構造、アミノ酸の配列によるタンパク質の決定、DNAの分配を理解する。</li> </ul>	A B C D
2 学期	8 9 10	生物の体内環境と恒常性	恒常性のしくみについて理解し、循環系、肝臓と腎臓、自律神経系、内分泌系、免疫について学習する。	体液という体内環境  腎臓と肝臓  神経とホルモンによる調節	2 8 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体内環境、自律神経系とホルモンによる調節作用、生体防御のしくみについて探求しようとする。</li> <li>・体液とはたらき、腎臓と肝臓の機能、自律神経とホルモンが協同で作用する調節のしくみ、自然免疫と獲得免疫について説明できる。</li> <li>・腎臓の構造、運動による心拍の変化、赤血球の正確な細胞像を観察できる。</li> <li>・内部環境とその恒常性の維持について、尿生成の重要性、血糖濃度や体温についての恒常性のしくみ、自然免疫と獲得免疫の機構を理解する。</li> </ul>	A B C D
	11 12	植生の多様性と生態系	植生について、構造や遷移のしくみを理解する。また、世界と日本のバイオームと気温と降水量の関係を学習する。	さまざまな植生  植生の遷移  気候とバイオーム	8 8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・森林では階層構造を形成すること、植生遷移について、植生と環境のかかわりについて興味関心をもつ。</li> <li>・植生の特徴をとらえることができるか、植物どうしの資源をめぐる競争、バイオームの分布について考察する。</li> <li>・土壤にどのような種子が存在するか、照葉樹と夏緑樹の違いをまとめることができるか。</li> </ul>	A B C

					<ul style="list-style-type: none"> <li>遷移が起きるしくみ、バイオームが気温と降水量の違いに起因する、身近な植生を理解する。</li> </ul>	D
3 学 期	1	生態系とその保全	生態系の成り立ち、物質とエネルギーの循環について理解する。その上で、生態系と環境問題について学習する。	生態系  物質循環とエネルギーの流れ  生態系のバランス  人間活動と生態系の保全	<ul style="list-style-type: none"> <li>生態系とは何か、生態系での物質やエネルギーの移動、生態系におけるバランス、生態系における人間生活の影響について興味関心をもつ。</li> </ul>	A
	2				<ul style="list-style-type: none"> <li>作用と環境形成作用や相互作用がどのようなものであるのか、生態系のエネルギー移動、生態系のバランスが保たれるしくみ、そのバランスが人類の活動でどのように変化しつつあるのかを理解できているか。</li> </ul>	B
	3				<ul style="list-style-type: none"> <li>土壤動物であるミミズのはたらき、イオン濃度を適切に調べられるか、身近な外来生物をインターネットで調べることができる。</li> <li>生態系を1つのまとまりとして捉えることができるか、窒素循環や窒素固定などについての理解、生態系のバランス、これまでの学習を通じて得た知識を活用して、環境問題について保全の方法を具体的に考えることができる。</li> </ul>	C D

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	○心と体の成長 ○各種の運動に取り組むことで、生涯体育への意識を身につける ○安全面に配慮し、ケガや病気をせずに健康的な生活を送る習慣を身につける				
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるよう、自ら進んで計画的に運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。	
教科書、教材など	特になし				
授業形態	実技(男女別合併授業)				

### 年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察
	5	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	運動とスポーツの技術と技能、技能の上達、技能と体力関係。	6	授業中の行動の観察 評価テスト(総時数6時間)
	5	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	実生活に生かす様々な体ほぐしの運動を組み合わせて行う。	6	授業中の行動の観察 実技テスト
	6	新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。	8	診断テスト結果
	6	陸上競技	自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。	各種目の基本技能の習得。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	7	バレーボール ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	8				2	
2	9				8	
	10	サッカー	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	チームが目指す目標に応じたチームや事故の課題を設定し、ゲームが出来るようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	11	バスケットボール			8	
	12				8	

3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作が出来るようにする。  ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようにする。	4	授業中の行動の観察 実技テスト	
	2	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と一緒に楽しく踊ったりし、発表できるようにする。		6	授業中の行動の観察 作品の評価	
	3				6	※ 年間を通しての出席状況	

教科名 対象学年	保健体育 第2学年	科目名 対象コース	保健 研志コース	単位数 履修形態	1単位 必修		
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。						
学習内容の概要	<p>②生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、および我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。</p>						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解		
	健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。		健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。		
教科書、教材など	教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)						
授業形態	教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	単元2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	思春期における体の変化と心の発達にかかる健康課題を理解する。	性ホルモン、生殖器の発達 精神的な不安定	3		
	5	②性への関心・欲求と性行動	性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。	セクシュアルハラスメント 性情報と性行動			
	6	③妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を理解する。	母子健康手帳 母子保健サービス	3		
	6	④避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法を理解し、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響を理解する。	家族計画 人工妊娠中絶	4		
	7	⑤結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について理解する。	性機能の成熟 精神面での発達 健康状態の把握	4		
	2	8	⑥中高年期と健康	中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みを理解する。	健康診断 生きがい ノーマライゼーション	1	定期考查 ノートチェック
	9	⑦医薬品とその活用	医薬品の正しい使用法について理解する。	医療用医薬品 自然治癒力 お薬手帳	4	授業への取り組み A,B,C,Dで評価する	

10	⑧医療サービスとの活用  ⑨保健サービスとの活用	医療サービスをうける時の留意点を理解する。  保健行政の役割について理解する。	医療保険 インフォームド・コンセントとセカンドオピニオン  保健行政 保健サービス 健康相談	4
11	⑩さまざまな保健活動や対策  单元3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康	民間や国際機関などの保健活動や対策について理解する。  大気汚染の原因とその健康影響を理解する。	日本赤十字社の取組み WHOの取組み ヘルスプロモーション  大気汚染物質 ダイオキシン 地球温暖化	4  定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
12	②水質汚濁、土壤汚染と健康  ③環境汚染を防ぐ取り組み	水質汚濁、土壤汚染の原因とその健康影響を理解する。  今日の環境汚染の特徴を理解する。	重金属 有機物 富栄養化  排出基準 環境基本法 産業廃棄物 環境負荷	4
3	④ごみの処理と上下水道の整備  ⑤食品の安全を守る活動  ⑥働くことと健康	ゴミの処理の現状や、その課題について理解する。  食品の安全のため、消費者が行うべきことを理解する。  働く人の健康問題と労働災害の防ぎ方について理解する。	環境型社会  食品添加物 食品衛生監視委員 食中毒予防三原則  働き方の変化とストレス 労働災害 作業環境 健康管理	2  定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
	⑦働く人の健康づくり	職場がおこなう健康増進対策と、余暇の大切さとその活用の仕方にについて理解する。	メンタルヘルスケア ワークライフバランス 余暇の確保	3

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	1単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修
科目の目標	・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。				
学習内容の概要	・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	<p><b>意欲・関心・態度</b> 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。</p>		<p><b>芸術的な感受や表現の工夫</b> 感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。</p>	<p><b>創造的な表現の技能</b> 自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けている。</p>	<p><b>鑑賞の能力</b> 多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。</p>
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー				
授業形態	講義、実技、鑑賞				

#### 年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション アルトリコーダー実技	B♭ C♯の運指を覚える。	二重奏「小さな木の実」	3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。
	5				3	
	6	音楽の歴史と鑑賞	古典派の作曲家とその音楽を理解する。	ハイドン モーツアルト ベートーヴェン	4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
2	7		映画により、モーツアルトについて深く知る。	「アマデウス」	4	モーツアルトについてより深く知ることができたか。
	8	アルトリコーダー実技	読譜能力を高める。 レガート奏法を身につける。	二重奏「魔弾の射手」 二重奏「愛の喜び」	1	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。
	9				4	
	10	音楽の歴史と鑑賞	ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	シューベルト メンデルスゾーン J.ショトラウス ショパン	4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
3	11				4	
	12	鑑賞	映画と映画中の音楽を味わう。	「陽のあたる教室」	4	映画と映画中の音楽を味わうことができたか。
	1	アルトリコーダー実技 鑑賞	F♯ D♯の運指を覚える。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「少年時代」 ドボルザーク スマタナ	2	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。
3	2				3	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
	3				3	

教 科 名	芸術	科 目 名	美術 I	単 位 数	1 単位
対 象 学 年	第 2 学年	対象コース	研志コース	履 修 形 態	選択必修
科 目 の 目 標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンドアート制作…砂を使った絵画技法を学び作画を行う。</li> <li>・水墨画…墨についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</li> </ul>				
科 目 の 評 価 基 準 (観点及びその趣旨)	<p><b>意 欲 ・ 関 心 ・ 態 度</b> 美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>		<p><b>芸 術 的 な 感 受 や 表 現 の 工 夫</b> 墨、色砂のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。</p>	<p><b>創 造 的 な 表 現 の 技 能</b> 創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。</p>	<p><b>鑑 賞 の 能 力</b> 日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。</p>
教科書、教材など	高校生の美術 I (日本文教出版) スケッチブック、書道セット、サンドアートセット、半紙、和紙				
授 業 形 態	講義、実技、鑑賞				
年 間 授 業 計 画					
学 期	月	单 元	单 元 の 目 標	学 习 内 容 (実験・実習等)	時 间
1	4	オリエンテーション 水墨画の世界①	前年の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。  墨の技法について理解し、その特性を生かして作品に取り組む。	<p>「墨を知ろう」</p> <p>「食べ物を描こう」</p> <p>「人物を描こう」</p>	3
	5				3
	6				4
	7				4
2	8	水墨画の世界② 砂絵、サンドアートの世界①	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。  サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	<p>「北斎漫画とは」 映像学習 「北斎なろう」</p> <p>「色砂に親しもう」</p> <p>「模範作品を作ろう」</p>	1
	9				4
	10				4
	11				4
3	12				4
	1	砂絵、サンドアートの世界①	学習した技法を生かし、意図に応じた個性的な表現の工夫をする。	「オリジナル作品を描こう」	2
	2				3
	3				3

教科名	芸術	科目名	書道I	単位数	1 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。				
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じりの書…高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。</li> <li>漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> <li>仮名の書…日本の重要文化である仮名の発生と展開を理解し、また臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> </ul> <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・关心・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。	
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙				
授業形態	講義、実技、鑑賞				

年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、楷書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①顏氏家廟碑 ②鄭羲下碑 ③牛橛造像記 【創作】 古典を基にした一字創作	3
	5 6 7	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、行書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①争坐位文稿	3 4 4
2	8	漢字仮名交じりの書②	・学習した古典の用筆法に基づいた表現を行う。 ・感興や意図に基づく個性的な表現の工夫を行う。	「自作の高校生短歌を書こう」	1
	9 10 11 12	漢字の書の学習③ 【篆書・隸書の古典に学ぶ】 創作活動	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、篆・隸書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①甲骨文②泰山刻石 ③曹全碑 書道カレンダーを作ろう	4 4 4 4
3	1 2 3	仮名の書の学習	・仮名の歴史や諸要素を理解する。 ・仮名の用筆法を身に付け、表現する。	基本点画練習 【古筆臨書】 ①高野切第3種 ②寸松庵色紙 【創作】 古筆を基にした半紙創作	2 3 3

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース (キャリア・保育・看護分野)	履修形態	必修	
科目の目標	<p>英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。</p> <p>① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。</p> <p>② 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすこと。</p>					
学習内容の概要	<p>(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。</p> <p>ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。</p> <p>イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。</p> <p>エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとめりのある文章を書く。</p> <p>(2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。</p> <p>ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。</p> <p>イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。</p> <p>ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。</p> <p>エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度	B:外国語表現の能力	C:外国語理解の能力	D:言語や文化についての知識・理解		
	コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Revised COMET ENGLISH Communication II					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	單元	單元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4 5	Lesson1 Staying in Space	・宇宙での暮らしと地上との違いを知る。	that-節 相手の発言を確かめる表現 Are you sure?	9 9	A,C,D
	6 7	Lesson2 Doraemon in the U.S.	・アメリカに渡った日本の人気アニメ『ドラえもん』日米での内容の違いを知る。	wantなど+ (人) +to 不定詞 相手の情報・意見を聞く表現 How about you?	12 12	A,B,C,D
2	8 9	Lesson3 Farm in the Sky	・シンガポールの新しい農法から未来の農業の可能性を考察する。	疑問詞+to-不定詞 言い直す表現 I mean~	3 12	A,B,C

	10	Lesson4 Goal Setting	・「目標倒れ」にならないための効果的な目標設定術を紹介	分詞構文(同時・時・理由) 相手をほめる表現 You did it!	12	B,C,D
	11	Lesson5 The High School Student	・高校生が運営するレストラン「まごの店」で働く生徒の日記から	形式主語 It 望みや気持ちを表す表現 feel like ~ing	12	A,B,C
	12	Reading 1 The Swing What are heavy?	英語の詩3編を鑑賞する		12	A,B
3	1	Lesson6 Why Is It That Shape?	・5円硬貨、観覧車… 身近なモノの形にある理由を知る。	関係代名詞 what 理由を述べる表現 This is because ~	6	B,C,D
	2	Lesson7 Fuji, a Dolphin With a New Fin	・尾びれを失い泳げなくなったイルカ、フジが人工尾びれで泳ぎを取り戻せるまで	過去完了形 (大過去・継続・完了・経験) 感情を尋ねる表現 How was ~?	9	B,C,D
	3				9	

教科名	外国語	科目名	英語表現 I	単位数	2 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	研志コース(看護医療)	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。					
学習内容の概要	<p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。      イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。      ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度  ・モデル会話を関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B 表現の能力: 話すこと(S), 書くこと(W)  ・モデル会話を英語らしい発音で発話することができます。 ・例文を英語らしい発音で発話することができます。 ・自分のことや与えられた課題について話すことができる。 ・学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 ・自分のことや与えられた課題について書くことができる。 ・紹介するトピックを決め、原稿を書くことができる。	C 理解の能力: 聞くこと(L), 読むこと(R)  ・モデル会話を聞くことができる、正しい解答を選べる。 ・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・パートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。 ・つなぎの言葉の使い方を理解している。 ・パラグラフの構成を理解している。 ・文章の要点をつかむことができる。	D 言語や文化についての知識・理解  ・いろんなトピックについて、内容を理解することができます。 ・それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ・学習した文法を理解し、知識として定着している。		
教科書、教材など	Vision Quest English Expression I Core (61 啓林館 英 I 330)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson 1 Do you like sports? スポーツは好き?	初対面での自然な会話の流れを学び、自己紹介や他者紹介ができる。	G 文の種類 F 相づちを打つ／聞き直す T 紹介 P イントネーション	6	(a) (c) (d) A-B-C-D
	5	Lesson 2 I study Japanese through anime アニメで日本語を学んでいます。	興味や関心を表す表現を学び、自らの興味・関心を紹介し、感想やおすすめの作品を伝えられる。	G 文型と動詞 F 言いかえる/話題を変える T 興味・関心 P リズム	6	(a) (c) A-B-C-D
	6	Lesson 3 Will you go home this summer? この夏は国に帰るの?	予定を尋ねたり伝えたリする会話を学び、旅行のプランを作って、ペアで発表できるようになる。	G 時制 F 計画する/予定する T スポーツ P 母音①	8	(a) (b) (c) A-B-C-D

	Lesson 4 I've never played soccer before. サッカーはやったことがないんだ。	スポーツに関する表現を学び、スポーツ活動の経験を尋ねたり伝えたりできるようになる。	G 完了形 F 原因・理由を述べる T スポーツ P 母音②	(a) (c) (d) A-B-C-D
2	7 Lesson 5 The apple pie is delicious. アップルパイ、おいしいよ。	レストランでの会話表現を学び、食事の注文ができるようになる。	G 助動詞 F 許可を求める/依頼する T 食事 P 子音①	8 (a) (c) (d) A-B-C-D
	8 Lesson 6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. シドニー・オペラハウスが見られてすごくうれしい。	観光地や名所について説明を聞き、感想を表せる。観光地の案内ができるようになる。	G 受動態 F 喜ぶ/驚く T 観光 P 子音②	2 (c) A-B-C-D
	9 Lesson 7 Thank you for your invitation today. 今日はご招待ありがとうございます。	パーティで招待された時やプレゼントを渡す時、お礼をいう時の表現を学び、伝えられるようになる。	G 不定詞 F 感謝する/謝罪する T 交際 P アクセント	8 (a) (c) A-B-C-D
	10 Lesson 8 How about going together this weekend? 今週末、一緒に行かない?	娯楽への誘い方を学ぶ。趣味について話し合ったり、メールを書いていたりできるようになる。	G 動名詞 F 勧誘する／申し出る T 娯楽 P カタカナ語	8 (a) (b) (c) A-B-C-D
	11 Lesson 9 I'm unhappy with our school uniforms. 私は学校の制服が気に入らない。	学校の制服について賛成・反対意見を述べ合い、自分の意見を言うことができるようになる。	G 分詞 F 賛成する/反対する T ルール P 数字の発音	8 (a) (c) (d) A-B-C-D

3	12	Lesson 10 That's why it looks so nice! それであんなに立派なんだ！	日米の冬の行事について紹介し、文化の違いについて話し合う会話を学び、日本の文化や行事の紹介ができる。	G 関係詞 F 説明する T 文化 P つながる音	8	(a) (c) A-B-C-D
	1	Lesson 11 I hear the population of Japan is falling quickly. 日本の人口は急速に減っているって聞いたよ。	読書の必要性についての会話を学ぶ。日本の出生率の低下について自分の意見を表現できる。	G 比較 F 意見を述べる/主張する T 社会 P 変わる音	4	(a) (c) A-B-C-D
	2				6	(a) (d) A-B-C-D
	3	Lesson 12 I wish it were possible to get it back. 元に戻せたらいいんだけど。	悩み事についての会話でアドバイスの仕方を学ぶ。悩んでいる人への助言や提案ができるようになる。	G 仮定法 F 助言する/提案する T 悩み事 P 聞こえなくなる音	6	(a) (b) (c) A-B-C-D  評価対象 (a) 授業中の活動 (b) 発表 (c) 課題の提出 (d) 小テスト・定期考查
		復習	要点・要約の書き方 G : Grammar F : Function T : Topic P : Pronunciation			

教科名	科目名	簡易ソフト	単位数	2 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態		
科目の目標	表計算ソフトウェアの基礎的な知識・操作を学習する。基礎的な関数を学び、与えられた問題を理解し、素早く処理する応用能力、実務的能力を身につけさせる。また、表計算の応用・ポスター等の作成により幅広く表計算ソフトが使えるようにする。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全商情報処理検定3級基準の用語の学習 ハードウェア、ソフトウェア、通信ネットワーク</li> <li>・集計処理、図形処理</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度 ビジネスにおける情報の活用に関心を持ち、ビジネスの諸活動において情報を主体的に活用しようとする。	B 思考・判断 情報をビジネスに活用するために目的に応じた機器やソフトウェアを選択して利用し、情報モラルを踏まえた適切な判断ができる。	C 技能・表現 表計算ソフトウェアを用いて情報の整理や加工分析などの基礎的な技術を身につけることができる。	D 知識・理解 ビジネスにおける情報活用の意義と役割を理解するとともに、それを実践するために必要な知識を身につける。		
教科書、教材など	全商情報処理検定模擬試験問題集3級(実教出版)					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	コンピュータ3級の関数	コンピュータの応用的な仕組みや働きを理解。高度な関数の働きを理解及び図形作成。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3級の関数</li> <li>・ワークシートの利用</li> <li>・集計処理、番地、並べ替え</li> <li>・関数の利用</li> <li>・判定、論理演算</li> <li>・行方向、列方向の参照</li> <li>・行方向、列方向の検索</li> <li>・順位付け、カウント</li> <li>・最大値、最小値</li> <li>・条件付き合計</li> <li>・応用的な図形処理</li> </ul>	6	・コンピューターの応用的な仕組みや働きを理解できた
	5	集計処理 図形処理			6	・高度な関数を身につけることができたか。(A, C)
	6				8	
	7				8	
2	8				2	
	9	ハードウェア・ソフトウェアに関する知識			8	
	10	通信ネットワーク・モラル・セキュリティに関する知識			8	
	11	検定模擬問題	全商情報処理検定の模擬問題を学習し、必要な技法・知識を定着する。		8	・検定模擬問題を繰り返し解き、必要な知識、技能が習得できたか確認する。(B, C, D)
	12				8	
3	1				4	
	2	コンピュータ2級の関数	全商情報処理検定2級の基本的な表計算ソフトウェアの活用方法を学習する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2級の関数</li> </ul>	6	
	3				6	

教科名	総合	科目名	看護医療研究	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(看護医療福祉系)	履修形態	必須
科目の目標	1. 看護医療福祉の各分野の基礎的事項を横断的に理解し、チーム医療に対する基本的な考え方を身に付け、また他者を思いやり尊重する態度を養う。 2. 様々な学習体験を通じ、医療福祉従事者としての心構えを身に付けると同時に、必要とされる資質を身に付け高める。				
学習内容の概要	看護・医療・福祉の分野を切り離すことなく、互いの職務を理解し、また体験などを行うことでより幅広い資質と考えを身に付けた人間性を養う。現場の医療従事者の講話や自身の体験を通じ、現場で求められる人物を理解すると同時に、関連する基本的な知識や技術を身に付ける。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能	知識・理解
	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し意欲的に取り組むことができる。		諸体験を通じ、各分野に求められる資質を考え、それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	様々な体験を通じ、各分野で求められる基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身につけ、その意義や社会的役割を理解している。
教科書、教材など	適宜プリントやワークシートを配布し、看護ファイルに蓄積する。				
授業形態	一斉講義、講演、各種医療体験等				

**年間行事計画**

学期	月	單元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	看護医療福祉オリエンテーション	進路選択の材料ともすべく、基本的な内容について理解を深める。	資格や職種についての基礎知識を学ぶ。 (チーム医療とは、就労までの流れ、国家試験、勤務場所、進学先による学びや将来の違いについて等)	6	仕事に関する基本的な内容を理解できたか。
	5	職種調べ	多職種についての理解を深め、チーム医療についての見識を深める。	各職種に分かれ、その内容について調べ、まとめた後グループごとに発表を行う。	6	他の職種についても興味関心を持って理解を深め、チーム医療とは何かを考えることができたか。
	6	医療従事者の講話	医療従事者の方から直接仕事に関する全般的な話を聴き、より理解を深める。	看護師、リハビリ、介護福祉士の3職種について実際にその職種についての基礎的な講話を聞く。 事前学習⇒講和⇒まとめ⇒発表 i 看護とは ii リハビリとは iii 介護福祉とは	8	能動的に話を聞き、仕事への理解を深めるとともに、就労意欲の向上を図ることが出来たか。
	7	病院見学 学校見学	実際に働く姿、学ぶ姿に触れることで、仕事に対する理解を深めると同時に、進学、就労意識の高揚を図る。	病院見学では多職種の仕事に実際に触れ、一部体験も行う。 大学・専門学校に伺い、それぞれの学びを体験する。 事前学習⇒体験⇒まとめ⇒発表	8	積極的に見学に参加し、仕事や学びへの理解を深めることができたか。
	8				2	協同作業を通して自身に与えられた役割を果たし、協調性を高めることができたか。

2	9	学生による講和	上級学校での学びについての理解を深めながら、自己適性の理解と一層の意欲の向上を図る。	本校卒業生による大学、専門学校での学びについて話を聞く。 事前学習⇒体験⇒まとめ	8	学びについての理解を深めながら、自己適性の理解と一層の意欲の向上を図ることができたか。				
		赤十字救急法基礎講習受講(資格取得)	講習を通し、生命に携わる職種への認識を新たにし学習意欲の向上を図り、また日常生活でも有為となる基礎的知識と技術を身に付ける。	救急法の講習を受講し、修了に向けて取り組む。		積極的に講習に参加し、修了に向けて真摯に取り組むことが出来たか。 学んだ内容の定着を図り、日常生活への応用を試みようとする姿勢が身についたか。				
		専門学校による出前講座	主体的に看護医療福祉の基礎的技術の習得に取り組む。	専門学校教員より看護学校での学びがどのようなものか、求められる力は何か等多岐に亘る講演を頂き、また看護の基礎的な技術について体験、習得する。 振り返りを行う。		主体的に看護医療福祉の基礎的技術の習得に取り組むことができたか。 学習内容を知識として定着させ、自身の今後につなげる積極的な姿勢が身についたか。				
3	11	医療用語研究	興味関心を持って調べ学習を行い、入試にも求められる看護医療福祉に関する用語への理解を深め定着を図る。	高校生が知っておくべき医療用語について分担して調べ学習を行う。発表の後冊子にまとめる。	8	医療用語に対する関心を高め、積極的に調べ学習に取り組むことができたか。				
3	1	看護医療福祉時事研究 I	各分野が抱える諸問題について理解を深め、その背景や解決策等を意欲的に考える。	グループに分かれ、興味関心をもった時事問題について調べ学習を行いまどめる。発表を通して様々な問題について知る。	4	日常的に各分野における時事問題に关心を持ち、疑問や課題に対して積極的に臨む姿勢が身についたか。				
	2	介護福祉施設見学および体験								
	3									

教科名	理科	科目名	化学基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(看護医療福祉系)	履修形態	必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化への関心を高め、目的意識を持って観察、実験などを行い、科学的に探求する能力と態度を育てるとともに、化学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	1 化学と人間生活 2 物質の構成 3 物質の変化					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度  自然の事物・現象に関心や探求心を持ち意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的态度を身につけている。	B 思考・判断  化学や化学現象を通して、自然現象の中に問題を見いだし、探求する過程を通して、事象を科学的に考察した考えを表現している。	C 技能・表現  化学や化学現象について、目的意識をもって観察・実験を行い、科学的に探求する能力と技術を身につけている。	D 知識・理解  化学の基本的な概念や原理・概念を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:高等学校 改訂 新化学基礎(第一学習者) 副教材:改訂 ネオパルノート化学基礎(第一学習社)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)を主体とし、必要に応じて観察・実験および問題演習を行う					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	序 化学と人間生活	生活の中の化学について再発見をし、化学の役割について理解を深める。		6	・化学と人間生活における役割について関心を示し、理解しようとする。 A
	5	第1章 物質の構成 1節 物質の探求 2節 物質の構成粒子	物質が原子、イオン、分子から構成されていることを理解する。 構成粒子の違いと物質の種類の違いを理解する。	物質の種類と性質 物質と元素 物質の三態と熱運動 原子の構造 電子配置と周期表	6	・物質の状態変化は、構成粒子の分子運動に関係し、それが温度や圧力によるものであることを論理的、総合的に判断できる。 B
	6	第2章 物質と化学結合 1節 イオンとイオン結合 2節 分子と共有結合	イオンの生成を電子配置と関連づけて理解し、イオン結合及びイオン結合からなる物質の性質を理解する。 共有結合を電子配置と関連づけて理解し、分子からなる物質の性質を理解する。さらに、分子間の結合によって物質ができる事を理解する。	イオン間の結合 イオン結合でできた物質 原子間の結合 共有結合でできた物質 分子間の結合	8	・物質の構成粒子や量的関係に関する基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身につけていく。 D
	7	3節 金属と金属結合	金属原子間の結合 金属結合でできた物質	金属原子間の結合 金属結合でできた物質	8	・物質の性質は、結合の違いによって異なることを代表的な物質の性質の比較から推論できる。 B  ・物質の構成粒子の違いによる結合・結晶の差異を、代表的な物質から具体的に理解し、知識を身につけている。 D

2	8	第3章 物質の変化 1節 物質量と化学反応式	原子量・分子量・式量などの物質量の基本事項を学ぶ。 物質量と溶液の濃度の関係を学ぶ。 化学反応式は化学反応に関与する物質との量的関係を表すことを理解する。 化学の進歩の歴史と基本的な法則の発見の経緯について理解する。	原子量・分子量・式量 物質量 溶液の濃度 化学反応式と量的関係 基本法則に関連した化学史	2 8 8	・原子量・分子量・式量と物質量の定義を理解し、物質量を用いた基本的な計算ができ、化学変化には一定の量的関係があることを考察できる。 ・化学式を使用できるとともに、原子量、分子量、式量と物質量の知識を身につけている。また、物質量の概念を用いて、化学変化の量的関係を把握する方法を理解し、知識を身につけている。	B D
		2節 酸と塩基	水溶液の酸性・塩基性の強弱と水素イオン濃度との関係及びpHについて理解する。 酸と塩基の性質と、中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 中和滴定と滴定曲線により、中和反応を理解する。	酸と塩基 水素イオン濃度とpH 中和反応 塩 中和滴定と滴定曲線		・酸、塩基や中和反応に関心を持ち、それらを日常生活に関連付けて意欲的に探究しようとする。 ・酸・塩基の観察、実験をもとに共通性を見出し、酸・塩基の定義を理解し、日常生活と関連づけて酸・塩基反応を考察できる。	
				・ここでの特別な実験器具の取り扱いができると同時に、酸塩基の量関係から濃度未知の酸や塩基の濃度を求める技能を修得している。			
	11	3節 酸化還元反応	酸化・還元の定義を学び、酸化・還元を統一的に理解する。また、酸化剤や還元剤の反応や実用電池の形成の関係を理解する。	酸化と還元 酸化剤・還元剤 酸化還元反応の起こりやすさ 身のまわりの酸化還元反応	4 6 6	・実用電池や金属の製錬と酸化還元反応との関連性を見出し、論理的に考察し、科学的に判断できる。 ・電子の授受や酸化数の変化から酸化還元反応を理解し、知識を身につけている。 ・金属のイオン化傾向とそれによる反応性の違いを理解し、実用電池など身近に酸化還元反応が利用されていることを知っている。	B D D

教科名	総合	科目名	自己表現	単位数	2単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(看護医療福祉系)	履修形態	必修	
科目の目標	1. 他者と協同学習を通して相互理解を進んで図り、思いやりと協調性を備えたコミュニケーション能力を育成する。 2. 看護・医療・福祉の各分野で求められる基礎的な教養を養い、資質の向上を					
学習内容の概要	グループで調べ学習を行い、発表する中で、相手に「伝える」・相手を「理解する」スキルを身に付ける。また3教科を中心に、進学先や就労後に求められる基礎的教養を身に付けるため、資格取得にも積極的に取り組む。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	運動技能	知識・理解	
	看護・医療・福祉に関する諸問題に関心を持ち、疑問の解決や資質の向上を目指し、意欲的に取り組むことができる。		諸体験を通し、各分野に求められる資質を考え、それを基にした学習意欲の喚起と実践を行うことができる。	様々な体験を通し、各分野で求められる基礎的な技術の習得をしている。	看護・医療・福祉の各分野に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、その意義や社会的役割を理解している。	
教科書、教材など	適宜プリントやワークシートを配布し、看護ファイルに蓄積する。					
授業形態	一斉講義、講演、各種医療体験など					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	授業ガイダンス 協同作業 「学校菜園に取り組む」	花、野菜を育て、愛情と思いやりを持って物事に向き合う姿勢を養うとともに、協調性と責任感を高める。	校内に畑を作り、果樹や野菜を育て、収穫を目指す。また校内の緑化も担い、花壇の整備や植え替えを行う。	6 6 8	物を大切に扱う姿勢を身に付け、協調性と責任感を高めることができたか。
	5	夏季休業ボランティア・1日医療体験	幅広い年齢層とのコミュニケーション能力を高め、基礎的な技術を習得するとともに、他職種への理解を深める。	ガイダンス⇒事前学習⇒体験⇒振り返り・まとめ⇒発表を行う。	8 2	幅広い年齢層とのコミュニケーション能力を高め、基礎的な技術を習得するとともに、他職種への理解を深めることができたか。
2	8					
	9	日本漢字能力検定	漢字検定取得を目指すと同時に、就労時に求められる国語力を高める。	3年6月に準2級取得を目指す目標に、自己設定の上、学習に取り組む。	8	資格取得に向け積極的かつ意欲的に取り組むことができた。

3	10	看護数学基礎	現場で必要となる計算について理解を深め、実践できる下地を作る。	百分率を中心に、義務教育範囲を理解し、国家試験の計算問題を解く基礎を固める。	8 8
	11	福祉施設での催し・展示企画 (看護医療研究の施設訪問とタイアップ)	相手の立場になつて物事を考える力を養うと同時に、協調性を高める。	入居者の方を対象としたイベントの企画立案を行う。また施設に展示する作品を制作する。	8 4
	12	看護医療福祉関連図書	各分野に関する図書を読み見識を深めるとともに、要約する力、文章整理力、伝達する力を高める。	各分野に関する図書を用意し、感想、要約、紹介文を作成する。ブックトークも行う。	6 6

教科名	国語	科目名	現代文B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(看護福祉・文芸大学)	履修形態	必修	
科目の目標	近代以降の優れた文章や作品を読解し鑑賞する能力を高めるとともに、思考力を伸ばし心情を豊かにし、更に言語感覚を磨き表現力を身につけ、自ら積極的に読書する姿勢を身につけることにより人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>文章の的確な読解を通して、客観的な理解・認識する力、主体的に思考・判断する力を養う。</li> <li>文学作品を通して、日本語の美しさや表現の豊かさを味わい、自分自身や他の世界に対する感受性や想像力を育む。</li> <li>現代社会で求められる多様な言語能力を養うため、自身の考えを効果的に伝える表現力・コミュニケーション力を高める。</li> <li>生涯にわたり読書に親しむ習慣を身につける。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、言語文化に対する関心を深め、国語を尊重してその向上を図ろうとする。	目的や場に応じて効果的に話し的確に聞き取ったり、話し合つたりして、自分の考えをまとめ、深めている。	相手や目的、意図に応じた適切な表現による文章を書き、自分の考えをまとめ、深めている。	文章を的確に読み取ったり、目的に応じて幅広く読んだりして、自分の考えを深め、発展させている。	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり、漢字などについて理解し、知識を身に付けている。	
教科書、教材など	教科書:精選現代文B (東京書籍) 補助教材:精選現代文B 学習課題ノート(東京書籍)、常用国語便覧(浜島書店)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	世界をつくり替えるために	・評論を読み、表現の特徴に注意して筆者の主張を的確に捉える。	学ぶことの意味について、筆者の主張を読み取り、自分に引き寄せて考える。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	5	ミロのヴィーナス	・冒頭の文の主旨を読み取り、逆接について理解し、本文の着眼の仕方について考え、まとめる。	具体例に注目して筆者の主張を理解し、芸術の見方について考える。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	6	山月記	・小説を自己の問題に引き付けて味わう姿勢を養い、自己について考えを深める。	登場人物の心情を表現に即して把握し、主人公の内面と苦悩について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	7	相手依存の自己規	・評論の文章を読み、具体例がどのように結論の根拠となっているかを学ぶ。	具体的な事例と筆者の意見の関係に注意して読み、言語と自我の構造について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	8	見えない季節・未確認飛行物体・竹・永訣の朝	・詩の構成、展開に沿って作者の心情を深くつかむ。 ・比喩や対比の表現の特徴と効果をつかむ。	表現やリズムに留意して音読し、特色として気づいたことやその効果について考える。	12	・作品を表現に即して深く読み取り、作者の感動の焦点をおさえ、味わうことができたか。

2	8	旅する本	・登場人物の心情を表現から読み取り、その変化を的確に捉え、作品の主題を考える。	「旅する本」という表現に込められた寓意を把握し、「本」について考えを広げる。	3	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	9	科学的「発見」とは  おじいさんのランプ	・さまざまな物事に対する判断やものの見方、学術研究などの基本に関わる問題をつかむ。  ・情報化の進行により人間と知との関係は大きく変化していることを理解し、視点を変えることでその問題を理解する。	本文中の二つの課題を追体験して読み、科学的視点の持ち方とその意義を理解する。  話題と主張の関係に着目して読み、時代とともに変わっていく本の在り方について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績  ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	10	消費されるスポーツ	・スポーツを社会学的な視野で捉え、「大衆消費社会」の姿について考える。	筆者の提示する問題を読み取って整理し、メディアとスポーツの関係について理解を深める。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
		牡丹花は(短歌) プラタナス(俳句)	・短詩形文学の感動の焦点をおさえ、主題をとらえられる。	さまざまな表現、内容を整理し、さまざまな取り合わせや表現方法を整理する。		・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
11		こころ	・作品を深く読んで人間のあり方についての問題意識をつかむ。	人間関係における人物の心情を的確に把握して、人の心のありようについて考えを深める。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績  ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
		「である」と「する」こと	・明晰な論理展開を読み取り、日本の近代化の特質とその問題について考える。	例示と意見の関係を整理して主張を捉え、変化する社会における人間の在り方について考える。		・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
12		人間の運命と科学  蟻	・社会と人間のあり方を主題とする評論を読み、自己の価値観と照らし合わせて考える。  ・文体や修辞など表現上の特色をとらえ、作品に描かれた情景や心情を味わう。	論の展開と構成を把握して主張を捉え、科学と人間の関係について考えを深める。  視点の移動に注意しながら、描かれた場面や状況を読み取り、主題について考える。	12	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績  ・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
3	1	藤野先生	・翻訳文学の文章を読み、文体・時代性・心理などを自信と対比しながら味わう。	「私」が出会った藤野先生の人間像と「私」の思いとを、時代背景に注意し、表現に即して読み取る。	6	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	2	日本人の美意識	・日本の美意識の特質を理解し、それが生活行動や生活感覚にまで及んでいることについて考える。	図を適切に参照して本文中の対比を捉え、日本と西欧の美意識の違いを理解する。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績
	3	地図の想像力	・提示された問題について考え、自分の見解や意見を持ち、それを自分の言葉で表す。	論理的文章を読んで、それに対する自分の考えを意見文に書く。	9	・授業の取り組み姿勢、応答と発問、意見発表の意欲との確さ、課題の提出、ノートの整理、小テスト・定期考査の成績

教科名	国語	科目名	古典B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(文芸大学)	履修形態	必修	
科目の目標	古典としての古文と漢文を読解し、鑑賞する能力を養うとともに、ものの見方、感じ方、考え方を広くし、古典に親しむことによって人生を豊かにする態度を育てる。					
学習内容の概要	古文および漢文を読解し鑑賞するために、読み、語句、文法事項、表現上の特色等を理解して古典に親しみ、文章に現れた思想、感情、古典常識を通してもの見方、感じ方、考え方を豊かにし、日本文化との関係について考える。以上の観点から指導し、共通テストに対応できる学力を身につける。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	話す・聞く能力	書く能力	読む能力	知識・理解	
	言語文化や伝統に対する関心を深め、国語を尊重する姿勢を持ち、進んで古典に親しもうとしている。	古典に表れた思想や感情の特徴、表現上の特色などについて、筋道を立てて自分の考えをまとめ、発表したり話し合ったりすることができる。	学習した古典の作品について、積極的に情報を収集・活用して進んで表現することで、自分の考えをまとめるとともに深めることができる。	文章や作品の内容を構成や展開に即して的確に捉えることができる。また、古典に表れた思想や感情を読み取り、ものの見方・感じ方・考え方を豊かにすることができる。	古典の理解に役立てるための音声・表記・語句・語彙・漢字等を理解し、知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書:『精選古典B改訂版』(三省堂) 機関教材:『体系古典文法』(教研出版) 『体系古典文法 準拠ノート』(教研出版)『新明説漢文』(尚文出版)『重要古文単語315』(桐原書店)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	(古)説話 ・十訓抄 ・宇治拾遺物語 ・古今著聞集	・説話に対する理解を深め、古文に親しむ態度を育てる。	◆助動詞の復習 文法事項を踏まえながら、展開や心情を適切に読み取る。 ◆1年次の復習 漢文に親しむとともに、登場人物の考え方や話の面白さを読み取る。	9 9	語句や表現に即して、説話の展開を読み取ろうとしている。 助動詞の用法を理解する。
	5	(漢)小話 ・牛乳狂想曲 漢口枕 ・染上君子 病入膏肓	・短い文章を読み、漢文の面白さを味わう。	12	話の面白さを味わい、登場人物の生き方などについて考えようとする。 基本的な句法を理解する。	
	6	不顧後患 紀昌貴虱 畏饅頭	・句法に注意しながら正確な理解をする。	12	筆者の人生観や人間観を読み取っている。 形の上で紛らわしい語を文法的に識別できる。	
	7	(古)隨筆(一) ・徒然草・方丈記	・各章段の主題を現代に当てはめ自分自身の考え方、生き方を振り返る。	3	漢詩の詩形や押韻、対句などについて理解する。 それぞれの漢詩が表現している内容や情感を理解する。	
2	8	(漢)漢詩(近体詩) 鹿柴 宿建德江 春夜洛城聞笛 別董大 涼州詞	・漢詩の種類とその特徴を理解する。	12	文章を通して、登場人物の行動と心情を読み取る。 基本的な敬語法について理解する。	
	9	送友人月夜 (古)物語(一)	・登場人物の人間関係を正確に掴み、微妙な心理の変化を理解する。	12		
	10	・竹取物語 ・伊勢物語 ・大和物語				

11	(漢)史伝 ・鴻門之会 ・四面楚歌	・古代中国の歴史の面白さを味わい、登場人物の魅力を味わう。	話の展開を読み取るとともに、歴史のおもしろさや登場人物の魅力について話し合う。	12	著名な逸話について興味を持ち、内容を深く知ろうとする。 『史記』や司馬遷について理解する。
12	(古)隨筆 ・枕草子	・各章段の主題を現代に当てはめ自分自身の考え方、生き方を振り返る。	古典に表れた人間の生き方や考え方について、文章中の表現を根拠に話し合う。	12	筆者の美意識や機知を読み取る。 当時の宮廷生活を理解しようとする。
1	(漢)思想 儒家・道家の思想 ・論語・孟子・荀子	・一語一句の意味、語順、文脈に注意しながら内容を正確に読解する。	◆願望・抑揚◆選択個々の相違点を意識し、儒家・道家の主張について考える。	6	簡潔な表現や巧みな比喩に注目しながら、内容を的確に読み取り、思想を理解する。
2	老子・莊子 (古)物語(二) ・源氏物語	・登場人物の人間関係を正確に掴み、微妙な心理の変化を理解する。	登場人物の心情を場面に応じて読み取る。	9	物語の内容を理解するとともに、興味関心を高める。 紛らわしい敬語法を正確に読み取る。
3	・大鏡	・敬語について正しい理解を得る。	歴史の流れの中で、登場人物の境遇や心情を読み取る。	9	歴史物語の特徴と文学的意義を理解する。

教科名	地理歴史	科目名	日本史B	単位数	3 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学)	履修形態	必修	
科目的目標		<p>我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。</p> <p>原始・古代から現代に至る歴史の展開を、同じ地理歴史科の世界史や地理との関連を一層重視して、国内外の地理的条件やアジアを含む世界史的視野に立ち、政治、経済、社会、文化、国際環境など歴史を構成する要素を統合した幅広い見方で大きく把握させる。同時に、各時代の国家・社会の特色や時代の変遷に関する総合的な考察を通じて、我が国の文化がどのような特色をもち、どのような伝統が形成されてきたかについての認識を深めることを重視している。その際、諸事象の本質をその歴史的な形成・展開の過程の実証的な考察によってとらえる歴史的な見方や考え方を身に付け、歴史的な思考力の育成を図るとともに、国際社会に主体的に生き平和的で民主的な国家・社会を形成する日本国民としての自覚と資質を養うことがこの科目のねらいである。</p>				
学習内容の概要		<p>1 「原子・古代の日本と東アジア」では、旧石器時代から平安時代までを扱い、原始社会の特色及び古代国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史と史料」では、歴史が諸資料に基づいて考察され、叙述されていることの理解を図ると同時に、歴史への関心を高め、文化財保護の重要性に気づかせる。</p> <p>2 「中世の日本と東アジア」では、中世国家と社会や文化の特色について、東アジア世界の動向と関連付けて考察させる。なお、この大項目における「歴史の解釈」では、諸資料を活用して、歴史的事象の推移や変化、相互の因果関係を考察するなどの活動を通じて、歴史の展開の置ける諸事象の意味や意義を解釈させる。</p> <p>3 「近世の日本と世界」では、近世国家と社会や文化の特色について、国際環境と関連づけて考察させる。なお、この大項目における「歴史の説明」では、歴史的事象には複数の歴史的解釈が成立立つことに気付かせ、それぞれの根拠や論理を踏まえて、筋道を立てて考えを説明させる。</p>				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)		a. 関心・意欲・態度	b. 思考・判断・表現	c. 資料活用の技能	d. 知識・理解	
		<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の歴史展開に関心と問題意識を高めているか。</li> <li>・民主的、平和的国家。社会の一員としての自覚を深め、現代日本社会に生きる意欲を高めているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史の知識を踏まえて、現代日本の課題を歴史的視点から考察しようとしているか。</li> <li>・追求し、考察した過程や結果を適切な方法で表現しているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史の基本的な事柄に関する諸資料を様々な方法で収集しているか。</li> <li>・日本史の理解に必要な情報を主体的に選択して活用し、歴史的事柄を追求する方法を身に付けているか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本史を理解するために必要な知識を身に付けているか。</li> <li>・日本史と世界史を関連づけながら理解しているか。</li> <li>・地域の歴史と日本史の関連を理解しているか。</li> </ul>	
教科書、教材など		教科書:詳説日本史B(山川出版) 補助教材:日本史のライブラリー(とうほう)				
授業形態		講義・演習(学級単位による授業)				
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	第I部 原始・古代	人類文化の発生を考え、日本列島における旧石器文化・縄文文化の時代の社会を理解する。	・図表を理解しながら、原始的な生活や文化を総合的に理解させる。	9	日本列島における旧石器文化・縄文文化の成立を自然環境の変化や大陸との影響に着目してとらえることができたか。
		第1章 日本文化のあけぼの 1. 文化的始まり 2. 農耕社会の成立 3. 古墳とヤマト政権	古墳時代後期～終末期の変容と、ヤマト政権の政治制度を理解する。	・稻作の普及が国家の成立につながる過程を遺構と結びつけながら理解させる。  ・大陸文化の影響を直後に受けていることをおさえ、文化の新たな展開につなげさせる。		古墳時代から終末期にかけての文化・生活の変化、大王を中心とする政治制度を踏まえ、ヤマト政権を総合的に理解できたか。

	第2章 律令国家の形成 1. 飛鳥の朝廷 2. 律令国家への 3. 平城京の時代 4. 天平文化 5. 平安王朝の形	律令国家が成立するまでの政治の動向と白鳳文化の形成過程について考察し、律令に基づく国内統治体制について理解する。	・文化史ではセンター試験を考慮し、教科書の写真等を利用して視覚による理解も深めさせる。	12	血縁関係の推古天皇による政権運営や飛鳥文化の形成、律令体制の過程と白鳳文化の形成過程や大宝律令に基づく、統治組織・官僚制・土地と民衆の把握・税制及び密教芸術が生まれた弘仁・貞觀文化の意義を理解できたか。
	第3章 貴族政治と国風文 1. 摂関政治 2. 国風文化 3. 地方政治の 展開と武士	摂関政治の成立過程と政治運営への影響について考察し、新しい貴族文化として国風文化が展開されたことを理解する。	・寺院や仏像のプリントを配布して視覚から特徴を理解させる。 ・藤原氏の台頭と国風文化の関連を考えさせる。	12	律令体制の変容の観点から摂関政治を考察し浄土教の出現による浄土の信仰の変容、かな文学の成立による国文学の発達に着目して、貴族の生活・文化や武士の反乱や成長などから中世社会の萌芽を見出すことを理解できたか。
2	第 II 部 中世 第4章 中世社会の成立 1. 院政と平氏の台 2. 鎌倉幕府の成 3. 武士の社会 4. 蒙古襲来と 幕府の衰退 5. 鎌倉文化	院政期前後の土地支配形態を踏まえて、院政期の政治・経済・社会・文化を理解する。鎌倉幕府が東国の地方政権から全国的な武家政権に成長していく過程や鎌倉仏教が成立するなど、文化の新しい機運が生まれたことを理解する。	・激動の時代、宗教・思想・文学が人を動かし社会を変える力を持つことを、資料集等を用いて理解を深めさせる。	3 12	院政期の政治構造や経済・社会・文化・外戚関係や日宋貿易の展開、平氏政権の特性、封建制度の成立、文永の役・弘安の役、得宗専制政治の展開、農業・商工業の発達による社会の変動、永仁の徳政令の発布、鎌倉仏教の多様な動きの社会的・思想的な意義やその影響について考察できたか。
10	第5章 武家社会の成長 1. 室町幕府の成立 2. 幕府の衰退と 庶民の台頭 3. 室町文化 4. 戦国大名の登場	南北朝の動乱から室町幕府の成立と安定について、日本諸地域の動向などを踏まえ、幕府の動搖や武家文化と公家文化及び大陸文化と伝統文化の関わりについて理解する。	・室町時代は社会背景をもとに、大きく文化の特色が異なることを理解させる。	12	建武政権の成立と崩壊を踏まえ南北朝の動乱を考察し、守護大名に着目して室町幕府の機構の確立、日明貿易・日朝貿易の展開、土一揆の発生、南北朝・北山・東山文化を通じ、武家・公家文化の融合、禅文化の果たした役割などを踏まえ、能・狂言・茶の湯・生け花などを理解できたか。
11	第III部 近世 第6章 幕藩体制の確立 1. 織豊政権 2. 桃山文化 3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造	大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、欧州人の東アジアへの進出とその影響や幕藩体制の確立期の兵農分離や村落・都市支配などを理解する。	・織豊政権下の文化との関連でその特色を学ばせる。	12	鉄砲やキリスト教の伝来、南蛮貿易の展開を踏まえてヨーロッパ世界との接触とその影響、検地や刀狩、織豊政権の統一過程と桃山文化が幅広い国際性を持ちつつ、生活文化の中に溶け込んでいったこと、秀吉の朝鮮侵略や南蛮文化にも着用して考察できたか。

3	12	第7章 幕藩体制の展開 1. 幕政の安定 2. 経済の発展 3. 元禄文化	17世紀後半から18世紀前半までの幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で理解する。  ・身分社会を維持するため、儒学が果たした役割を資料集で深め、特に幕府の禁教・仏教界策を中止させる。	9  9
2	1	第8章 幕藩体制の動搖 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期 の文化 3. 幕府の衰退と 近代への道 4. 化政文化	農村や都市の変容により幕藩体制が動搖する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考える。  ・上方文化の背景を学び、その代表作家や作品、なぜ文化の担い手が町人に移ったのか、その背景を学ばせる。  ・幕府の政策と洋学の発達との関連を学ばせる。  ・伝統文化の否定、その再発見に重点をおき学ばせる。	9  9
				文治政治への転換から元禄時代・正徳の政治を取り上げ、幕政の安定過程や農業技術の進歩に伴う農業生産の進展、貨幣・金融制度の確立による商品経済・流通の発達、三都の発達、元禄文化について、町人の経済的繁栄や商業活動の拡大、幕府の教學として発展する儒学に着目し、文学・学問・美術を踏まえて考察できたか。

教科名 対象学年	地理歴史 第2学年	科目名 対象コース	世界史A 研志コース	単位数 履修形態	2単位 必修
科目の目標	1 近現代史を中心とする世界の歴史を、わが国の歴史と関連付けながら理解させる。 2 人類が直面する課題を政治・経済・文化・生活など様々な観点から考察させることによって、歴史的思考力を育てる。 3 国際社会に主体的に生きる日本人としての自覚と資質を育成する。				
学習内容の概要	近世以前の諸地域世界の特質をつかんだ上で、大航海時代を背景にアジア世界とヨーロッパ世界が接触や交流・進出を深め世界が一体化に向かいはじめる状況を概略的に把握する。また、近現代史以降一体化がさらに進んでいく状況を、わが国と関連付けながら歴史的に理解し、あわせて人類の今後の課題について具体的に考察する。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	a.関心・意欲・態度  近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追求するとともに、国際社会に主体的に生きる国家・社会の一員としての責任を果たそうとしている。	b.思考・判断・表現  近現代史を中心とする世界の歴史から課題を見出し、世界史的視野にたって多面的・多角的に考察するとともに、国際社会の変化を踏まえ公正に判断している。	c.資料活用の技能  近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して活用することを通して歴史的事象を追求する方法を身につけるとともに、追及し考察した過程や結果を適切に表現している。	d.知識・理解  近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解し、その知識を身につけている。	
教科書、教材など	教科書 明解 世界史A（帝国書院） 副教材 明解 世界史Aノート（帝国書院）				
授業形態	講義形式・グループ学習(学級単位による授業)				
年間授業計画					
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間
1	4	1部 世界の一体化と日本 1章 前近代の諸文明 序節 人類の始まり  1節 東アジアの文明	各地域世界が形づくられていく過程を理解する。  東アジアを通して、日本を含む東アジアの文明の特質を理解する。	人類の登場と、農耕・牧畜による食料生産革命。人類が文明を築き、歴史時代へはいっていくありさまを概観。  東アジアの風土と諸民族、封建制度、漢字文化圏、儒教思想、律令体制、文治主義、冊封体制。	6  【関】食料生産革命、文明の成立などについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、人類史について考えようとしている。 【思】この時代について考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】先史時代について概観し、人間の進化を把握するとともに、基本的知識を身につけている。  【関】東アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】日本を含む東アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。

	5	2節 南アジアの文 3節 東南アジア 4節 西アジア・北アフリカの文明	南アジアの文明の特質を理解する。 東南アジアの特質を理解する。 西アジア・北アフリカの文明の特質を理解する。	南アジアの風土と諸民族と宗教。仏教、ヒンドゥー教、イスラームの影響。 自然環境や地理的位置に着目。インドと中国の両文明の影響の様子。それぞれの地域での多様な社会と文化。 西アジア・北アフリカの風土と諸民族。イスラームの成立と拡大・分裂。	6	【関】南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、南アジアの特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南アジアの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。  【関】東南アジアについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、東南アジア世界の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】東南アジアの特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。
	6	5節 ヨーロッパの文明 6節 南北アメリカの文明 7節 ユーラシアの交流圏	ヨーロッパの文明の特質を理解する。 南北アメリカ大陸において独自の文化が築かれていたことを理解する。 ユーラシアの交流圏が成立していくようすを巨視的かつ視覚的に把握し、相互の文化受容の進展について理解する。	ヨーロッパの風土と諸民族。ギリシア・ローマ文明の伝統。キリスト教の発展。封建社会。 南北アメリカ大陸の風土と先住民。ヨーロッパが進出する以前の南北アメリカ大陸独自の文化。 ユーラシア規模の交流圏が成立していくようす。	8	【関】ヨーロッパについて関心を高め、意欲的に追究するとともに、ヨーロッパ文明の特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。  【関】南北アメリカの独自の文明に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、特質について考えようとしている。 【思】特質を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】南北アメリカの文明の特質を構造的視野から把握し、基本的知識を身につけている。  【関】ユーラシアの交流圏のに対する関心を高め、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ユーラシア規模の交流圏の成立とそれを支えた内陸および海域(都市や港市)のネットワークを把握し、基本的知識を身につけている。

	7	2章 一体化に向かう世界 1節 繁栄するアジア	アジア諸地域の安定した支配と経済の繁栄を背景に、文化も黄金時代を迎えたことを理解する。	アジアのティムール・オスマン・ムガル・明・清などの諸帝国の政治と社会と文化。	8	【関】アジア諸地域に対する関心を高め、意欲的に追究し、その特色について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】成熟期を迎えたアジア諸地域の特色を理解し、その知識を身につけている。
2	8	2節 大航海時代と新たな国家の形成	16世紀頃から始まった世界の一体化への動きと新たなヨーロッパのわく組みとなった主権国家体制の形成について理解する。	ルネサンスと宗教改革、新航路の開拓。16世紀頃から始まった主権国家体制の形成。	2	【関】16～18世紀にかけてのヨーロッパ世界に対する関心を高め意欲的に追究し、考察しようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパではルネサンスと宗教改革、新航路の開拓を経て主権国家体制が形成され、アメリカではヨーロッパによる征服と入植・開発が先住民社会の変質を余儀なくしたこと、またアジア貿易への参入やメキシコ銀の流入がヨーロッパ経済の成長と転換をもたらしたことを把握し、その知識を身につけている。
9	3章 欧米の工業化とアジア諸国の動揺 1節 ヨーロッパとアメリカの諸革命	市民社会および国民国家の形成が進行したことを理解する。	アメリカ諸国の独立、フランス革命、産業革命。西ヨーロッパとアメリカの産業社会。	8	【関】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命に対する関心を高め、意欲的に追究し近代世界が確立したことについて考えようとしている。 【思】社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを判断して、一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用して、社会の産業化と国民国家の形成により近代世界が確立したことを考察する技能を身につけている。 【知】18世紀後半から19世紀にかけてのヨーロッパとアメリカの諸革命について理解し、その知識を身につけている。	
10	2節 自由主義・ナショナリズムの進展 3節 アジア諸国の動揺	自由主義とナショナリズムが進展していくようすとアメリカの発展について理解する。  アジア諸国の動揺のようすを理解する。	19世紀後半のヨーロッパ、アメリカ社会。  オスマン帝国の弱体化やムガル帝国の崩壊。ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況。植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。伝統文化の変容。	8	【関】1848年頃に関心を持ち、意欲的に追究し、考えようとしている。 【思】1848年頃を考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】1848年頃のを資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】1848年を転換点として、自由主義とナショナリズムが進展したことを理解し、その知識を身につけている。  【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国のアジア進出とアジア諸国の状況など、アジア諸国の動揺を理解し、その知識を身につけている。	

	11	4節 東アジアの大変動	東アジアの大変動を理解する。	アヘン戦争やアロー戦争。東アジアの伝統的な国際秩序が崩壊していく過程。ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況。半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折。	8	【関】ヨーロッパの進出によって引き起こされた変貌に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質について考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】ヨーロッパ諸国の東アジア進出と東アジア諸国の状況、半植民地化や従属化の過程での抵抗と挫折、その中の日本の対応など、東アジアのようすを理解しその知識を身につけていく。
	12	2節 第一次世界大戦がもたらしたもの	20世紀という時代の特質を把握するとともに、世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解する。	交通革命。マス＝メディアの発達。企業や国家の巨大化。社会の大衆化と政治や文化の変容。公教育の普及と国民統合。世界の変容。	8	【関】19世紀社会の急激な変化と世界の一体化に対する関心を高め、意欲的に追究するとともに、その特質を人類史的視野から考えようとしている。 【思】考察し判断した過程や結果を適切に表現している。 【技】資料を収集し、適切に活用する技能を身につけている。 【知】20世紀という時代の特質を人類史的視野から把握するとともに、人口移動から世界の支配・従属関係を伴う一体化と社会の変容を理解しその知識を身につけていく。
3	1	3節 “民族自決”を求めて	“民族自決”を求めたアジアのナショナリズムの動きを理解する。	第一次世界大戦。ロシア革命、ソヴィエト連邦の成立。戦争と革命による国際秩序の変化。アメリカの大衆生活とその波及。	4	【関】第一次世界大戦、平和の意義などに対する関心を高め意欲的に追究するとともに、20世紀初頭の変化の様相について考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦の原因と性格、ロシア革命の展開と影響、戦争と革命による国際秩序の変化、国際協調とヴェルサイユ体制、アメリカ的生活様式の資本主義社会への普及について理解し、その知識を身につけていく。
		4節 経済危機から第二次世界大戦へ	第二次世界大戦と20世紀前半の国際政治の流れを概観し、国際関係の変遷と社会の特質を理解する。	インド・中東および東アジアの民族運動。アジアのナショナリズム。		【関】民族運動に対する関心を高め意欲的に追究するとともに、アジアのナショナリズムの動きについて考えようとしている。 【思】考察し一連の思考の過程を適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけている。 【知】第一次世界大戦後の民族運動の動向が世界史の新しい潮流をつくり出したことを理解し、その知識を身につけていく。

	2	2章 冷戦から地球社会へ 1節 冷たい戦争の時代	第二次世界大戦後の米ソ対立、アジア・アフリカの民族運動と独立を理解し、核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題などについて考察する。	第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立。アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立。核兵器問題やアジア・アフリカ諸国が抱える問題。	6	【関】大戦後の世界動向について関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけています。 【知】第二次世界大戦後の米ソ両陣営の対立、アジア・アフリカの民族運動と植民地支配からの独立、平和共存と多極化の進展などを通して、1970年頃までの世界の大きな動向について理解しその知識を身につけています。
	2	2節 冷戦終結への道のり	米ソ冷戦の終結などから、世界が大きく変容し、今日に至っていることを理解する。	米ソ冷戦の終結。世界の変容。	6	【関】1970年代以降世界の大きな変容に対する関心を高め、意欲的に追究し考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけています。 【知】市場経済の世界化、米冷戦の終結などから、1970年代以降の世界の大きな変容について理解し、その知識を身につけています。
3	3	3節 地球社会への歩み	日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向を模索し、これからの中の国際社会における日本の役割について考察する。	冷戦終結後の世界の政治・経済の動向。これからの中の国際社会における日本。	6	【関】これからの中の国際社会における日本の役割、共存する方向について考え、国際社会に生きる日本人としての自覚をもとうとしている。 【思】考察し判断した過程や結果について適切に表現している。 【技】資料を収集し適切に活用する技能を身につけています。 【知】冷戦終結後の世界の政治・経済の動向、これからの中の国際社会における日本の役割、日本が世界の諸国・諸地域と多様性を認め合いながら共存する方向について理解し、その知識を身につけています。

教科名	保健体育	科目名	体育	単位数	2 単位
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	必修
科目の目標	○心と体の成長 ○各種の運動に取り組むことで、生涯体育への意識を身につける ○安全面に配慮し、ケガや病気をせずに健康的な生活を送る習慣を身につける				
学習内容の概要	体づくり運動、体ほぐし、体力を高める運動、各種目における基本技能の習得、各種目のルール等の知識習得、生徒の自主性によるゲーム運営と安全への意識の向上。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度	思考・判断	運動技能	知識・理解	
	運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるように、自ら進んで計画的に運動しようとする。	自己やグループの能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指し、活動の仕方を考え、工夫している。	自己の能力と各種運動の特性に応じた技能を高め、体力向上のための合理的な行い方を身につけている。	運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解し、知識を身につけている。	
教科書、教材など	特になし				
授業形態	実技(男女別合併授業)				

### 年間授業計画

学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション	年間計画を十分に理解し、授業に積極的に参加できるようにする。	授業の内容、方法、評価などについて説明する。	6	授業中の行動の観察
	5	体育理論	運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解できるようにする。	運動とスポーツの技術と技能、技能の上達、技能と体力関係。		授業中の行動の観察
	5	体つくり運動	体つくり運動の特性を理解し、体をほぐしたり体力を高めたりする。	実生活に生かす様々な体ほぐしの運動を組み合わせて行う。	6	評価テスト(総時数6時間) 授業中の行動の観察 実技テスト
	6	新体力テスト	自己の体力と運動能力を把握する。	正しい測定を行い、自己の能力診断をする。		診断テスト結果
	6	陸上競技	自己の能力に応じて運動技能を高め、競技したり記録を高める。	各種目の基本技能の習得。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
	7	バレー ボール ソフトボール	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようにする。	基本動作を習得し、仲間と連携した動きでゲームが展開できるようにする。	8	授業中の行動の観察 実技テスト
2	8				2	
	9				8	
	10	サッカー			8	授業中の行動の観察
	11	バスケットボール			8	実技テスト
	12				8	

3	1	バドミントン	自己の能力に応じて運動技能を高め、作戦を生かした攻防を展開してゲームができるようとする。	状況に応じたシャトル操作や安定した用具の操作が出来るようとする。  ダンスの特性を理解し、基本動作やリズム感、協調性を養うようとする。	4	授業中の行動の観察 実技テスト	
	2	ダンス	感情をこめて踊ったり、仲間と楽しく踊ったりし、発表できるようとする。		6	授業中の行動の観察 作品の評価	
	3				6	※ 年間を通しての出席状況	

教科名 対象学年	保健体育 第2学年	科目名 対象コース	保健 研志コース	単位数	1単位
科目の目標	個人および社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していく資質や能力を育てる。				
学習内容の概要	②生涯を通じる健康 生涯の各段階において健康についての課題があり、自らこれに適切に対応する必要があること、および我が国の保健・医療制度や機関を適切に活用することが重要であることについて理解できるようにする。				
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	関心・意欲・態度		思考・判断	技能・表現	知識・理解
	健康に対する関心を持ち、健康を保持増進させるためには何が必要かを考え、実行できる態度が身についている。また、日々変化する健康問題について関心を持ち、自他の健康について考える意欲をもつ。		健康についての思考を深め、その日常での活用方法を適切に判断し、健康行動の適切な選択ができる。	保健の授業を通して、必要な基本的技能を習得し、実際の場面で適切な行動がとれるようになる。	保健に関する基礎的な知識や、ヘルスプロモーションの理念を理解できる。また、保健に関するさまざまな分野における知識を身につけ、その役割について理解できる。
教科書、教材など	教科書:最新保健体育(大修館書店)、最新保健ノート(大修館書店)				
授業形態	教室での一斉授業、グループ学習、ビデオ学習				

年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	単元2 生涯を通じる健康 ①思春期と健康	思春期における体の変化と心の発達にかかる健康課題を理解する。	性ホルモン、生殖器の発達 精神的な不安定	3	
	5	②性への関心・欲求と性行動	性意識の男女差、性情報が性行動の選択に影響を及ぼすことを理解する。	セクシュアルハラスメント 性情報と性行動		
	6	③妊娠・出産と健康	妊娠・出産の過程における健康課題を理解する。	母子健康手帳 母子保健サービス	3	
	7	④避妊法と人工妊娠中絶	家族計画の意義と適切な避妊法を理解し、人工妊娠中絶が女性の心身に及ぼす影響を理解する。	家族計画 人工妊娠中絶	4	
	8	⑤結婚生活と健康	心身の発達と結婚生活の関係について理解する。	性機能の成熟 精神面での発達 健康状態の把握	4	
	9	⑥中高年期と健康	中高年期を健やかに過ごすための社会的な取り組みを理解する。	健康診断 生きがい ノーマライゼーション	1	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
		⑦医薬品とその活用	医薬品の正しい使用法について理解する。	医療用医薬品 自然治癒力 お薬手帳	4	

10	⑥医療サービスとの活用  ⑨保健サービスとの活用	医療サービスをうける時の留意点を理解する。  保健行政の役割について理解する。	医療保険 インフォームド・コンセントとセカンドオピニオン  保健行政 保健サービス 健康相談	4	
11	⑩さまざまな保健活動や対策  单元3 社会生活と健康 ①大気汚染と健康	民間や国際機関などの保健活動や対策について理解する。  大気汚染の原因とその健康影響を理解する。	日本赤十字社の取組み WHOの取組み ヘルスプロモーション  大気汚染物質 ダイオキシン 地球温暖化	4	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
12	②水質汚濁、土壤汚染と健康  ③環境汚染を防ぐ取り組み	水質汚濁、土壤汚染の原因とその健康影響を理解する。  今日の環境汚染の特徴を理解する。	重金属 有機物 富栄養化  排出基準 環境基本法 産業廃棄物 環境負荷	4	
3	④ごみの処理と上下水道の整備  ⑤食品の安全を守る活動  ⑥働くことと健康	ゴミの処理の現状や、その課題について理解する。  食品の安全のため、消費者が行うべきことを理解する。  働く人の健康問題と労働災害の防ぎ方について理解する。	環境型社会  食品添加物 食品衛生監視委員 食中毒予防三原則  働き方の変化とストレス 労働災害 作業環境 健康管理	2 3	定期考查 ノートチェック 授業への取り組み A,B,C,Dで評価する
	⑦働く人の健康づくり	職場がおこなう健康増進対策と、余暇の大切さとその活用の仕方について理解する。	メンタルヘルスケア ワークライフバランス 余暇の確保	3	

教科名	芸術	科目名	音楽I	単位数	1 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修		
科目の目標	・音楽に対する興味・関心を深め、意欲的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。 ・音楽的感性・技能を身に付け、音楽の生み出す曲想やリズムなどの美しさを感じ取りながら表現する能力を養う。						
学習内容の概要	・音楽理論の基礎～音楽を学習する上での最も基礎的な音楽上の決り事について学習する。 ・実技～アルトリコーダーを使用し、独奏曲や二重奏曲をグループ学習で学ぶ。 ・鑑賞～バロック時代からの作曲家の紹介と、その作品を鑑賞する。 また、音楽に関わりの深い映画を鑑賞する。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	<b>意欲・関心・態度</b> 音楽を愛好し、音や音楽に関心をもち、意欲的、主体的に音楽活動を行い、その喜びを味わおうとする。		芸術的な感受や表現の工夫  感性を働かせて、音楽の諸要素を知覚し、音楽のよさや美しさを感じ取り創造的な音楽活動の工夫をする。	創造的な表現の技能  自己のイメージをもち創造的な表現をするための技能を身に付けている。	鑑賞の能力  多様な音楽を理解し、そのよさや美しさを創造的に味わう。		
教科書、教材など	MOUSA1(教育芸術社) アルトリコーダー						
授業形態	講義、実技、鑑賞						
<b>年間授業計画</b>							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
1	4	オリエンテーション アルトリコーダー実技	B♭ C♯の運指を覚える。	二重奏「小さな木の実」	3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。	
	5	6	音楽の歴史と鑑賞	古典派の作曲家とその音楽を理解する。  映画により、モーツアルトについて深く知る。	ハイドン モーツアルト ベートーヴェン  「アマデウス」	3 4 4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。  モーツアルトについてより深く知ることができたか。
	7	8	アルトリコーダー実技	読譜能力を高める。 レガート奏法を身につける。	二重奏「魔弾の射手」 二重奏「愛の喜び」	1 4	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。
	9	10	音楽の歴史と鑑賞	ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	シューベルト メンデルスゾーン J.シュトラウス ショパン 「陽のあたる教室」	4 4 4	作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。
11	12	鑑賞	映画と映画中の音楽を味わう。		4	映画と映画中の音楽を味わうことができたか。	
3	1	アルトリコーダー実技 鑑賞	F♯ D♯の運指を覚える。 ロマン派の作曲家とその音楽を理解する。	二重奏「少年時代」 ドボルザーク スマタナ	2 3 3	正確な運指と曲に合った表現がで演奏することができたか。  作曲家の生い立ちや時代背景を理解し、作品を味わうことができたか。	

教科名	芸術	科目名	美術Ⅰ	単位数	1単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	美術の幅広い活動を通して、生涯にわたり美を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、描写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、美術の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンドアート制作…砂を使った絵画技法を学び作画を行う。</li> <li>・水墨画…墨についての学習を通じ様々な表現法を身に付け、創作活動に生かす。名画や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</li> </ul>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度	芸術的な感受や表現の工夫	創造的な表現の技能	鑑賞の能力		
	美の創造的活動の喜びを味わい、美の伝統と文化に関心をもつて、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	墨、色砂のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な色彩表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	日常生活の美術の効用や美の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、美のよさや美しさを創造的に味わっている。		
教科書、教材など	高校生の美術Ⅰ（日本文教出版） スケッチブック、書道セット、サンドアートセット、半紙、和紙					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	オリエンテーション 水墨画の世界①	前年の学習を振り返るとともに、美の芸術的要素を理解し表現する。	「墨を知ろう」  「食べ物を描こう」  「人物を描こう」	3	墨の特性を踏まえ、水墨画の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。
	5		墨の技法について理解し、その特性を生かして作品に取り組む。		3	墨の明暗を美しく表現し、濃淡の用法を身に付け、表現することが出来たか。
	6	水墨画の世界② 砂絵、サンドアートの世界①	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。		4	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。
	7		サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。		4	砂絵の内容を踏まえ、砂の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。また、練習作品の制作で、技法を身に着けること
2	8	水墨画の世界② 砂絵、サンドアートの世界①	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。	「北斎漫画とは」 映像学習 「北斎なろう」	1	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。
	9		サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	「色砂に親しもう」  「模範作品を作ろう」	4	砂絵の内容を踏まえ、砂の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。また、練習作品の制作で、技法を身に着けること
	10		有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。	「北斎漫画とは」 映像学習 「北斎なろう」	4	映像の中から、その作者の技法を学び、表現することができたか。
	11		サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	「色砂に親しもう」  「模範作品を作ろう」	4	砂絵の内容を踏まえ、砂の芸術的要素を理解し、個性を活かした表現が出来たか。また、練習作品の制作で、技法を身に着けること
3	1	砂絵、サンドアートの世界①	有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。	「オリジナル作品を描こう」	2	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。
	2		サンドアートの作品や表現の多様性を理解し、用法を身に付け、表現する。	「オリジナル作品を描こう」	3	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。
	3		有名画家の技法を学習し、その技法を異なった画材で行い作品に取り組む。	「オリジナル作品を描こう」	3	グラデーション、混色など、様々な技法を使い表現が出来たか。

教科名	芸術	科目名	書道I	単位数	1 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース	履修形態	選択必修	
科目の目標	書道の幅広い活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、書写能力の向上を図り、表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。					
学習内容の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>漢字仮名交じりの書…高校での古典臨書を生かし、感興や意図に応じた題材(書く言葉)の設定や創造的な作品制作を行う。</li> <li>漢字の書…中国及び日本の名筆(古典作品)の臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> <li>仮名の書…日本の重要文化である仮名の発生と展開を理解し、また臨書学習を通じ様々な表現法や用筆法を身に付け、創作活動に生かす。</li> </ul> <p>古典や完成作品の鑑賞、批評会などの言語活動も適宜行う。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	意欲・関心・態度 書の創造的活動の喜びを味わい、書の伝統と文化に関心をもって、主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。	芸術的な感受や表現の工夫 書のよさや美しさを感じ取り、感性を働かせながら自らの意図に基づいて構想し、表現を工夫している。	創造的な表現の技能 創造的な書表現をするために、基礎的な能力を生かし、効果的な表現の技能を身に付け表している。	鑑賞の能力 日常生活の書の効用や書の伝統と文化について幅広く理解し、その価値を考え、書のよさや美しさを創造的に味わっている。		
教科書、教材など	書I(教育図書) 鳥取城北高校選定筆、固形墨、半紙					
授業形態	講義、実技、鑑賞					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	漢字の書の学習① 【楷書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、楷書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①顏氏家廟碑 ②鄭羲下碑 ③牛橛造像記 【創作】 古典を基にした一字創作	3	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、唐代、北魏時代の楷書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
	5			①争坐位文稿	3	
	6				4	
	7	漢字の書の学習② 【行書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、行書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①争坐位文稿	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、行草書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
2	8	漢字仮名交じりの書②	・学習した古典の用筆法に基づいた表現を行う。 ・感興や意図に基づく個性的な表現の工夫を行う。	「自作の高校生短歌を書こう」	1	短歌制作に意欲的に取り組み、表現においては古典を基にした、感興や意図に応じた表現の工夫ができたか。
	9				4	
	10				4	
	11	漢字の書の学習③ 【篆書・隸書の古典に学ぶ】	書の歴史や作者の人物像、表現の多様性を理解し、篆・隸書の用筆法を身に付け、表現する。	【古典臨書】 ①甲骨文②泰山刻石 ③曹全碑 書道カレンダーを作ろう	4	古典に関わる様々な背景を理解するとともに、篆書、隸書の用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
	12	創作活動			4	題材の選定に工夫を凝らし、言葉の内容に沿った自分なりの表現が出来たか。
3	1	仮名の書の学習	・仮名の歴史や諸要素を理解する。 ・仮名の用筆法を身に付け、表現する。	基本点画練習 【古筆臨書】 ①高野切第3種 ②寸松庵色紙 【創作】 古筆を基にした半紙創作	2	日本独自の伝統文化であるかなの歴史や古典の背景を理解するとともに、仮名の基本的な用筆法を身に付け、表現することが出来たか。
	2				3	
	3				3	

教科名	外国語	科目名	コミュニケーション英語Ⅱ	単位数	3 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	研志コース (大学進学分野)	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばす。 ① 英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成すること。 ② 英語を通じて、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする能力を伸ばすこと。					
学習内容の概要	(1) 生徒が情報や考えなどを理解したり伝えたりすることを実践するように具体的な言語の使用場面を設定して、次のような言語活動を英語で行う。 ア 事物に関する紹介や報告、対話や討論などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする。 イ 説明、評論、物語、随筆などについて、速読したり精読したりするなど目的に応じた読み方をする。また、聞き手に伝わるように音読や暗唱を行う。 ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合うなどして結論をまとめる。 エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、まとまりのある文章を書く。  (2) (1)に示す言語活動を効果的に行うために、次のような事項について指導するよう配慮するものとする。 ア 英語の音声的な特徴や内容の展開などに注意しながら聞いたり話したりすること。 イ 論点や根拠などを明確にするとともに、文章の構成や図表との関連などを考えながら読んだり書いたりすること。 ウ 未知の語の意味を推測したり背景となる知識を活用したりしながら聞いたり読んだりすること。 エ 説明や描写の表現を工夫して相手に効果的に伝わるように話したり書いたりすること。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:コミュニケーションへの関心・意欲・態度  コミュニケーションに関心をもち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	B:外国語表現の能力  英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	C:外国語理解の能力  英語を聞いたり読んだりして、情報や考え方などを的確に理解している。	D:言語や文化についての知識・理解  英語やその運用についての知識を身に付けているとともに、言語の背景にある文化などを理解している。		
教科書、教材など	Revised COMET ENGLISH Communication II					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	單元	單元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson1 Staying in Space	・宇宙での暮らしと地上との違いを知る。	that-節 相手の発言を確かめる表現 Are you sure?	9	A,C,D
	5	Lesson2 Doraemon in the U.S.	・アメリカに渡った日本の人気アニメ『ドラえもん』 日米での内容の違いを知る。	wantなど+(人)+to 不定詞 相手の情報・意見を聞く表現 How about you?	9	A,B,C,D
	6	Lesson3 Farm in the Sky	・シンガポールの新しい農法から未来の農業の可能性を考察する。	疑問詞+to-不定詞 言い直す表現 I mean~	12	A,B,C

	7	Lesson4 Goal Setting	・「目標倒れ」にならないための効果的な目標設定術を紹介	分詞構文(同時・時・理由) 相手をほめる表現 You did it!	12	B,C,D
	8	Lesson5 The High School Student	・高校生が運営するレストラン「まごの店」で働く生徒の日記から	形式主語 It 望みや気持ちを表す表現 feel like ~ing	3	A,B,C
	9	Reading 1 The Swing What are heavy?	英語の詩3編を鑑賞する		12	A,B
	10	Lesson6 Why Is It That Shape?	・5円硬貨、観覧車… 身近なモノの形にある理由を知る。	関係代名詞 what 理由を述べる表現 This is because ~	12	B,C,D
	11	Lesson7 Fuji, a Dolphin With a New Fin	・尾びれを失い泳げなくなつたイルカ、フジが人工尾びれで泳ぎを取り戻せるまで	過去完了形 (大過去・継続・完了・経験) 感情を尋ねる表現 How was ~?	12	B,C,D
		Lesson8 Do We Need	・日本のサービスは過剰? 外国の人々から見た考察	使役動詞(make/ let など) 相手の考えを尋ねる表現 What do you think of ~?		B,C,D
	12	Lesson9 Changing Feelings	・落ち込んだ時に気分を変える効果的な考え方とは	関係代名詞の継続用法 同情する表現 That's too bad.	12	B,C,D
	1	Lesson10 Ban Shigeru, Architect of Paper	・紙管を使った建築で世界的に有名な建築家坂茂さん	関係副詞 計画を伝える表現 I'm thinking of ~	6	B,C,D

教科名	外国語	科目名	英語表現Ⅰ	単位数	2 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	研志コース(大学進学)	履修形態	必修	
科目の目標	英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。					
学習内容の概要	<p>ア 与えられた話題について、即興で話す。また、聞き手や目的に応じて簡潔に話す。</p> <p>イ 読み手や目的に応じて、簡潔に書く。</p> <p>ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどをまとめ、発表する。</p>					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A コミュニケーションへの関心・意欲・態度  ・モデル会話を関心を持ち、聞き、発話しようとしている。 ・間違いを恐れず、積極的に表現しようとしている。 ・積極的にコミュニケーションを図ろうとしている。	B 表現の能力: 話すこと(S), 書くこと(W)  ・モデル会話を英語らしい発音で発話することができます。 ・例文を英語らしい発音で発話することができます。 ・自分のことや与えられた課題について話すことができる。 ・学んだ文法を使って、文章を書くことができる。 ・自分のことや与えられた課題について書くことができる。 ・紹介するトピックを決め、原稿を書くことができる。	C 理解の能力: 聞くこと(L), 読むこと(R)  ・モデル会話を英語を聞き、正しい解答を選べる。 ・発音に関する語句や英文を聞き、正しい解答を選べる。 ・パートナーの言ったことを、正しく聞き取れる。 ・つなぎの言葉の使い方を理解している。 ・パラグラフの構成を理解している。 ・文章の要点をつかむことができる。	D 言語や文化についての知識・理解  ・いろんなトピックについて、内容を理解することができます。 ・それぞれのページで学んだ文法を理解している。 ・学習した文法を理解し、知識として定着している。		
教科書、教材など	Vision Quest English Expression I Core (61 啓林館 英 I 330)					
授業形態	講義・演習(学級単位による授業)					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	Lesson 1 Do you like sports? スポーツは好き?	初対面での自然な会話の流れを学び、自己紹介や他者紹介ができる。	G 文の種類 F 相づちを打つ／聞き直す T 紹介 P イントネーション	6	(a) (c) (d) A-B-C-D
	5	Lesson 2 I study Japanese through anime アニメで日本語を学んでいます。	興味や関心を表す表現を学び、自らの興味・関心を紹介し、感想やおすすめの作品を伝えられる。	G 文型と動詞 F 言いかえる/話題を変える T 興味・関心 P リズム	6	(a) (c) A-B-C-D
	6	Lesson 3 Will you go home this summer? この夏は国に帰るの?	予定を尋ねたり伝えたる会話を学び、旅行のプランを作って、ペアで発表できるようになる。	G 時制 F 計画する/予定する T スポーツ P 母音①	8	(a) (b) (c) A-B-C-D

		Lesson 4 I've never played soccer before. サッカーはやったことがないんだ。	スポーツに関する表現を学び、スポーツ活動の経験を尋ねたり伝えたりできるようになる。	G 完了形 F 原因・理由を述べる T スポーツ P 母音②		(a) (c) (d) A-B-C-D
2	7	Lesson 5 The apple pie is delicious. アップルパイ、おいしいよ。	レストランでの会話表現を学び、食事の注文ができるようになる。	G 助動詞 F 許可を求める/依頼する T 食事 P 子音①	8	(a) (c) (d) A-B-C-D
	8	Lesson 6 I'm so glad I can see the Sydney Opera House. シドニー・オペラハウスが見られてすごくうれしい。	観光地や名所について説明を聞き、感想を表せる。観光地の案内ができるようになる。	G 受動態 F 喜ぶ/驚く T 観光 P 子音②	2	(c) A-B-C-D
	9	Lesson 7 Thank you for your invitation today. 今日はご招待ありがとうございます。	パーティで招待された時やプレゼントを渡す時、お礼をいう時の表現を学び、伝えられるようになる。	G 不定詞 F 感謝する/謝罪する T 交際 P アクセント	8	(a) (c) A-B-C-D
	10	Lesson 8 How about going together this weekend? 今週末、一緒に行かない?	娯楽への誘い方を学ぶ。趣味について話し合ったり、メールを書いていたりできるようになる。	G 動名詞 F 勧誘する／申し出る T 娯楽 P カタカナ語	8	(a) (b) (c) A-B-C-D
	11	Lesson 9 I'm unhappy with our school uniforms. 私は学校の制服が気に入らない。	学校の制服について賛成・反対意見を述べ合い、自分の意見を言うことができるようになる。	G 分詞 F 賛成する/反対する T ルール P 数字の発音	8	(a) (c) (d) A-B-C-D

	12	Lesson 10 That's why it looks so nice! それであんなに立派なんだ！	日米の冬の行事について紹介し、文化の違いについて話し合う会話を学び、日本の文化や行事の紹介ができる。	G 関係詞 F 説明する T 文化 P つながる音	8	(a) (c) A-B-C-D
3	1	Lesson 11 I hear the population of Japan is falling quickly. 日本の人口は急速に減っているって聞いたよ。	読書の必要性についての会話を学ぶ。日本の出生率の低下について自分の意見を表現できる。	G 比較 F 意見を述べる/主張する T 社会 P 変わる音	4	(a) (c) A-B-C-D
2	2				6	(a) (d) A-B-C-D
3	3	Lesson 12 I wish it were possible to get it back. 元に戻せたらいいんだけど。	悩み事についての会話でアドバイスの仕方を学ぶ。悩んでいる人への助言や提案ができるようになる。	G 仮定法 F 助言する/提案する T 悩み事 P 聞こえなくなる音	6	(a) (b) (c) A-B-C-D  評価対象 (a) 授業中の活動 (b) 発表 (c) 課題の提出 (d) 小テスト・定期考查
		復習	要点・要約の書き方 G : Grammar F : Function T : Topic P : Pronunciation			

教科名	数学	科目名	数学Ⅱ	単位数	4 単位		
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学)	履修形態	必修		
科目の目標	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに、それらを活用する態度を育てる。						
学習内容の概要	(図形と方程式)座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。 (指数関数・対数関数)指数関数及び対数関数について理解し、それらの事象の考察に活用できるようにする。 (三角関数)角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。 (微分・積分の考え方)微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。						
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A:数学への関心・意欲・態度	B:数学的な見方や考え方	C:数学的な表現・処理	D:数量・図形などについての知識・理解			
	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通じて、数学的な見方や考え方を身に付けている。	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考えにおいて、事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けていく。	図形と方程式、指数関数・対数関数、三角関数及び微分・積分の考え方における基本的な概念、原理・法則などを体系的に理解し、基礎的な知識を身に付けている。			
教科書、教材など	教科書:改訂版 新編 数学Ⅱ(数研出版) 補助教材:3TRIAL数学Ⅱまたは3TRIAL数学Ⅱ+B(数研出版)						
授業形態	講義・演習						
年間授業計画							
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価	
4	4	第1章 式と証明	3次の乗法公式及び因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解をする。整式の除法や分数式の四則計算について理解し、簡単な場合について計算をする。  等式や不等式が成立立つことを、それらの基本的な性質を証明する。	第1節 式と計算 1. 3次式の展開と因数分解 2. 2項定理 3. 整式の割り算 4. 分数式とその計算 5. 恒等式	12	A/B/C/Dの総合評価	
				第2節 等式・不等式の証明 6. 等式の証明 7. 不等式の証明			
	5	第2章 複素数と方程式	複素数の四則計算をする。二次方程式の解の種類の判別及び解と係数の関係について理解する。  因数定理について理解し、簡単な高次方程式の解を因数定理などを用いて求める。	第1節 複素数と2次方程式の解 1. 複素数とその計算 2. 2次方程式の解 3. 解と係数の関係	12		
				第2節 高次方程式 4. 剰余の定理と因数定理 5. 高次方程式			
6	6	第3章 図形と方程式	座標や式を用いて直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第1節 点と直線 1. 直線上の点 2. 平面上の点 3. 直線の方程式 4. 2直線の関係	16		
				第2節 円 5. 円の方程式 6. 円と直線			

				A/B/C/Dの総合評価
8			7. 2つの円 第3節 軌跡と領域 8. 軌跡と方程式 9. 不等式の表す領域	4
9	第4章 三角関数	角の概念を一般角まで拡張して、三角関数及び三角関数の加法定理について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 三角関数 1. 角の拡張 2. 三角関数 3. 三角関数のグラフ 4. 三角関数の性質 5. 三角関数を含む不等式	16
10			第2節 加法定理 6. 加法定理 7. 加法定理の応用	16
11	第5章 指数関数と対数関数	指教関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	第1節 指数関数 1. 指数の拡張 2. 指数関数	16
12	第6章 微分法と積分法	微分・積分の考え方について理解し、それらの有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	第2節 対数関数 3. 対数とその性質 4. 対数関数 5. 常用対数	16
1			第1節 微分係数と導関数 1. 微分係数 2. 導関数とその計算 3. 接線の方程式	8
2			第2節 関数の値の 4. 関数の増減と極大・極小 5. 関数の増減・グラフの応用	12
3			第3節 積分法 6. 不定積分 7. 定積分 8. 定積分と面積	12
			問題演習	

教科名	理科	科目名	地学基礎	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学クラス)	履修形態	選択必修	
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら地球や地学を取り巻く環境への関心を高め、目的意識を持つて観察、実験などを行い、地学的に探求する能力を育てるとともに、地学の基本的な概念や原理・法則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。					
学習内容の概要	1 惑星としての地球 2 活動する地球 3 大気と海洋 4 移り変わる地球 5 地球の環境 6 宇宙の構成					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A 関心・意欲・態度  自然の事物・現象に关心や探究心を持ち、意欲的にそれらを探求しようとするとともに、科学的な態度を身につけている。	B 思考・判断  地学や地学現象を通して、自然現象の中に問題を見出し、探求する過程を通して、事象を科学的に考察した考えを表現している。	C 技能・表現  地学や地学現象について、目的意識を持って観察・実験を行い、科学的に探求する能力と技術を身につけていく。	D 知識・理解  地学の基本的な概念や原理を理解し、科学的な知識や見方を身につけている。		
教科書、教材など	教科書:地学基礎(教研出版)					
授業形態	講義・演習形式の授業を主体とし、必要に応じて観察・実験を行う。					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	
1	4	第1編 惑星としての地球 第1章 太陽系の中の地球	太陽系の他の惑星と比較しながら地球の特徴を調べ、地球の誕生について理解する。	太陽系の天体 地球の誕生	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・太陽系の誕生、地球の特徴に A 関心を持っている。</li> <li>・太陽系の誕生、地球の特徴が D 理解できている。</li> </ul>
	5	第2章 地球の形と大きさ	地球の大きさに対するスケールを理解し、その歴史を踏まえて理解する。	地球の形と大きさ	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の形・大きさ・構造に興味 A を持っている。</li> <li>・エラトステネスの方法を通して B 地球の大きさを求められる。</li> </ul>
	6	第3章 地球の構造	固体地球の層構造や構成物質の化学組成を理解し、プレートの理解につなげる。	地球の構造	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球の内部構造について、化 B 学的・物理的に説明できる。</li> <li>・地球の内部構造について、化 D 学的・物理的な特徴を理解できている。</li> </ul>
		第2編 活動する地球 第1章 プレートの運動とそれに伴う現象	プレートの運動について理解し、火山活動と地震活動を総合的に理解する。	プレートテクトニクス プレート境界で発生する現象		<ul style="list-style-type: none"> <li>・震源、火山が特定の地域に分布していることとプレート運動との関連が理解できている。</li> <li>・火山活動について興味を持 A ち、その仕組みや原因をプレート運動と関連付けて知ろうとしている。</li> </ul>
	7	第2章 火山	マグマの性質と火山の噴火様式や火山地形との関係を理解する。	ホットスポットとプルーム 火山活動 火成岩	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・火成岩について興味を示し、そ A の観察に意欲的に取り組んでいる。</li> <li>・火成岩の観察・実習を通して鉱 C 物や組織を調べ、火成岩を分類することが出来ている。</li> <li>・火成岩の色調の違いについて D 整理され理解できている。</li> </ul>
	8	第3章 地震	プレートの沈み込み地帯で起こる地震現象を理解する。それに伴う変動地形と変成作用まで理解する。	地震 変動地形 変形作用	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地震発生の仕組みについてブ B レート運動と関連付けて説明、推論できている。</li> <li>・地震の存在を地球内部に原因 B があることを理解できている。</li> </ul>

2	9	第3編 大気と海洋 第1章 地球の熱収支	大気圏の構造とともに、太陽の放射エネルギーによる地球の熱収支について理解する。	大気の構造 地球全体の熱収支	8	・大気の構造と地球全体の熱収支について整理され、地球規模で熱が輸送されていることが理解できている。	D
		第2章 大気と海水の運動	太陽の放射エネルギーが大気の運動や気象の変化を起こすことを理解し、大気や海洋が熱収支のバランスにとって重要であることを理解する。	大気の大循環 海水の運動		・大気と海洋について、興味・関心を示している。 ・大気の大循環や海水の運動を緯度による太陽放射の受熱量と関連付けて考えることができている。	A B
10		第4編 移り変わる地球 第1章 地層の形成	地層が形成される仕組みや、地質構造を理解するとともに、地層を観察する方法を理解する。	堆積作用と堆積岩 地層の形成	8	・地層が形成される仕組みや地層や岩石の観察について興味・関心を示している。 ・地層が形成される仕組みや地層や岩石の観察について興味・関心を示している。 ・地層が形成される仕組みについて考えることが出来ている。	A B C
11		第2章 古生物の変遷と地球環境	地球と生命の関係の理解を深め、地球環境の変遷および地質台の区分や時間的なスケールを理解する。	地質時代の区分と化石 古生物の変遷	8	・地層や岩石の観察、実験を通じて、過去に起った出来事やその形成などに関する調べることが出来ている。 ・化石の観察を通して、地質時代の区分や地球環境の変遷について興味・関心を示している。 ・化石の観察を通じて地質時代の区分を調べることが出来る。 ・地球環境の移りわりと古生物の変遷が関連付けられて整理、理解できている。	D A C D
12		第5編 地球の環境 第1章 環境と人間	気候変動のような時間スケールの大きな現象を考える場合に、大気と海洋、雪氷を含む地表を全球的にとらえることが必要なことを理解する。		8	・地球環境の変化に気づき、興味・関心を示している。 ・地球環境の変化を人間生活を関連付けて科学的に考えることが出来ている。 ・自然環境の変化をデータを用いて科学的に考察することが出来ている。 ・地球規模の自然環境の変化が科学的に理解できている。	A B C D
		第2章 日本の自然環境	日本の自然環境の特徴を知るとともに、そこで起こっている災害を理解する。			・持続可能性について関心を示し、代替エネルギー等の活用に興味・関心を示している。	A

3	1 2	第6編 第1章 太陽と恒星	太陽のエネルギー源や構造、太陽の活動のようすなどについて学び、恒星の性質や進化の過程を理解する。	太陽の活動 太陽の一生と恒星	4 6	・恒星としての太陽の進化を考えることが出来ている。 ・太陽の表面の現象およびその特徴が理解できている。	A D
3	3	第2章	ビッグバンによる宇宙の誕生を理解し、宇宙の構造を知る。	宇宙の構造 宇宙の誕生	6	・宇宙の誕生に関心を持ち、地球の特徴を知ろうとする意欲を持っている。 ・銀河が分布している宇宙の広がりと構造を統合的に把握しようとしている。 ・太陽系から超銀河団までの階層の中で、それぞれの構造が理解できている。 ・宇宙の誕生からの時間の中で、水素やヘリウムの原子核が作られるなど、宇宙が進化していくことが理解できている。	A B D D

教科名	総合	科目名	地域探究	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(文・芸大学進学分野)	履修形態	選択必修	
科目の目標	課題を発見し、内容を探究し、整理したことを発表し、課題解決の手立てを考える。					
学習内容の概要	日常の生活や暮らしている社会の課題や現状を自ら探求し、内容を簡潔にまとめ、現状や課題に対して考えられる将来的な取り組みを研究する。さらに、それらを研究論文として発表する。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A. 関心・意欲・態度  地域が抱える課題に関心を持ち、未来を担う人間として何ができるかを主体的に考えることができる。	B. 思考・判断  課題を正しく認識し、客観的な視点をもって思考できる。また、多面的な視点から考えることで公平な判断ができる。	C. 技能・表現  意見や考えを論文にまとめて発表することができる。また、統計的数値やグラフ、表を用いて説明することができる。	D. 知識・理解  文献の使用の仕方や情報モラルについて理解する。さらに、ある課題について考えるためには多種多様な知識が必要であることを知る。		
教科書、教材など	タブレット					
授業形態	講義・AL型・ゼミ・実技					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評価
1	4	レポートの作成の基本  「レポートの種類と手順」  「レポートの課題設定」  「模擬レポート」  レポート作成 I	レポートの種類を知り、テーマに合った手法を理解する。  テーマを設定し、具体的な課題を発見する。	図書室・インターネットを用いて調べる。  「鳥取市の現状」、「歴史・文化」、「産業・伝統」、「自然・環境」からテーマを設定する。	6  6	A. 関心・意欲・態度  地域が抱える課題に関心を持ち、未来を担う人間として何ができるかを主体的に考えることができる。
	5	「課題設定」  「アウトライン作成」	模擬レポートを作成する。  課題を設定し、具体的な計画を立てる。	8  8	B. 思考・判断  課題を正しく認識し、客観的な視点をもって思考できる。また、多面的な視点から考えることで公平な判断ができる。	
	6	レポート作成 II  「調査と探求」	課題に対して、具体的に調査する。	2	C. 技能・表現  フィールドワークを通して実地調査を行う。	
	7				D. 知識・理解  プレゼンテーションソフトを用いて、意見や考えを発表することができる。また、統計的数値やグラフ、表を用いて説明することができる。	
	8					
2	9	レポート作成 III  「レポート作成」  論文作成 I	課題に適したレポート方法を選択し、まとめる。  視覚的効信憑性を高めるための手法を学ぶ。さらに、資料使用に付随する法律に関して理解する。	8  8  8  8		
	10	論文作成 II  データの収集	スクリーン等を用いた発表の方法を学ぶ。比較対象を用いて、課題や効果を強調する。	8  8  8  8		
	11					
	12					
3	1	発表	準備や練習の重要性を理解し、意見や考えを適切な表現と効果的な伝達方法で発表ができる。	4		
	2			6		
	3			6		

教科名	数学	科目名	数学B	単位数	2 単位	
対象学年	第2学年	対象コース	研志コース(大学進学)	履修形態	選択必修	
科目の目標	ベクトル、数列および確率分布と統計的な推測について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を伸ばすとともに、それらを活用する態度を育てる。					
学習内容の概要	《ベクトル》向きと大きさを持つベクトル量の概念を学び、それが力や速度などを表す指標となることを理解する。また、ベクトルを図示したり、加えたり引いたりするとはどういうことかを学ぶ。さらに、ベクトルの成分による表現方法や内積について考える。《数列》いろいろな規則性をもつ数列について調べ、数列の和や数学的帰納法について学ぶ。《確率分布と統計的な推測》数学Aで学んだ確率についてさらに深く理解を進める。次にいろいろなデータを整理して分析するための理論を学ぶ。					
科目の評価基準 (観点及びその趣旨)	A: 数学への関心・意欲・態度  ・多面的にものを見たり、理論性のあるいろいろな考えに触れたり、試行錯誤しながら考え、主体的に数学的な見方や考え方のよさを学ぼうとする。 ・身近な事象を数学化し、積極的に数学を活用しようとする。	B: 数学的な見方や考え方  ・数学的な見方や考え方のよさを認識できる。 ・自らの思考過程を振り返りながらより発展的に考え一般化して問題の本質を探ることができる。	C: 数学的な表現・処理  ・数学的な見方や考え方を生かし自分から工夫して問題を解決したり判断することができます。 ・設定した数学的な課題を既習事項や公理・定義等を基にして分析・整理し、数学的に考察したことを明確に表現することができる。	D: 数量・図形などについての知識・理解  ・数理的に考察し処理することのよさや既習事項などを体系的に整理し活用できる。 ・構成した数学的な知識の意味を考えたり、見いだした数学的な知識をいろいろな場面に活用できる。 ・文化や社会生活において数学が果たしている役割などを理解している。		
教科書、教材など	教科書:改訂版 新編 数学B(数研出版) 補助教材:問題集 3TRIAL 数学II+B(数研出版)、プリント教材					
授業形態	講義・演習					
年間授業計画						
学期	月	単元	単元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	
1	4	第1章 平面上のベクトル	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上のベクトルについてその意味、相等、加法、減法及び実数倍について理解させる。</li> <li>・ベクトルの演算については数の演算と類似の法則が成立つことを理解させる。</li> <li>・座標との関連において成分表示を取り扱い、ベクトルとその演算についての理解を深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有向線分とベクトル</li> <li>・ベクトルの表記</li> <li>・ベクトルの加法</li> <li>・零ベクトル</li> <li>・ベクトルの減法</li> <li>・ベクトルの実数倍</li> <li>・ベクトルの計算</li> <li>・ベクトルの平行</li> <li>・ベクトルの分解</li> <li>・ベクトルの成分表示</li> <li>・和、差、実数倍の成分表示</li> <li>・座標平面上の点とベクトル</li> <li>・ベクトルの内積</li> <li>・成分による内積の表示</li> <li>・ベクトルのなす角</li> <li>・内積の性質</li> </ul>	6	A/B/C/Dの総合評価
		第1節 ベクトルとその演算				
		1. ベクトル				
		2. ベクトルの演算				
	3. ベクトルの成分					
	5	4. ベクトルの内積			6	

1	6	第2節 ベクトルと平面図形  5. 位置ベクトル  6. ベクトルの図形への応用  7. 図形のベクトルによる表示  研究: 点と直線の距離	・位置ベクトルを活用することによって図形の性質の考察において形式的な処理ができる理解させいろいろな平面図形の性質の考察に位置ベクトルを活用できるようする。	・位置ベクトル ・内分点・外分点の位置ベクトル ・三角形の重心の位置ベクトル ・位置ベクトルの利用 ・直線上の点 ・内積の利用 ・ベクトルに平行な直線 ・異なる2点を通る直線 ・ベクトルに垂直な直線  補充問題 章末問題	8
		第2章 空間のベクトル  1. 空間の点  2. 空間のベクトル	・空間座標の概念を導入し、その意味や表し方について理解させる。 ・成分などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解させる。	・空間の点の座標 ・原点Oと点Pの距離 ・空間のベクトル ・ベクトルの分解 ・ベクトルの成分表示 ・和、差、実数倍の成分表示 ・座標空間の点とベクトル ・ベクトルの内積 ・ベクトルの垂直 ・位置ベクトル ・平面上の点の位置ベクトル ・内積の利用 ・2点間の距離と内分点・外分点の座標 ・座標平面に平行な平面の方程式 ・球面の方程式	
2	8	3. ベクトルの成分  4. ベクトルの内積	・内積や位置ベクトル、ベクトル方程式などの平面上のベクトルの考えを空間に拡張して空間ベクトルを理解させる。	・位置ベクトル ・平面上の点の位置ベクトル ・内積の利用 ・2点間の距離と内分点・外分点の座標 ・座標平面に平行な平面の方程式 ・球面の方程式	2
	9	5. ベクトルの図形への応用  6. 座標空間における図形		補充問題  章末問題	8
2	10	第3章 数列  第1節 等差数列と等比数列  1. 数列と一般項 2. 等差数列 3. 等比数列 4. 等差数列の和 5. 等比数列の和	・数列 $\{a_n\}$ について $n$ と $a_n$ との対応関係に着目し、数列の一般項の意味を理解させる。 ・等差数列と等比数列を理解させ、それらの一般項を求め、さらに第 $n$ 項までの和を求めるができるようにして、数列を身近な問題の解決などに活用できるようする。	・数列の表記 ・数列の一般項を $n$ で表す ・等差数列 ・等差数列の一般項 ・等差数列の性質 ・等差数列の和の公式 ・自然数の和、奇数の和 ・等比数列 ・等比数列の一般項 ・等比数列の性質 ・等比数列の和の公式  補充問題	8

	11	<p>第2節 いろいろな数列</p> <p>6. 和の記号 <math>\Sigma</math></p> <p>7. 階差数列</p> <p>8. いろいろな数列の和</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ある数列の一般項は、その数列の各項の階差に着目すれば容易に求められる場合があることを理解させる。</li> <li>数列<math>\{n\}</math>, <math>\{n^2\}</math>, <math>\{n^3\}</math>などの和を扱う。</li> <li><math>\{n(n+1)\}</math>などについて、第n項までの和を <math>\Sigma</math> を用いて表しその値を求めるができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自然数の2乗の和</li> <li>和の記号 <math>\Sigma</math></li> <li>和の記号 <math>\Sigma</math> の性質</li> <li>階差数列</li> <li>階差数列から一般項を求める</li> <li>数列の和と一般項</li> <li>いろいろな数列の和</li> <li>群に分けられた数列</li> </ul>	8	
2	12	<p>第3節 数学的帰納法</p> <p>9. 漸化式</p> <p>研究: 隣接2項間漸化式 隣接3項間漸化式</p> <p>10. 数学的帰納法</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列を漸化式で表現し、漸化式の意味を理解させ、簡単な漸化式を用いて表された数列の一般項を求めることができるようとする。</li> <li>自然数nを用いて表された命題を証明する一つの方法として、数学的帰納法の意味とその扱い方を理解させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>数列の漸化式と項</li> <li>漸化式から一般項を求める</li> <li>数学的帰納法の原</li> <li>等式の証明</li> <li>不等式の証明</li> </ul>	8	
	1	問題演習			4	
3	2				6	
	3				6	

教科名	芸術	科目名	芸術演習	単位数	2 単位	
対象学年	第 2 学年	対象コース	研志コース(文芸大進学)	履修形態	選択必修	
科目の目標	2年間で学んだこと、習得したことを整理し、それを簡潔かつ明快に表現できる。					
学習内容の概要	2年間で学んだこと、習得したことを整理する。受験に向け、志望校の実技演習を行う。					
科目的評価基準 (観点及びその趣旨)	A.関心・意欲・態度  志望校の特色や研究・学問に興味をもち、主体的に進路について考えることができる。	B.志向・判断  入学試験の準備を計画的かつ効率的に行い、自信をもつて試験に臨める。	C.技術・表現  デッサンの技術をさらに高め、また、自己理解を深め、より向上しようという姿勢がある。	D.知識・理解  志望校でどのような研究ができるのかを明確に理解し、それによって将来どのように社会に貢献できるか考えることができる。		
教科書、教材など	スケッチブック、鉛筆、木炭					
授業形態	講義・AL型・実技					
年 間 授 業 計 画						
学期	月	單 元	單元の目標	学習内容 (実験・実習等)	時間	評 価
1	4 5	デッサン	手、足などのデッサン		6 6	
	6	志望校・学科調べ ・学校の特色 ・取得できる資格 ・設備や環境 自己発見	志望校の特色や研究内容について調べ、志望校の魅力を具体的に述べる。 志望校と自身の学びとの適合性を客観的に把握する。	パンフレットや学校案内を取り寄せ、学校の特色を調べる。 テキストを用いて、自己表現の練習をする。	8	
	7				8	
	8	オープンキャンパス	志望校のオープンキャンパスに参加し、具体的な入試方法やエントリーについて把握する。	志望理由書の作成。	2	
2	9 10 11 12	模擬試験	過去の試験を参考にする。	時間内に完成に、近づける。	8 8 8 4	
3	1					